

琵琶湖博物館業績目録

第 18 号

2013 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2014 年 11 月

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No.18

From April 2013 to March 2014

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: YAMAKAWA, Chiyomi)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, November 2014

All rights reserved

目 次

収録内容	3
館長		
篠原 徹	SHINOHARA, Toru	5
上席総括研究員		
藤岡 康弘	FUJIOKA, Yasuhiro	8
上席総括学芸員		
用田 政晴	YODA, Masaharu	11
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi	15
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark Joseph	19
環境史研究担当		
山川 千代美	YAMAKAWA, Chiyomi	24
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi	27
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori	30
楊 平	YANG, Ping	34
井関 明子	ISEKI, Akiko	37
林 竜馬	HAYASHI, Ryoma	38
大久保実香	OKUBO, Mika	42
生態系研究担当		
松田 征也	MATSUDA, Masanari	45
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki	49
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro	52
安福 俊幸	YASUFUKU, Toshiyuki	56
亀田 佳代子	KAMEDA, Kayoko	58
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki	62
水谷 智	MIZUTANI, Satoshi	64
草加 伸吾	KUSAKA, Shingo	67
楠岡 泰	KUSUOKA, Yasushi	70
中井 克樹	NAKAI, Katsuki	74
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro	83
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James	86
菅原 和宏	SUGAHARA, Kazuhiro	88

博物館学研究担当

大塚 泰介	OHTSUKA, Taisuke	91
戸田 孝	TODA, Takashi	95
芦谷 美奈子	ASHIYA, Minako	98
中藤 容子	NAKATO, Yoko	101
金尾 滋史	KANAO, Shigefumi	104
澤邊 久美子	SAWABE, Kumiko	110
藤橋 和弘	FUJIHASHI, Kazuhiro	114
蜂屋 正雄	HACHIYA, Masao	117

嘱託員

池田 勝	IKEDA, Masaru	120
渡邊 潤子	WATANEBE, Junko	123

名誉学芸員

川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya	125
布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo	129
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	133
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi	134

特別研究員

天野 一葉	AMANO, Hitoha	135
植田 文雄	UEDA, Fumio	136
柏尾 珠紀	KASHIO, Tamaki	137
北村 美香	KITAMURA, Mika	139
黒岩 啓子	KUROIWA, Keiko	141
鈴木 隆仁	SUZUKI, Takahito	143
辻川 智代	TSUJIKAWA, Tomoyo	144
中野 聡志	NAKANO, Satoshi	145
中野 正俊	NAKANO, Masatoshi	147
林 博通	HAYASHI, Hiromichi	148
舟尾 俊範	FUNAO, Toshinori	149
朱 伟	ZHU, Wei	150

総合研究・共同研究による印刷物	152
-----------------	-----

2013年度の研究活動をふりかえって	153
--------------------	-----

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2013年4月から2014年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

【学術論文】

【専門分野の著作】

【一般向けの著作】

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

【インターネットページでの公表】

【研究プロジェクト等への参加】

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

【大学の講義・実習、学生の指導など】

【受賞など】

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

他の博物館・機関等主催行事

視察対応

メディアへの協力

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【企画調整活動】

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

印刷物

【一般向けの著作】

- 篠原 徹 (2013) 巻頭エッセイ 湖北の博物館. *み～な*, 118, 長浜み～な編集室: 2-3.
- 篠原 徹 (2013) 実録超結社蕪村忌大句会. *俳句*, 2013年5月号, 角川学芸出版, 東京都: 142-154.
- 篠原 徹 (2012) ごあいさつ. *琵琶湖博物館第21回企画展示図録「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」*, 滋賀県立琵琶湖博物館: 3.
- 篠原 徹 (2013) 記憶のなかの満州引揚者家族の精神生活誌. *引揚者の戦後, 叢書戦争が生みだす社会Ⅱ・関西学院大学先端社会研究所*, 新曜社, 東京都: 109-168.
- 篠原 徹 (2013) ごあいさつ. *琵琶湖博物館年報*, 17, 滋賀県立琵琶湖博物館: 1-2.
- 篠原 徹・福田アジオ (2013) 柳田國男と柳田家ー柳田為正インタビューの記録ー. *伊那民俗研究*, 20, 柳田國男記念伊那民俗学研究所: 2-12.
- 篠原 徹 (2013) 湖岸より 181 内湖を「沢」と呼んだ頃. *中日新聞*, 中日新聞社, 4月27日.
- 篠原 徹 (2013) 湖岸より 193 半栽培のヤナギタデ. *中日新聞*, 中日新聞社, 9月28日.
- 篠原 徹 (2013) 酒食同源の不思議な世界. *酒運び*, 社会評論社, 東京都: 23-43.
- 篠原 徹 (2013) 民間信仰のなかの動物. *虫愛でる国、日本 (Japan, lapassiondesinsects)*, エクス・アン・プロヴァンス自然史博物館: 8-9.
- 篠原 徹 (2013) 秋祭りの近代. *農業および園芸*, 10 (88), 養賢堂: 975-976.
- 篠原 徹 (2013) 花を詠む蕪村. *人と自然*, 6, 人間文化研究機構連携研究『人と自然』事務局: 7-10.
- 篠原 徹 (2013) 逸脱の民俗学者. *週刊読書人*, 読書人, 11月8日.
- 篠原 徹 (2013) 柳田國男の博物誌的思考ー民俗と生物地理ー. *伊那民俗研究*, 21, 柳田國男記念伊那民俗学研究所: 2-19.
- 篠原 徹 (2014) 不思議な場としての博物館. *研究所だより*, 87, 草津市立教育研究所: 1.
- 篠原 徹 (2014) *酒薫旅情*. 社会評論社, 東京都: 217p.
- 篠原 徹 (2014) 農用林としての里山と暮らし. *歴史・民俗からみた環境と暮らし*, 岩田書院ブックレット歴史考古学系H18: 33-47.
- 篠原 徹 (2014) 湖岸より 206 近江の伝統野菜「日野菜」. *中日新聞*, 中日新聞社, 3月29日.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金（基盤 B）「日本の博物館総合調査研究」（研究代表者：篠原 徹），研究代表者（2013～2015年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本民俗学会，理事，2012年10月～。

国立歴史民俗博物館研究報告，査読，1件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013年9月11日～2014年3月31日，岡山理科大学，「博物館学Ⅱ」。

2013年12月23日、龍谷大学、観光経営論「知的観光資源・博物館」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，2件。

2013年4月2日，琵琶湖博物館ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎―植物研究にかけた情熱―」，ギャラリー展示オープニングセレモニー，琵琶湖博物館，開会挨拶。

2013年7月20日，琵琶湖博物館第21回企画展示「生きものがたり ―生物多様性 湖国から 世界から―」，企画展示オープニングセレモニー，琵琶湖博物館，開会挨拶。

2013年7月30日，2013年度 博物館実習，琵琶湖博物館，挨拶。

2013年9月8日，2013年度 新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性」，琵琶湖博物館，開講挨拶。

2013年12月8日，淡海こどもエコクラブ活動交流会・表彰式，琵琶湖博物館，オブザーバー・選考委員。

2013年12月15日，日本の博物館・美術館における外国人利用の現状と課題，滋賀県博物館協議会第2回研修会，琵琶湖博物館，開会挨拶。

2013年12月22日，第4回琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会，琵琶湖博物館，開会挨拶。

2014年1月31日，滋賀の博物館・美術館逸品展「美と歴史のおもてなし」，滋賀県博物館協議会，京都文化博物館・京都市，挨拶。

2014年3月15日，交流会 西川嘉廣さんとヨシ博物館―これからの活用に向けて―，新空間展示，琵琶湖博物館，冒頭挨拶。

2014年3月22日，日中共同博物館・大学講演会「魚米之郷を語る―太湖・洞庭湖の水辺の暮らし―」，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，琵琶湖博物館・草津市，開会挨拶。

2014年3月23日，琵琶湖を味わう湖上フォーラム 誕生！琵琶湖八珍，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，琵琶湖湖上，コーディネーター。

他の博物館・機関等主催行事

2013年4月13日，不思議な場としての博物館―問題発見の面白さ―，みんなでつくる自然史博物館・香川，みんなでつくる自然史博物館・香川記念講演会，eトピアかがわBBスクエア（香川県高松市），講演。

2013年5月26日，柳田國男の博物誌的思考―民族と民俗地理，飯田市美術博物館・柳田國男記念伊那民俗学研究所，民俗文化講演会，飯田市美術博物館（長野県飯田市），講演。

2013年11月20日，俳句と鮎鮠，岡山学区まちづくり協議会，岡山塾，岡山コミュニティーセンター（滋賀県近江八幡市），講演。

視察対応

2013年8月19日，挨拶，スイス レマン湖博物館館長。

2013年9月13日，挨拶，国立台湾歴史博物館館長。

2013年11月20日，挨拶、案内，湖南省博物館館長。

2013年11月26日，挨拶、案内，常陸宮同妃両殿下。

2013年12月17日，挨拶，ベトナム国家大学ハノイ校科学部長。

2013年12月19日，挨拶，台南市政府副市長。

2014年3月6日，挨拶，台南市政府環境保護局科長。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

JICA 博物館学コース，開会挨拶，2013年4月16日，琵琶湖博物館。

環びわ湖大学・地域コンソーシアムと滋賀県博物館協議会との連携協力に関する協定締結式，調印，2013年7月25日，滋賀県公館。

琵琶湖博物館・湖南省博物館連携協力に関する協定調印式，調印，2013年11月19日，ヴィアンカ船上。

京セラCSR経済・社会・環境報告会，招待者代表挨拶，2013年12月9日，京セラ八日市工場。

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

琵琶湖博物館リニューアル基本計画検討会議，琵琶湖博物館，5件。

琵琶湖博物館リニューアル県民ワークショップ，開会挨拶，2014年2月8日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県博物館協議会，会長。

滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，会長。

滋賀県博物館・美術館ガイドブック制作委員会，会長。

【館外の活動】

兵庫県立歴史博物館運営懇話会，座長。

国立歴史民俗博物館総合展示第4室リニューアル委員会，委員。

国立歴史民俗博物館，名誉教授。

総合研究大学院大学，名誉教授。

滋賀県基本構想審議会，委員。

琵琶湖統合研究推進会議，委員。

日本学術振興会特別研究員等審査会，委員。

環境省環境研究企画委員会，委員。

人間文化研究機構第2期連携研究中間実績評価委員会，委員。

公益信託四方記念地球環境保全研究助成基金運営委員会，委員。

尾瀬賞保護財団運営委員会，委員。

財団法人長尾自然環境財団，評議員。

公益社団法人国際湖沼環境委員会，理事。

公益財団法人日本博物館協会，参与。

滋賀県文化振興事業団，個人会員。

家畜資源研究会，個人会員。

生態人類学会，会員。

2013年度の事業活動としては、7月20日から11月24日まで開催した琵琶湖博物館第21回企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」の担当者の1人として、その準備と開催運営に多くの時間を費やした。特に、山梨県の西湖で再発見されたサケ科魚類の絶滅種クニマスの生体を、山梨県水産技術センターから借用するとともに、この再発見の契機となった標本を京都大学総合博物館から借り受けて、クニマス生体については10月26日から11月24日まで関西では初めてとなる展示を行った。

研究活動としては、引き続き琵琶湖固有種の生理生態に関する研究を中心に研究を実施するとともに、農林水産省からの委託研究として、水田における環境保全型農業と慣行農業が生物多様性に及ぼす影響調査を琵琶湖周辺の3地域において開始した。さらに、専門研究として、ピワマスの学名決定に関する研究を行った。これらの中で、ホンモロコの性決定機構については、基本的にXX-XY型の性決定をするものの雄決定遺伝子に多様性が存在することを明らかにした論文を取りまとめ現在投稿中である。さらに、ホンモロコは温度依存的な性決定を行うことをすでに明らかにしているが、親魚雌雄1対1のペアによる実験から、その生態的な意義について検討し、平成26年度日本水産学会春季大会でポスター発表した。ホンモロコの性決定については、まだ未解明な部分が多く残されており、さらに研究を進めていく予定である。

印刷物

【学術論文】

- Higaki, S., Koyama, Y., Shimadai, M., Ono, Y., Tooyama, I., Fujioka, Y., Sakai, N. Ikeuchi, T. and Takada, T. (2013) Response to fish specific reproductive hormones and endocrine disrupting chemicals of a sertoli cell line expressing endogenous receptors from an endemic cyprinid *Gnathopogon caerulescens*. *General and Comparative Endocrinology*, 191 : 65-73.
- 亀甲武志・根本守仁・伴 修平・三枝 仁・澤田宣雄・石崎大介・中橋富久・寺本憲之・藤岡康弘 (2013) 稲作水田におけるホンモロコ *Gnathopogon caerulescens* 仔稚魚の育成. *水産増殖*, 61 (3) : 303-309.

【専門分野の著作】

- 藤岡康弘 (2013) 琵琶湖固有(亜)種ホンモロコおよびニゴロブナ・ゲンゴロウブナ激減の現状と回復への課題. *魚類学雑誌*, 60 (1) : 57-63.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 亀甲武志・岡本晴夫・氏家宗二・三枝 仁・石崎大介・藤岡康弘・甲斐嘉晃 (2013年9月15日) 琵琶湖から伊庭内湖へのホンモロコの産卵回遊. 2013年度日本魚類学会大会, 日本魚類学会, 宮崎観光ホテル (宮崎県宮崎市), [ポスター発表].
- 藤岡康弘 (2013年11月21日) ホンモロコの温度依存的性決定の生態的役割. ホンモロコの生物学研究会, 立命館大学 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 藤岡康弘 (2013年11月21日) ホンモロコのXY型からZW型への性決定機構の変化. ホンモロコの生物学研究会, 立命館大学 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 藤岡康弘・根本守仁・亀甲武志・磯田能年 (2013年12月22日) 水田で育ったニゴロブナの性比は雄に偏るか?. 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市)

市), [口頭発表].

藤岡康弘・三枝 仁 (2014年3月30日) ホンモロコノ多回産卵による子の性比変化. 平成26年度日本水産学会春季大会, 日本水産学会, 北海道大学函館キャンパス (北海道函館市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「魚類を中心とした琵琶湖固有種の生態等に関する研究」, (2013年度).

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖を支える生命と物質の循環系に関する共同研究-I」(研究代表者: 藤岡康弘), 研究代表者 (2013~2016年度).

農林水産省委託プロジェクト「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト研究」(研究代表者; 夏原由博), 水田魚類調査担当 (2013~2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本水産学会近畿支部, 幹事, 2010年4月~.

びわ湖の森の生き物研究会, 事務局長, 2012年4月~.

Reproductive Biology, 査読, 1件.

応用生態工学, 査読, 1件

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

2013年6月2日, からすま半島の生きもの調査(魚と漁具), からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館周辺の湖岸, 講師.

2013年7月31日, 烏丸半島の水辺の生き物について調べよう, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 指導.

2013年9月8日, 多様性に支えられた琵琶湖の魚たち, 2013年度 新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性」, 琵琶湖博物館, 講演.

2014年3月22日, 琵琶湖の漁業とその現状, 日中共同博物館・大学講演会「魚米之郷を語る-太湖・洞庭湖の水辺の暮らし-」, 滋賀県ミュージアム活性化推進委員会, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2013年7月21日, 田んぼの小川の生き物観察会, 朝日大塚生き物研究会, 東近江市朝日大塚, 講師.

2013年8月24日, 第1回愛知川の水生生物観察会, 全国内水面漁業協同組合連合会, 観察会, 東近江市, 講師.

2013年9月11日, 水産多面的機能発揮対策講習会内水面部会, 全国内水面漁業協同組合連合会, 大阪ビジネスセンター, コメンテーター.

2013年9月25日, 「小川のお魚調査」, 桜谷小学校, 日野町, 講師.

2013年9月26日, 「びわ湖の魚たちと漁業」, 必佐小学校, 日野町, 講師.

2013年10月27日, 第2回愛知川の水生生物観察会, 全国内水面漁業協同組合連合会, 観察会, 東近江市, 講師.

2013年11月11日, 「びわ湖の魚たちと漁業」, 西大路小学校, 日野町, 講師.

2013年11月17日, 第3回愛知川の水生生物観察会, 全国内水面漁業協同組合連合会, 観察会, 東近江市, 講師.

2013年12月7日, 「ピワマスの魅力と不思議」, 多賀町立博物館講演会, 講演.

2013年12月25日, 第4回愛知川の水生生物観察会, 全国内水面漁業協同組合連合会, 観察会, 東近江市, 講師.

2014年2月8日, 川の環境と生き物のにぎわい, 愛知川漁業協同組合, 川の生き物観察会, 東近江市, 講演.

2014年3月1日, ピワマスの魅力と謎, 滋賀県立図書館, 土曜サロン, 滋賀県立図書館 (大津市), 講演.

視察対応

2013年4月28日，琵琶湖博物館の運営・展示説明案内，奈良大学.

2013年6月9日，琵琶湖博物館の運営・展示説明，奈良大学.

2013年7月18日，琵琶湖博物館の運営・展示説明，全国市町村研修所.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回.

他の博物館・機関等主催

2013年11月30日～12月15日，「ビワマスの魅力と不思議」パネル展，多賀町立博物館，「びわ湖の森の生き物研究会」と共催.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2013年4月4日～8日， フィリピン共和国，世界遺産バナウエの棚田見学と生物調査.

2014年3月9日～17日， 中華人民共和国，湖南省長沙市，移動博物館および魚類研究機関との協議.

【館外の活動】

2013年6月30日，びわ湖の森の生き物研究会，世界遺産勉強会，シンポジウム，琵琶湖博物館，主催.

2010年代に入ってから、近江の前方後円墳を中心とする古墳時代首長墓・山岳寺院の研究、湖上交通史の考古学的追究に加えて、中国長江下流域・太湖や中流域・洞庭湖の考古・民俗資料の基礎的整備、それに琵琶湖の民具資料を扱った考古民俗学的方法論の開発研究をテーマの中心に取り組んできた。

2013年度は、特に古墳時代首長墓の実態を旧郡ごとに把握する中で、琵琶湖をめぐる支配や領域を探る研究の成果として、大津市兜稻荷古墳を主な素材に調査を進め、前期前方後円墳の平野からの見え方から墳丘の在り方、特に段築の諸状況を探り、琵琶湖湖上あるいは周辺平野部と首長墓との関係に関する論文をとりまとめつつある。また、昨年度に調査した大津市春日山E-1号墳・E-12号墳の墳丘規模を中心に据えた分析検討結果は、『淡海文化財論叢』第5輯に投稿・掲載されており、一般向けには中日新聞コラムにもわかりやすく解説文を書いたところである。

一方、館内共同研究者と行っている水環境施設に関わる民俗・社会学的調査研究成果の一環として、太湖や洞庭湖など長江水系における水田やエリ・家船に関する研究は、琵琶湖との比較の中での評価を進めつつある。その一部は、毎日新聞コラムや中日新聞コラムなどにも執筆し、その傍ら、中日新聞の連載とりまとめも年間を通じて担当し、始めてから200回を超えた。

なお、この研究プロジェクトでは、2013年6月に中国長江下流域の江蘇省高郵市・揚州市・南京市・無錫市などでの現地調査を南京の河海大学と協働して行い、その成果は2014年3月22日の「魚米之郷を語る」講演会で公表したところでもある。

河川財団からの補助を受けて実施した事業「琵琶湖水系における地域住民主体の湧水環境保全に向けた民俗論」は、琵琶湖周辺の湧水や井戸の地域における保存の在り方を探りながら、霞ヶ浦や八重山諸島における水環境も比較研究の対象として実施した。その成果は、平成25年度優秀研究成果賞を受賞し、報告書全文が河川環境管理財団ホームページに掲載された。

そのほか、大阪府立弥生文化博物館と共働して、図録の一部を構成・執筆するなど、博物館分野の中での連携活動も行ったし、何よりも文化庁補助事業として中国での移動博物館を企画し、中国版展示物の製作と展示を現地平和堂において実施することができた。そして、7月に事前協議を行った中国湖南省博物館との協力協定も11月25日に結ぶことができた。

その他、中国黄河・長江流域での3回の調査に加え、ベトナム・ラオス・タイでの民俗調査も実施し、何よりも東日本大震災に伴う文化財資料の保存の在り方についての現地調査を、今年も再び福島県教育委員会職員と共同で行うことができた。

印刷物

【学術論文】

用田政晴（2013）琵琶湖南部首長墓の規格性—四〇歩と五〇歩の古墳—首長墓にみる近江の固有性の追究—。淡海文化財論叢，5，淡海文化財論叢刊行会：26-30。

【専門分野の著作】

用田政晴（2013）調査で活躍したもと学生たちの証言。平成25年度大阪府立弥生文化博物館秋季特別展 吉備と邪馬台国—靈威の継承—，大阪府立弥生文化博物館：57。

用田政晴（2013）魚米之郷 その簡単な紹介。日中共同博物館・大学講演会「魚米之郷を語る—太湖・洞庭湖の水辺の暮らし—」要旨集，琵琶湖博物館：1-8。

【一般向けの著作】

用田政晴（2013）湖岸より 184 湖上を制した豪族の墓か。 *中日新聞*，中日新聞社，6月1日。

用田政晴（2013）ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～27 湧水 地域住民が守る。 *毎日新聞*，毎日新聞社，7月2日。

用田政晴（2013）湖岸より 191 歴史教科書から地域学ふ。 *中日新聞*，中日新聞社，8月31日。

用田政晴（2014）湖岸より 205 魚米之郷～日中講演会を開催。 *中日新聞*，中日新聞社，3月15日。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

用田政晴（2013年6月1日）湖北の古墳時代と首長墓の歴史的展開。浅井歴史民俗資料館講演会，浅井歴史民俗資料館，浅井歴史民俗資料館（滋賀県長浜市），[口頭発表]。

用田政晴（2013年6月21日）琵琶湖水系における湧水環境保存に向けた考古民俗学的アプローチ。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。

用田政晴（2013年8月2日）歴史教科書に見るウソとホント。県庁歴史愛好会，滋賀県庁（滋賀県大津市），[口頭発表]。

【インターネットページでの公表】

用田政晴（2013）琵琶湖水系における地域住民主体の湧水環境保存に向けた民俗論。

<http://www3.kasen.or.jp/docs/2012/01/241216004>，平成24年度河川整備基金助成事業成果報告書，公益財団法人河川財団ホームページ。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖集水域における古墳時代首長の領域と地域性」，（2013年度）。

科学研究費補助金（基盤 B）「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究モデル構築」（研究代表者：用田政晴），研究代表者（2013年度）。

科学研究費補助金（基盤 C）「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」（研究代表者：楊平），共同研究者（2010～2013年度）。

アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」（研究代表者：用田政晴），研究代表者（2013年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構，代表。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013年9月8日，京都造形芸術大学，「博物館学実習」。

【受賞など】

公益財団法人河川財団河川整備基金助成事業優秀成果賞，2013年11月6日，「琵琶湖水系における地域住民主体の湧水環境保存に向けた民俗論」の研究成果に対して，（用田政晴・楊平）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件

2014年3月22日，日中共同博物館・大学講演会「魚米之郷を語る－太湖・洞庭湖の水辺の暮らし－」，琵琶湖博物館，企画・運営。

視察対応

2013年6月5日，博物館案内・検討，新潟市。
2013年6月12日，博物館案内，難病患者親睦会。
2013年6月21日，博物館B展示室案内，富山県教育委員会。
2013年8月8日，博物館案内，中国アジアヨーロッパ水利用センター。
2013年9月13日，博物館案内，台湾国立歴史博物館。
2013年10月11日，博物館案内，韓国農林水産団体。
2013年10月12日，収蔵庫見学，米原市伊吹山文化資料館友の会。
2013年10月31日，博物館案内，鳥取県立博物館関係者。
2013年11月20日，博物館案内，中国湖南省博物館。
2013年12月6日，博物館案内，BBC。
2014年2月26日，博物館案内，鹿児島県立博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人ページ（用田政晴），管理・運営，更新多数。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整備、分類・配架。
中国関係考古・民俗・文献資料，収集・整理・保管・管理。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館常設展示（B展示室）維持管理，担当。
2013年4月15日・6月3日，展示交流員現地研修会，2件。
2013年5月11日～30日，集う・使う・創る 新空間展示「企画展示ポスターに見る最近の博物館の動向」，主担当。
モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

新任職員等研修，B展示室紹介，講師，2013年4月17日，琵琶湖博物館。
地域発見！参加型移動博物館事業，展示説明・維持管理，2013年9月23日，JR大阪駅コンコース。
地域発見！参加型移動博物館展示キット，中国語版制作，主担当。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（植田文雄、辻川智代、林 博通），受入担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2013年6月23日～30日，中国，江蘇省南京市ほか長江流域 民俗資料収集調査、研究連携会議。
2013年7月15日～21日，中国，湖南省長沙市ほか湖南省博物館などの博物館調査および協力協定会議。

2013年7月27日～31日，ベトナム・ラオス、ハノイ・プレンプバーン・メコン川流域，博物館・民俗調査。
2013年8月30日～9月4日，中国・陝西省西安，新石器時代・都城制遺跡調査、博物館調査。
2013年9月14日～18日，タイ，バンコク近郊流域・島嶼部民俗調査。

本年度は、通常の業務の他に巡回展「アケボノゾウ発掘から20年—新たな発見を求めて—」（2013年12月21日～2014年2月2日）とギャラリー展「ボーンコレクターズ—骨に魅せられて—」（2014年3月25日～5月6日）を開催した。前者は、多賀町立博物館やみなくち子どもの森と共同あるいは協力しての開催であったし、後者は“はしかけ”のほねほねくらぶの活動成果の展示であった。他館との協力や市民の参加は、琵琶湖博物館の目指す方向性であり、その点において意義のある活動を行うことができた。また、2013年1月からは、新たなはしかけグループ「古琵琶湖発掘隊」を結成し、毎月1回の勉強会を行ってきたが、本年度は多賀町での実際の発掘も交え、市民が参加しての調査研究活動を実践することができた。

研究面では、総合研究・共同研究の代表者を務めたほか、平成25年度笹川科学研究助成実践研究部門「博物館、市民、民間が連携した持続的資料調査の実践」が採択され、少額ではあるが外部資金を得ての研究も進めることができた。査読論文は5本が印刷されたほか、現在も海外誌に投稿済みのものが2本あり、今年度は研究を進展することができた。

印刷物

【学術論文】

- 高橋啓一（2013）日本のゾウ化石、その起源と移り変わり．*豊橋市自然史博物館研報*, 23, 豊橋市自然史博物館：65-73.
- 添田雄二・高橋啓一・小田寛貴（2013）北広島市音江別川流域から産出した象類臼歯化石の14C年代測定結果．*北方地域の人環境の関係史 2010-12 年度報告*, 北海道開拓記念館：5-10.
- 薄井重雄・高橋啓一・阿部勇治・松本みどり（2014）冠状縫合を使った鮮新統—更新統産の三尖の角を持つシカ類の分類について．*化石*, 95, 日本古生物学会：7-17.
- 高橋啓一・薄井重雄・落合啓二（2014）ニホンジカの冠状縫合の性差と個体成長—シカ化石の分類のための基礎研究．*千葉県立中央博物館自然誌研究報告*, 13, 千葉県立中央博物館：1-27.
- 高橋啓一・北川博道・伊左治鎮司・加藤久佳（2014）千葉県木更津市管生産ナウマンゾウ化石．*千葉県立中央博物館自然誌研究報告*, 13, 千葉県立中央博物館：63-69.
- 高橋啓一・平山 廉（2014）口之津層群加津佐層（前期更新世）より発見されたシカ頭骨化石．*化石研究会会誌*, 46, 化石研究会：111-116.

【専門分野の著作】

- 高橋啓一（2014）第139回化石研究会例会の報告．*化石研究会会誌*, 46, 化石研究会：121-122.

【一般向けの著作】

- 高橋啓一（2013）特別展「マンモス YUKA」—シベリアの永久凍土から現れた少女マンモス—. *読売新聞*, 読売新聞社, 7月10日.
- 高橋啓一（2013）湖岸より 189 低い山に登る楽しみ. *中日新聞*, 中日新聞社, 8月10日.
- 高橋啓一（2013）槍投げ、巨体にグサリ ヒト VS ケナガマンモス. *Newton*, 10月号, ニュートンプレス：114-115.
- 高橋啓一（2014）湖岸より 200 日本の馬化石の歴史は謎. *中日新聞*, 中日新聞社, 1月11日.
- 高橋啓一（2014）湖岸より 203 不便だが足りないものがない暮らし. *中日新聞*, 中日新聞社, 2月15日.
- 高橋啓一（2014）X線CTで探る太古のゾウ化石. *琵琶博だより*, 16, 琵琶湖博物館：1-2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 高橋啓一（2013年8月10日）昆虫化石について．多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト一次発掘参加者報告会，多賀町立博物館（滋賀県犬上郡），[口頭発表]．
- 高橋啓一（2013年8月16日）日本のシカ化石と滋賀のシカ化石．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]．
- 高橋啓一（2013年10月29日）琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」について．滋賀県試験研究機関研究発表会，滋賀県試験研究機関，コラボしが21（滋賀県大津市），[口頭発表]．
- 高橋啓一・馬場理香・北川博道（2013年12月24日）「CTで探るゾウ類の進化」のための基礎実験．第4回X線位相イメージング研究会，日立製作所中央研究所，日立製作所秋葉原 DUX ビル（東京都千代田区），[口頭発表]．
- 高橋啓一・馬場理香・北川博道（2014年1月25日）CT撮影装置を用いたゾウ臼歯化石の撮影実験．日本古生物学会第136回例会，日本古生学会，兵庫県立人と自然の博物館（兵庫県三田市），[口頭発表]．
- 北田 稔・高橋啓一・里口保文・馬場理香・米山明男（2014年2月9日）古琵琶湖層群から発見された日本で2番目のレッサーパンダ類化石．第29回地学研究発表会，滋賀大学大津サテライトプラザ（滋賀県大津市），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」（研究代表者：高橋啓一），研究代表者（2011～2015年度）．
- 琵琶湖博物館共同研究「X線CT画像を使ったシガゾウの分類学的再検討」（研究代表者：高橋啓一），研究代表者（2013～2015年度）．
- 琵琶湖博物館専門研究「古琵琶湖層群から新しく発見された魚類頭骨化石の形態解析」，（2013～2015年度）．
- 平成25年度笹川科学研究助成実践研究部門「博物館，市民，民間が連携した持続的資料調査の実践」（研究代表者：高橋啓一），研究代表者（2013年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本第四紀学会，評議員，2011年8月～2013年7月．
- 日本第四紀学会論文賞受賞者選考委員，2013年2月1日～7月31日．
- 化石研究会，運営委員，2013年6月～．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件．
- はしかけ運営，「ほねほねくらぶ」・「古琵琶湖発掘隊」・「湖をつなぐ会」，担当．
- 2013年8月25日，琵琶湖の生き立ちをさぐる方法4：足跡化石，講座，琵琶湖博物館，担当．
- 2013年9月29日，琵琶湖の生き立ちをさぐる方法5：動物化石，講座，琵琶湖博物館，担当．
- 2013年12月7日・2014年2月15日，琵琶湖学習（班での調べ学習），立命館守山中学校ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，指導・助言，2件．

他の博物館・機関等主催行事

- 2013年8月7日，長い時間でみた環境変化，環境教育研究協議会，平成25年度環境教育研究協議会教員研修，琵琶湖博物館，指導・助言，2件．

琵琶湖博物館，講師。

2013年11月7日，琵琶湖の歴史，日吉台学区平石クラブ，学習会，琵琶湖博物館，講師。

2013年11月23日，第139回化石研究会例会，琵琶湖博物館，運営。

2014年2月16日，博物館の「木」から地域の「森」へ，周防大島文化交流センター，周防大島文化交流講座，周防大島文化交流センター，講師。

視察対応

2014年3月6日，展示案内，台湾視察団。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

化石標本データベース公開，担当。

哺乳類標本データベース公開，担当。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

化石資料，受入・貸出。

脊椎動物資料，受入・貸出。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年12月21日～2014年2月2日，ギャラリー展示「巡回展 アケボノゾウ発掘から20年—新たな発見を求めて—」，運営。

2014年3月25日～5月6日，ギャラリー展示「ボーンコレクターズ—骨に魅せられて—」，展示製作・運営。
モーニングレクチャー，講義，4回。

他の博物館・機関の活動

読売新聞社・日本テレビ・BS日テレ・ぴあ共同開催，2013年7月13日～9月16日，特別展マンモス「YUKA」，展示協力。

多賀町立博物館，2013年10月5日～12月11日，企画展示「アケボノゾウ発掘から20年—新たな発見を求めて—」，展示パネル原稿作成。

【企画調整活動】

新任職員等研修，A展示室紹介，講師，2013年4月10日・17日，琵琶湖博物館。

JICA博物館学コース，博物館と地域社会，講師，2013年6月25日，琵琶湖博物館。

地域発見！参加型移動博物館事業，展示説明・維持管理，2013年9月22日，JR大阪駅コンコース。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004年～，図書選定委員。

【海外渡航】

2013年9月23日～10月2日，モンゴル，国際共同調査。

【館外の活動】

2010年2月14日～2014年2月17日，NPO法人西日本自然史博物館ネットワーク，理事.
2010年10月6日～2015年10月5日，高島市指定管理候補者，選定委員.

In 2013 I directed efforts to collect benthic and interstitial copepods and ostracods from Lake Biwa, as well as *Leptodora* cladocerans from various lakes, for use by collaborators in the Lake Biwa Museum's current comprehensive research project, "Biodiversity Explanations". For these purposes, I invited one Japanese researcher and one overseas zoologist to come to Lake Biwa and collect samples of ostracods and copepods, respectively. With considerable help from others, I organized their sampling program in Lake Biwa in October, involving borrowed buoys, baited light traps, and grab samples. Finally, I visited 12 lakes scattered between Kansai and Kanto, but only found useful quantities of *Leptodora* in Lakes Biwa and Suwa. As former leader of the now-concluded "Systematics" comprehensive research project, I also made efforts to revise two collaborators' monograph about Shiga Prefecture's terrestrial isopods, and I also exhibited these creatures in this year's Special Exhibition. Together with the rice paddy organism "Hashikake" group, I monitored the occurrence of Asian tadpole shrimp in rice paddies in Otsu east of the Seto River. As a member of the International Commission on Zoological Nomenclature, I voted and commented on many nomenclatural cases that were brought before the Commission; these comments comprise most of my publications during the year. I also attended a Special Session of the Commission in Singapore and presented a report on this meeting to the Union of Japanese Systematics Societies.

2013年度は、琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」の共同研究者の研究のために、琵琶湖における湖底生・間隙水生のカイアシ類とカイミジンコ類の採集プログラムおよび各地の湖においてノロというミジンコの採集プログラムの推進を行った。そのために、国内の共同研究者（カイミジンコの専門家）と海外の共同研究者（カイアシ類の専門家）に琵琶湖への出張依頼を行った。多くの人の協力のもと、ブイ・餌とランプが付いたトラップおよびエックマン式採泥器によるサンプリングを行った。ノロの採集のために関西から関東の12か所の湖への出張を行ったが、多くの標本を採集できたのは琵琶湖と諏訪湖のみであった。平成22年度に終了した総合研究「分類学」の元研究代表者として、共同研究者二人の滋賀県のワラジムシ相に関するモノグラフの原稿の編集を行ったが、まだ投稿できる状況ではない。しかし、滋賀県の約20種類のワラジムシについて、平成25年度の企画展示の一環として展示を行った。今年も、琵琶湖博物館の「田んぼの生きもの」はしかけグループと共に大津市の瀬田地方において、水田におけるアジアカブトエビの分布調査を行った。動物命名法国際審議会の委員として、審議会の細則の改正に関係し、審議会の前に提案された多くの命名法に関する案件について投票した。2013年度の私が執筆したほとんどの著述は、その案件についてのコメントであった。また、同会がシンガポールで開催した特別協議会に参加し、その協議会について日本分類学会連合の総会で報告した。

印刷物

【専門分野の著作】

International Commission on Zoological Nomenclature (ICZN) [Grygier, M. J. 他 26 名] (2014) Zoological nomenclature and electronic publication – a reply to Dubois *et al.* (2013). *Zootaxa*, 3779 (2), Magnolia Press : 3-5.

International Commission on Zoological Nomenclature (2013) OPINION 2317 (Case 3540). AMPHIPORIDAE Rukhin, 1938 (Porifera, Stromatoporida, Amphiporida): emended to AMPHIPORIDAIE to remove homonymy with AMPHIPORIDAE McIntosh, 1874 (Nemertea, Hoplonemertea). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70 (2), 動物命名法国際審議会 : 122-125 [特にグライガー委員の意見 : 123].

International Commission on Zoological Nomenclature (2013) OPINION 2320 (Case 3536). *Stegosaurus* Marsh,

- 1877 (Dinosauria, Ornithischia): type species replaced with *Stegosaurus stenops* Marsh, 1887. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70 (2), 動物命名法国際審議会 : 129-130 [特にグライガー委員の意見 : 130].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) OPINION 2323 (Case 3386). *Pseudocoenia* d'Orbigny, 1850 (Coelenterata, Scleractinia): proposed conservation of usage by the designation of a lectotype of the type species not approved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70 (3), 動物命名法国際審議会 : 207-209 [特にグライガー委員の意見 : 208].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) OPINION 2321 (Case 3527). *Anguis jamaicensis* Shaw, 1802 (currently *Typhlops jamaicensis*; Reptilia, Serpentes): specific name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70 (3), 動物命名法国際審議会 : 212-213 [特にグライガー委員の意見 : 213].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) OPINION 2324 (Case 3493). *Haliplanella* Hand, 1956 (Anthozoa, Actiniaria): conserved by suppression of *Haliplanella* Treadwell, 1943 (Polychaeta). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70 (4), 動物命名法国際審議会 : 271-273 [特にグライガー委員の意見 : 272].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) OPINION 2326 (Case 3541). METINAE Simon, 1894 (Arachnida, Araneae), TETRAGNATHIDAE: spelling emended to METAINAE to remove homonymy with METIDAE Boeck, 1872 (Crustacea, Copepoda). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70 (4), 動物命名法国際審議会 : 276-278 [特にグライガー委員の意見 : 277].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) OPINION 2327 (Case 3570). *Curculio scirpi* Fabricius, 1792 (currently *Notaris scirpi*; Insecta, Coleoptera, CURCULIONIDAE, ERIRHINIDAE): precedence given over *Curculio rhamni* Herbst, 1784 and *C. scirpi* Rossi, 1790. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70 (4), 動物命名法国際審議会 : 279-281 [特にグライガー委員の意見 : 280].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2331 (Case 3472). *Cetiosaurus* Owen, 1841 (Dinosauria, Sauropoda): usage conserved by designation of *Cetiosaurus oxoniensis* Phillips, 1871 as the type species. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (1), 動物命名法国際審議会 : 48-50 [特にグライガー委員の意見 : 49].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2333 (Case 3548). *Mémoires pour servir à l'histoire des insectes* by De Geer (1752-1778) and the additional volume by Retzius (1783): ruled to be binominal and available. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (1), 動物命名法国際審議会 : 53-59 [特にグライガー委員の意見 : 54-55].

【一般向の著作】

- マーク・ジョセフ・グライガー (2013) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～24 水田にすむ小さなエビ 地域で異なる生息種 滋賀県では?. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 5月21日.
- マーク・J.・グライガー (2013) 水生寄生生物 Aquatic Parasites. *琵琶湖博物館第21回企画展示図録「生きものがたり -生物多様性 湖国から 世界から-*, 滋賀県立琵琶湖博物館 : 20.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- マーク ジョセフ グライガー (2013年4月20日) タマカイエビノープリウス幼生の走査型電子顕微鏡による観察およびアジアカブトエビの津市内分布状況. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- Karanovic, T., Grygier, M. J. and Lee, W. (2013年7月23日) Endemism of subterranean copepods in Korea and their connections with the Japanese fauna. 15th International Meiofauna Conference in Korea: The Future of Meiofauna Study, International Association of Meiobenthologists, 漢陽 (ハンヤン) 大学 ERICA キャンパス (大韓民国安山市), [ポスター発表].

富川 光・小林憲生・興野昌樹・グライガー マーク (2013年9月26日) 滋賀県の間隙水から見つかったツシマドウクツヨコエビについて (接底動物門: 甲殻亜門: 端脚目). 日本動物学会第84回大会, 日本動物学会, 岡山大学津島キャンパス (岡山県岡山市), [口頭発表].

前田雅子・楠岡 泰・Mark J. Grygier・田んぼの生きもの調査グループ (2013年12月22日) 長浜地域における大型鯰脚類分布の不思議—水入れ時期の影響—. 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

マーク J. グライガー (2014年1月11日) 国際動物命名規約に関する説明: The future of ICZN. Preliminary report on the special session held at the National University of Singapore on 16–20 November 2013. 日本分類学会連合第13回総会, 日本分類学会連合, 国立科学博物館本館 (東京都台東区), [口頭報告].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者: 高橋啓一), 副代表者 (2011~2015年度).

琵琶湖博物館共同研究「微小な生物の飼育技術開発および展示技法」(研究代表者: 松田征也), 研究協力者 (2013~2015年度).

琵琶湖博物館専門研究「寄生性甲殻類および魚類の寄生虫に関する研究」, (2013年度).

科学研究費補助金 (基盤 B)「間隙性ファウナの種多様性評価と生息の制限要因—陰性環境の生物多様性に光を当てる—」(研究代表者: 塚越 哲), 分担者 (2011~2015年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

The Crustacean Society, Journal of Crustacean Biology, Associate Editor, 査読, 4件.

Systematic Parasitology, Associate Editor.

日本動物分類学会, Species Diversity, Editorial Consultant.

日本ベントス学会, Japanese Journal of Benthology (日本ベントス学会誌), 編集委員 (English editor) .

日本付着生物学会, Sessile Organisms, 編集委員 (英語エディター) .

Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, Zoosystematica Rossica, Editorial Board.

国立科学博物館, Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology), 編集委員.

動物命名法国際審議会, Bulletin of Zoological Nomenclature, 査読, 10件.

Journal of Experimental Zoology Part B: Molecular and Developmental Evolution, 査読, 1件.

Zootaxa, 査読, 1件.

Hydrobiologia, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

はしかけ運営, 「田んぼの生き物調査グループ」, 副担当.

2013年5月18日, 魚の寄生虫を調べよう!, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 主担当・講師.

2013年6月9日, たんぼの不思議なエビたちを見てみよう!, 体験プログラムわくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師, (はしかけ「田んぼの生きもの調査グループ」と共同).

2013年7月6日, あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!, 琵琶湖博物館, アンケート回収当番.

2013年8月2日, 各資料の実習 (甲殻類資料), 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年3月22日, 日中共同博物館・大学講演会「魚米之郷を語る—太湖・洞庭湖の水辺の暮らし—」, 琵琶湖博物館, 当日設営およびベル・式次等係.

他の博物館・機関等主催行事

- 2013年5月29日、琵琶湖と琵琶湖博物館についての英語の概要説明、武庫川女子大学附属中学校、琵琶湖博物館、講師。
- 2013年8月3日、淡水産の小中型甲殻類に関する講義、恵那高等学校、琵琶湖博物館、講師。
- 2014年2月7日、琵琶湖と琵琶湖博物館についての英語の概要説明、立命館中学校、RITS Global Summit 2014、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

- 2013年4月7日、総合地球環境学研究所および滋賀大学のフィリピンからの団体。
- 2013年5月30日、ケニヤとジンバブエの湖沼学者団体（第5回アフリカ開発会議関係）。
- 2013年7月25日、神戸女学院大学大学院人間科学研究科の留学生。
- 2013年8月19日、(スイス) Musée du Lemman 館長一行。
- 2013年8月23日、タイ王国大阪総領事一行。
- 2013年11月2日、在大阪・神戸インド総領事一行。
- 2013年11月15日、JICA 地域別研修「アフリカ地域都市上水道技術者養成 (A)」コース。
- 2013年12月7日、国際水文学プログラム (IHP) トレーニングコース。

メディアへの協力

- 2013年6月22日、産経新聞、「大きな湖小さな生命～びわこからの報告～㊦「生物多様性」世界が熱視線、取材対応、(2013年1月11日、1月17日、2月17日、3月26日、6月12日取材)。
- 2013年6月23日、産経新聞、「大きな湖小さな生命～びわこからの報告～㊦研究者の尽きぬ努力と好奇心、取材対応、(2013年1月11日、1月17日、2月17日、3月26日、6月12日取材)。
- 2013年8月19日、日本テレビ、月曜からよふかし、取材対応、(2013年7月27日取材)。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2013年12月28日、アップロード、2014年1月11日更新バージョンアップロード、
<<http://www.youtube.com/watch?v=WKvSP9zmb8>>、「Lake Biwa Museum Kusatsu, Shiga Prefecture 滋賀県立琵琶湖博物館 A video by Philbert Ono」(2013年7月28日、10月12日取材と撮影)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 標本受入、無脊椎動物（昆虫、貝類を除く）、14件290点。
標本（甲殻類・環形動物・無脊椎動物）の仮登録、796点。
研究依頼、(韓国)ハンヤン大学、カイアシ類、1件。
研究依頼期間延伸、1件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」、パネル更新。
琵琶湖博物館第21回企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」、ワラジムシ類の展示コーナーの担当。
モーニングレクチャー、講義、4回。

他博物館・機関の活動

- 三重県立博物館の展示室の大中コーナー、英文翻訳、協力。

【企画調整活動】

JICA 博物館学コース(JICA Comprehensive Museology Course), 主担当.

新任職員等研修, C 展示室生き物コレクション(寄生虫), 講師, 2013 年 4 月 18 日, 琵琶湖博物館.
地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2013 年 9 月 25 日, JR 大阪駅コンコース.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員(鈴木隆仁、太田悠造), 受け入れ担当.

湖国ハッタミミズ・ダービー, 顧問.

館内人事、館外活動等に関すること

【館内の人事】

新琵琶湖博物館創造準備室, 展示交流空間のリニューアルワーキング C 展示室班およびマイクロアクアリウム班,
メンバー.

【海外渡航】

2013 年 11 月 17 日～20 日, シンガポール国立大学(シンガポール), 動物命名法国際審議会特別会議への出席.

【館外の活動】

2013 年 4 月 11 日～2014 年 3 月 31 日, 国立民族学博物館集団研修博物館学コース, 運営委員会委員.

(米国) ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部(無脊椎動物学研究科), 協力研究員.

(米国) スミソニアン研究所国立自然史博物館, 協力研究員.

動物命名法国際審議会, 委員.

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境などを明らかにすることを目的にしている。今年度は、共同研究「針葉樹トガサワラ属化石の生物地理変遷と生育環境の解明」(代表者)が最終年度となり、3年間行った野外調査や標本調査のデータ解析をまとめる作業を行い、専門研究等で滋賀県多賀町四手丘陵のアケボノゾウ発掘に伴う古環境解析を行うため、発掘調査、資料収集を主に行った。

共同研究では、日本で隔離分布する現生種トガサワラ林の生態調査および球果の採取を奈良で行い、また古琵琶湖層群甲賀層産(約250万年前)のトガサワラ球果化石を含む植物化石群集や産出状況から古生態、古植生の検討を行った。この成果の一部を2013年11月15日に琵琶湖博物館研究セミナー、12月1日に日本植生史学会で発表を行った。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

山川千代美(2013年8月10日)植物化石. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト一次発掘参加者報告会, 多賀町立歯博物館(滋賀県犬上郡), [ポスター発表].

山川千代美(2013年10月13日)植物化石. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト一次発掘参加者報告会, 多賀町立歯博物館(滋賀県犬上郡), [ポスター発表].

山川千代美(2013年11月15日)鮮新-更新統古琵琶湖層群産トガサワラ属球果化石の分類学的研究. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].

山川千代美・増尾はづき・松本みどり・矢部 淳・三宅 尚(2013年11月30日)鮮新統最上部古琵琶湖層群甲賀層産化石トガサワラ属の古生態について. 日本植生史学会第28回大会, 日本植生史学会, 高知大学(高知県高知市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県高島市安曇川河床の古琵琶湖層群産足跡化石に伴う植物化石群」, (2013年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:高橋啓一), 研究協力者(2011~2013年度).

琵琶湖博物館共同研究「針葉樹トガサワラ属化石の生物地理変遷と生育環境の解明」(研究代表者:山川千代美), 研究代表者(2011~2013年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013年4月~2014年3月, 千葉大学理学研究科・地球生命圏科学専攻・地球科学コース生, 卒業論文の指導・助言.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

2013年4月21日, 植物談話会「村田源先生を囲んで~滋賀の植物について語り合う~」, ギャラリー展示関連イベント, 琵琶湖博物館, 企画・運営, (草加伸吾・芦谷美奈子と共同).

2013年5月19日、琵琶湖の生き立ちをさぐる方法1：植物化石、講座、琵琶湖博物館、担当。

他の博物館・機関等主催行事

2013年10月24日、古琵琶湖時代の動植物の変遷、充実会、博物館見学会、琵琶湖博物館、講師。

2013年11月12日、化石の観察、滋賀県立米原高校、1年生理数科フィールドワーク、琵琶湖博物館、講師。

2014年1月11日、琵琶湖の植物化石、いまづ自然観察クラブ、博物館見学会、琵琶湖博物館、講師。

2014年3月13日、ミュージアムスクール、東海シニア自然大学高等科、博物館見学会、琵琶湖博物館、講師。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年4月2日、橋本忠太郎植物標本寄贈に関わる感謝状贈呈、琵琶湖博物館。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年4月2日～6月9日、ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎—植物研究にかけた情熱—」、副担当。

2013年12月21日～2014年2月2日、ギャラリー展示「巡回展 アケボノゾウ 発掘から20年—新たな発見を求めて—」、担当。

モーニングレクチャー、講義、4回。

他の博物館主催の活動

多賀町立博物館、2013年10月5日～12月11日、企画展「アケボノゾウ発掘から20年～新たな発見を求めて～」、展示物原稿作成。

【企画調整活動】

地域発見！参加型移動博物館展示キット、補修制作、3件。

地域発見！参加型移動博物館事業、主担当、17件。

滋賀県博物館協議会、理事会・総会・各委員会開催、主担当、12件。

滋賀県博物館協議会・環びわ湖大学・地域コンソーシアムとの協力提携調印式、調整、2013年7月25日、知事公館。

滋賀県博物館協議会情報交換会、実施補助、3回。

文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援活動、講演会「日本の博物館・美術館における外国人利用の現状と課題～博物館のおもてなしを考える～」、企画・実施、2013年12月15日、滋賀県立琵琶湖博物館。

文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援活動、滋賀ミュージアム逸品展・ワークショップ開催、企画実施、2014年1月30日～2月2日、京都文化博物館。

文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援活動、「滋賀県の博物館・美術館の外国人利用の促進事業」、英語版 滋賀県の博物館・美術館ガイドブック「Discover of museums in Shiga」、制作編集。

文化庁地域ミュージアム活性化事業、中国語版移動博物館展示キット、制作。

文化庁地域ミュージアム活性化事業、日中共同博物館・大学講演会「魚米之郷を語る」、企画補助、2014年3月22日、琵琶湖博物館。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館研究部研究領域会議、運営、3回、琵琶湖博物館。

地学研究発表会、運営、2014年2月9日、滋賀大学サテライト。

琵琶湖博物館特別研究員（川那部浩哉）、受入担当。

館内の人事・館外の活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県博物館協議会，主担当.

滋賀県の博物館・美術館ガイドブック制作委員会，事務局.

地層から過去の地層ができる環境解析を行うことや、地層中の火山灰層から、地層の年代決定や、過去の火山活動の検討を行うことを中心に研究を行っており、これらの研究は、現在の琵琶湖がどのようにできてきたのか？を知る研究に結びついている。

今年度は、多賀町でアケボノゾウ化石が発掘された地点での再発掘調査に参加し、発掘地周辺の地層の記載やそこから考えられる堆積環境の検討を行った。この調査は今後につづく予定であり、この地域の地層から当時の古琵琶湖環境の復元を目指している。また、この地層と同時期の地層が分布する京都山城丘陵における火山灰層の調査を地域の人と共同調査を行い、当時の水系の検討を行った。その結果は、日本地質学会において発表した。今年度からはじまった科学研究費助成金事業（基盤研究C）では、日本列島周辺の海底の地層から得られる火山灰層の研究によって、海底の古環境情報と陸域の古環境情報を高精度で時間的な対比を行うもので、高知コアセンターに保管されている海底ボーリングコアの火山灰の採取を行った。また、国際プロジェクトとして行われている IODP の Exp346 に乗船しない共同研究者として参加し、日本海の海底の地層中にある火山灰の分析を今後行っていく予定である。この成果は、過去の琵琶湖環境を保存している古琵琶湖層群中の火山灰との関係をも検討することによって、古琵琶湖の年代精度を上げる役割を持っており、古琵琶湖の古環境を知る上でも重要であるといえる。

総合研究として行っている琵琶湖の生物多様性の成立過程研究については、古琵琶湖から現在の琵琶湖への地理的環境変化を担当しており、これまで提案されている古琵琶湖から琵琶湖への地史の再検討を行っている。

また、地域の人びとがフィールドのおもしろさを紹介する「地域の人びとによる展示コーナー」の展示替えを米原高校地学部と行った。その他、地域の方々と開催する地学研究発表会の運営などを、地学関係学芸員と行ったほか、個人管理インターネットページで、博物館事業や、研究についての情報発信を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

中口 譲・益田晴恵・中条武司・山中康平・里口保文・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ水質班・滋賀県立琵琶湖博物館みずはしかけ (2013) 淀川水系における化学成分の広域分布に関する調査報告. 大阪市立自然史博物館研究報告書, 67, 大阪市立自然史博物館: 45-81.

【一般向けの著作】

里口保文 (2013) 湖岸より 182 発掘をみんなでもう一度. *中日新聞*, 中日新聞社, 5月11日.

里口保文 (2013) 湖岸より 195 軽石のゆくえ. *中日新聞*, 中日新聞社, 10月26日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

橋本 岳・里口保文・中村裕貴・村越貴之・井内美郎 (2013年5月20日) 琵琶湖愛知川河口沖の洪水起源の堆積物. 日本地球惑星科学連合 2013年度連合大会, 日本地球惑星科学連合, 幕張メッセ国際会議場 (千葉県千葉市), [ポスター発表].

里口保文 (2013年8月10日) 地質. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト一次発掘参加者報告会, 多賀町立博物館 (滋賀県犬上郡), [口頭発表].

里口保文・芳賀裕樹・林 竜馬・井内美郎 (2013年8月22日) 琵琶湖東岸地域の湖底で100年前に何がおこった

のか。日本第四紀学会 2013 年大会，日本第四紀学会，弘前大学（青森県弘前市），[口頭発表]。
里口保文・池田俊夫・石田志朗(2013 年 9 月 15 日)山城丘陵から検出された Msn-Jwg4 テフラ。日本地質学会第 120 年学術大会，日本地質学会，東北大学（宮城県仙台市），[ポスター発表]。
里口保文(2013 年 9 月 20 日)蒲生沼沢地から河川の時代の堆積環境についての考察。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。
里口保文(2013 年 10 月 13 日)地質。多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト一次発掘参加者報告会，多賀町立博物館（滋賀県犬上郡），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「堅田湖成立期の高島地域の堆積環境解析」，(2013 年度)。
琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者：高橋啓一)，共同研究者(2011～2015 年度)。
科学研究費補助金(基盤 C)「日本周辺の海域と陸域の鮮新-更新統を統合した標準年代モデルの確立」(研究代表者：里口保文)，研究代表者(2013～2015 年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本地質学会，地方評議員(近畿)，2009 年～。
日本第四紀学会，評議員，2009 年 9 月～。
日本第四紀学会，査読，1 件。
Island Ark，査読，1 件。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10 件。
2013 年 6 月 30 日，琵琶湖の生い立ちをさぐる方法 2：地層，講座，みなくち子どもの森（滋賀県甲賀市），担当，（みなくち子どもの森と共催）。
2014 年 3 月 22 日，偏光スコープを作ろう，体験プログラムわくわく探検隊，琵琶湖博物館，アドバイス，（蜂屋正雄・はしかけ「びわたん」と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2013 年 6 月 15 日，琵琶湖の変遷を調べるということ，滋賀県立虎姫高校，SSH 連携講座，虎姫文化ホール，講師。

視察対応

2013 年 10 月 17 日，ボーリングコア展示の解説，応用地質学会環境地質研究部会，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2013 年 4 月 23 日，中日新聞，研究報告 ネットで公開 琵琶湖博物館、過去 20 年分，取材対応。
2013 年 7 月 4 日，読売新聞，探 Q，取材，(2013 年 6 月 21 日)。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人ページ，管理・運営，更新多数。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

関西国際空港第2期空港島深層土質調査ボーリングコア登録，登録方針の決定，1,435件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年7月14日～2014年4月3日，A展示室地域の人びとによる展示コーナー「米原高校地学部の活動と採集した化石」，米原高校地学部による展示，展示調整担当。

2013年12月21日～2014年2月2日，ギャラリー展示「巡回展 アケボノゾウ発掘から20年～新たな発見を求めて～」の開催，一部コーナー作成。

モーニングレクチャー，講義，4回。

他博物館・機関の活動

多賀町立博物館，2013年10月5日～12月11日，企画展「アケボノゾウ発掘から20年～新たな発見を求めて～」，展示物原稿作成。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館研究調査報告書インターネットページ公開，全体調整担当，4件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2013年度，新琵琶湖博物館創造準備室 展示ワーキンググループ，全体調整。

【海外渡航】

2013年5月25日～6月1日，フランス，IODP Exp333 post cruise meeting に出席・発表するため。

今年度は、学位論文『日本中世の環境と村落』の公表に向けて努力を続けた。

まず、科学研究費補助金基盤研究（C）「日本中世における「水辺推移帯」の支配と生業をめぐる環境史的研究（研究代表者：橋本道範）および琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世史は「種」を問題とすることができるかー社会史から環境史への挑戦ー」（研究代表者：橋本道範）に関しては、第8章「中世の「水辺」と村落ー資源のより稠密な利用」をめぐる」を鎌倉遺文研究会で報告し、さまざまなご意見をいただくことができた。これは、近江八幡市の奥島周辺の水域と陸域が推移する「水辺」をフィールドとして、エリ漁などの漁獲原理の質的展開を推定し、その過程における上位の村落（荘郷）と下位の村落（ムラ）の機能の差異について論じたものである。ここでは、13世紀前後を画期として資源利用の原理が稠密化の方向で転換をはかられていくなかで、新たな資源利用の形態に適合的な社会組織として、ムラが地域資源利用の主導権を握ると論じている。

次に、序章「戦後における歴史学の自然環境理解と村落論」については、特別に裁許状研究会で報告させていただいた。ここでは、マルクスの自然理解に関する筆者の認識に対して厳しいご批判をいただき、全面的に改稿しているところである。

また、第4章「一五世紀における魚介類の都市消費と漁撈ー琵琶湖のフナ属の旬をめぐる」は、一五世紀においてフナ属が首都京都においてどのように消費されていたのかを明らかにした上で、そうした都市消費の動向が琵琶湖漁撈といかにかかわっていたのかについて検討を加えたものであるが、その一部を琵琶湖博物館研究セミナーで報告し、ご批判を得ることができた。

なお、水辺の推移帯（エコトーン）をめぐる支配システムの解明のため、播磨国矢野庄河成データベースの構築に取り組んできたが、ほぼ完成させることができた。

一方、科学研究費補助金基盤研究（B）「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究ー中・近世村落像の再検討ー」（研究代表者：青柳周一）に関しては、菅浦文書の再翻刻に分担して取り組んでいる。また、併せて菅浦地区に所蔵されている近世・近代の古文書の調査・撮影にあたった。

その他事業関係の業務については下記に概要を示すが、特筆しておきたいのは、文化庁の「地域のコレクションを活用した人材育成事業」として近江八幡市円山町のヨシ博物館のコレクションのレスキューに携わったことで、地域の方々、47名もの学生の皆さん、滋賀県立大学などその他関係諸機関のご協力により、無事3,930点の資料を琵琶湖博物館の収蔵庫で保管することができた。この場を借りて感謝を申し上げたい。また、新琵琶湖博物館創造基本計画の新B展示「身近な自然と暮らしの歴史ー見えない未来が見えてくるー」の計画書を策定した点も付け加えておく。

印刷物

【一般向けの著作】

橋本道範（2013）トピック展示 天皇が記録した災害ー花園天皇の日記からー。 *釈文と解説*，滋賀県立琵琶湖博物館：4p.

橋本道範（2013）ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～23 自然の利用 より巧妙に。 *毎日新聞*，毎日新聞社，4月23日。

橋本道範（2013）お礼。松野孝一『山が崩れるー唐崎 坂本 下坂本の自然災害史』，松野孝一（私家版）：80。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 橋本道範（2013年5月23日）日本中世の「水辺」と村落—近江国蒲生郡奥嶋の事例から—。鎌倉遺文研究会第191回例会，鎌倉遺文研究会，早稲田大学文学学術院（東京都新宿区），[口頭発表]。
- 橋本道範（2013年12月1日）河成データベースの作成について—播磨国矢野庄を事例として—。第20回環境史研究会，環境史研究会，相生市民会館（兵庫県相生市），[口頭発表]。
- 橋本道範（2013年12月25日）戦後における歴史学の自然環境理解と村落論。裁許状研究会，裁許状研究会，こどもみらいかん（京都府京都市），[口頭発表]。
- 橋本道範（2014年3月14日）一五世紀における魚類の首都消費と漁撈—琵琶湖のフナ属の旬をめぐる—。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費補助金（基盤 C）「日本中世における「水辺推移帯」の支配と生業をめぐる環境史的研究」（研究代表者：橋本道範），研究代表者（2011～2014年度）。
- 科学研究費補助金（基盤 B）「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究—中・近世村落像の再検討—」（研究代表者：青柳周一），研究分担者（2012～2015年度）。
- 琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世史は『種』を問題とすることができるか—社会史から環境史への挑戦—」（2013年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，8件。
- 2013年8月2日，IPMについて—地道にこつこつ—，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。
- 2013年12月7日，琵琶湖学習（班での調べ学習），立命館守山中学校ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，指導・助言。
- 2014年1月11・25日，博物館でスゴロクをつくろう—B展示室編—，体験プログラムわくわく探検隊，琵琶湖博物館，博士役，2件。
- 2014年2月15日，重要文化財を読んでもみよう—中世古文書入門—，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，講師。
- 2014年3月15日，西川嘉廣さんとヨシ博物館—これからの活用に向けて—，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会・滋賀県立大学近江楽座地域博物館プロジェクト，交流会，琵琶湖博物館，企画・運営。

他の博物館・機関等主催行事

- 2013年6月25日，琵琶湖のフナのお話，縄文サロン，ブックカフェ ワイルドパンチ（大阪市），講師。
- 2013年9月18日，堅田といえば堅田鮒（ふな），天津市北部地域文化センター，天津市北部文化センター（天津市），講師。
- 2014年2月25日，琵琶湖とフナと鮒ずしと，JEUGIAカルチャーセンター，全国ご当地講座，琵琶湖博物館，講師。
- 2014年3月23日，琵琶湖を味わう，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，湖上フォーラム「誕生！琵琶湖八珍」，琵琶湖湖上（琵琶湖汽船株式会社ビアンカ船上），運営補助。

メディアへの協力

- 2014年5月10日，京都新聞，花園天皇の日記模本展示，取材対応，（2013年4月17日）。

2014年4月25日, 毎日新聞, 花園天皇の日記展示, 取材対応, (2013年4月21日).
2013年5月10日, 読売新聞社しが県民情報, 天皇が記録した災害ー花園天皇の日記からー, 取材対応, (2013年5月1日).
2013年5月13日, 読売新聞, 天災記した「好学の君主」, 取材対応, (2013年5月12日).
2013年5月21日, 中日新聞, 天皇が記した災害, 取材対応, (2013年5月19日).
2014年2月7日, 中日新聞, 東寺文書で読み解く中世, 取材対応, (2014年2月6日).
2014年3月14日, 京都新聞, 「ヨシ博士」情熱の遺品, 取材対応, (2014年3月7日).
2014年3月12日, 読売新聞, 「ヨシ博物館」40点で再現, 取材対応, (2014年3月15日).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵資料展示情報のweb発信, 指導, 7件.
歴史資料, 貸出情報のweb発信, 指導, 2件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

歴史資料, 貸出・返却対応, 2件.
定期収蔵庫清掃(特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室), 実施, 12回.
大掃除(B展示室・古文書整理室・燻蒸室), 実施, 1回.
防虫剤投入(特別収蔵庫), 実施, 1回.
収蔵庫担当者会議, 運営, 3回.
生物環境調査, 実施, 3回.

他博物館・機関の活動

地域のコレクションを活用した人材育成事業(文化庁「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」),
滋賀県ミュージアム活性化推進委員会, 企画・調整・実施, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年4月16日～6月23日, トピック展示「天皇が記録した災害ー花園天皇の日記からー」, 企画・調査・準備・展示, 担当.
2013年度, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」, 補助, 6件.
2013年8月6日～9月8日, 収蔵資料展示「企画展示関連企画 琵琶湖にゆかりの生き物たち」第39回, 補助.
2014年2月4日～3月9日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!＝重要文化財を読んでみよう＝」第44回,
企画・調査・準備・展示.
2014年3月4日～3月23日, 集う・使う・創る 新空間展示「わたしの自宅は博物館～西川嘉廣氏とヨシ博物館～」,
企画・運営.
B展示室常設展示陳列替え, 実施, 6件.
モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

新任職員等研修, B展示室説明, 講師, 2013年4月10日, 琵琶湖博物館.

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

新琵琶湖博物館創造基本計画「B展示室 身近な自然と暮らしの歴史ー見えない未来が見えてくるー」, 取りまとめ.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2013 年度，新琵琶湖博物館創造準備室，展示ワーキンググループ。

本年度は、「人と自然との関係性の社会学的検討」を研究主題としている。湖沼環境保全を担う鍵は、その地域の暮らしにあると考え、フィールド調査研究を進めてきた。

研究活動においては、今年度は水郷地帯における水をめぐるコミュニティづくり、そして、地域文化財としての水郷資源の利用などについて、多様な基礎資料を獲得することができた。また、琵琶湖の湖辺に水郷地帯1箇所のみにしぼらざるを得なかった。しかしながら、水郷を文化資源としての特徴に即して、同じ水郷地帯である太湖周辺の水郷地帯と対照しながら調査することが可能になった。本調査では、まず従来の伝統的な土地改革にあった水辺利用の仕組みについて注目し、湖をもつ水郷社会の特質を明らかにすることができた。

研究成果においては、これまでに実施してきた研究調査の一部を学術誌に掲載されたとともに、2014年3月22日の「魚米之郷を語る」講演会で研究成果の公表を行った。そして、異分野との共同研究については、主に外部資金による科学研究費補助金基盤研究C研究課題「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」（研究代表者：楊平）及び日本文部科学省科学研究費補助金基盤研究C研究課題「貯蔵」と「加工」からみた東アジア農耕導入期の野生植物食料利用の実態とその変遷」の研究分担者として研究を進めた。また、河川財団からの補助を受けて実施した事業「琵琶湖水系における地域住民主体の湧水環境保全に向けた民俗論」に関する研究成果は、平成25年度優秀研究成果賞を受賞し、その報告書が河川環境管理財団ホームページに掲載された。

事業活動として、企画調整課の事業については、国際交流事業の推進・主担当、電子媒体による質問等の受付および情報整理・主担当、日本博物館協会・全国科学博物館協会・日本動物園水族館協会関連・主担当として業務を行った。また、研究成果の還元につなぐ事業活動としては、中国湖南省で移動博物館展示を開催し、琵琶湖や琵琶湖博物館の紹介・解説、関連の研究機関との交流などを行った。

印刷物

【学術論文】

- 楊 平 (2014) 水辺生活にみる慣習的共生システムの形成と湖保全の持続可能性. *湖の現状と未来可能性*, 3, 松香堂書店: 27-39.
- 楊 平 (2014) 从环境社会学研究领域探讨环境教育的方向. *哲学社会科学版*, 15, 河海大学: 21-23.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 楊 平 (2013年7月16日) 湖の保全と暮らし. 洞庭湖・びわ湖流域共同環境セミナー, 滋賀県, 長沙市(中国湖南省), [口頭発表].
- 楊 平 (2013年8月16日) 資源利用をめぐる暮らしと景観. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「農村地域における水と暮らしに関する社会環境学的研究」, (2013年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「太湖における水田環境の機能解明と民俗・考古基礎資料整備」(研究代表者: 楊平), 研究代表者(2011~2014年度).
- 科学研究費補助金(基盤C)「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」(研究代表者: 楊

平), 研究代表者 (2010~2014 年度).

科学研究費補助金 (基盤 C) 「『貯蔵』と『加工』からみた東アジア農耕導入期の野生植物食料利用の実態とその変遷」(研究代表者: 細谷 葵), 研究分担者 (2012~2014 年度).

科学研究費補助金 (基盤 B) 「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究モデル構築」(研究代表者: 用田政晴), 研究分担者 (2013~2016 年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013 年 10 月~2014 年 3 月, 滋賀県立大学環境科学部, 「比較文化」.

【受賞など】

公益財団法人河川財団河川整備基金助成事業優秀成果賞, 2013 年 11 月 6 日, 「琵琶湖水系における地域住民主体の湧水環境保存に向けた民俗論」の研究成果に対して, (用田政晴・楊 平).

博物館事業に関する業績

【交流サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10 件.

2014 年 3 月 22 日, 滋賀県ミュージアム活性化推進委員会, 日中共同博物館・大学講演会「魚米之郷を語る一太湖・洞庭湖の水辺の暮らしー」, 琵琶湖博物館, 企画・運営.

他の博物館・機関等主催行事

2013 年 7 月 5 日, 概要説明・展示解説等, JICA 地域別研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2013 年 7 月 23 日, 展示概要の説明, 近江ふるさと会, 琵琶湖博物館, 講師.

2013 年 7 月 30 日, 展示概要の説明, 近江ふるさと会, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2013 年 4 月 21 日, 視察・取材・展示概要の説明, 中国記者団.

2013 年 7 月 10 日, 展示概要の説明・通訳内容等の指導等, 両県省友好提携 30 周年記念事業関連.

2013 年 8 月 8 日, 博物館案内, 中国アジアヨーロッパ水利用センター.

2013 年 9 月 7 日, 研究意見交換・概要説明・展示案内, 国立台南芸術大学.

2013 年 9 月 13 日, 博物館案内, 台湾国立歴史博物館.

2013 年 10 月 29 日, 研究意見交換・展示解説・展示案内, マレーシアの研究者訪問団.

2013 年 11 月 7 日, 展示解説・展示案内, ミャンマー農業灌漑省副大臣.

2013 年 11 月 13 日, 概要説明・展示案内, 中国湖南省における「都市污水处理運轉管理技術と住民環境意識」プロジェクト事業.

2013 年 11 月 20 日, 博物館案内, 中国湖南省博物館.

2013 年 12 月 19 日, 展示紹介・案内, 台湾台南市政府副市长ら訪問団.

2013 年 12 月 20 日, 研究概要の紹介・展示解説, 中国訪日教育旅行誘致事業における教育関係者.

2014 年 3 月 2 日, 研究概要の紹介・展示解説・視察対応, 南京大学研究者訪問団.

2014 年 3 月 6 日, 展示紹介・案内, 台南市政府関係者.

2014 年 3 月 27 日, 概要及び展示説明, 韓国環境財団.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電子媒体による質問等の問い合わせ, 回答, 2 件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の寄贈受け入れ，3件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年度，琵琶湖博物館常設展示（C展示室）維持管理，担当.

琵琶湖博物館関連のパンフレット，中国語版の翻訳・作成等.

2013年12月9日～2014年1月20日（C展示室富江家周辺工事期間中），特設展示「東アジアの田んぼと漁労」，琵琶湖博物館.

モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

国際交流事業の推進，主担当.

電子媒体による質問等の受付および情報整理，主担当.

日本博物館協会・全国科学博物館協会・日本動物園水族館協会など，主担当.

海外研究機関との交流・連携，主担当.

湖南省－滋賀県友好提携30周年記念式典，友好提携調印式等の対応，2013年11月19日，大津市・ビアンカ船上.

日本動物水族近畿ブロック園館長会議，2014年2月17日，事務局.

地域発見！参加型移動博物館事業，展示「琵琶湖・洞庭湖～滋賀県・湖南省友好提携30周年記念事業」関連，展示業務・友好交流，2014年3月12日～3月15日，中国湖南省，担当.

日中共同博物館・大学講演会「魚米之郷を語る－太湖・洞庭湖の水辺の暮らし」，総括対応、翻訳・通訳等，2014年3月22日，琵琶湖博物館，

【研究部関連事業】

海外の研究機関との連携，主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2013年6月23日～30日，江蘇省南京市，民俗資料収集調査、研究連携会議.

2013年7月15日～21日，湖南省長沙市，博物館調査および協力協定会議.

2013年11月17日～24日，浙江省周辺，現地資料収集・研究調査.

2014年3月9日～3月17日，湖南省，琵琶湖博物館移動博物館事業.

河川行政の課題の1つである河川の維持管理に伴って発生した伐採竹の処分コスト縮減や資源としての循環利用の可能性について検討を進めている。

竹の利活用については様々な分野で研究開発が進められている。その中で有効な手法の1つとして期待されているのが、畜産での敷料利用である。昨年度は畜産農家へのヒアリングや試験観察などの検討を行い、竹パウダーを敷料や堆肥促進剤として利用できるものの、河川の維持管理コストの削減に関しては、行政のみが関わる形では困難であることが判った。しかし、竹パウダーの持つ乳酸菌が敷料としての付加価値や、堆肥を通じた耕種農家との連携などの可能性を秘めていることも実感できた。今年度は昨年検討結果をふまえ、他府県の研究について情報収集するとともに、関係機関と今後の進め方について協議し、竹をパウダーではなく細かいチップに加工し、堆肥促進剤として比較的安いコストで提供できないか検討することとなった。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の活動

質問コーナー・フロアトーク、琵琶湖博物館、1件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2013年度、滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室河川環境チーム、主査を兼務。

2013年4月14日～2014年3月31日、産前産後休暇および育児休業取得。

主に琵琶湖の湖底堆積物を対象とした花粉分析に基づいた、東アジア地域における過去数十万年間の森林植生の変遷と気候変動、さらには人間活動との関連についての研究を進めている。

本年度から、日本学術振興会の科学研究費助成事業が採択され、日本の森林動態の変化に対する日本海環境、東アジアモンスーンの影響について解明するため、日本海堆積物の花粉分析を進めている。さらに、琵琶湖博物館申請専門研究として、琵琶湖周辺における縄文時代以降の植生復元に向けた基礎的研究を実施した。琵琶湖地域における古生態学データの収集に関しては、博物館図書資料として収蔵されている滋賀県遺跡報告書の中から200点のデータが示された文献を収集、整理することができた。また、琵琶湖表層堆積物の花粉分析データを用いた定量的植生復元手法の検討を進め、手法の妥当性を確認することができた。加えて、この定量的植生復元手法のさらなる検討を進めるために重要な比較地点として、山形県の畑谷大沼表層堆積物の花粉分析を行った。本研究については、来年度から始まる琵琶湖博物館総合研究の中で継続していく予定である。

これらの研究成果の一部については、畑谷大沼表層堆積物の花粉分析結果が日本花粉学会会誌に印刷中であり、日本花粉学会大会や日本植生学会大会、日本生態学会大会において発表を行った。また、研究成果については琵琶湖博物館研究セミナーや毎日新聞のコラム記事、うみっこ通信を通して、一般に向けての紹介にも努めた。

博物館事業に関しては、交流グループの一員として主にフィールドレポーター事業と観察会等のイベントの運営企画事業、質問コーナーの運営事業を担当した。フィールドレポーター事業については、活性化と新規登録者の確保を目指し、フィールドレポータースタッフの方々と協力しながら、今後の進展のために、魅力ある調査内容の検討やアキアカネ調査の花博助成金の獲得等を行うことができた。また、博物館主催のわくわく探検隊や講座での講師、環境学習指導者養成講座（主催：草津市教育研究所）をはじめとした地域連携事業での講師を勤めた。さらに、新琵琶湖学セミナーの主担当として企画と運営を行い、湖南省友好提携30周年記念事業にも博物館の代表の一員として参加した。

館外での活動としては、環境と科学のフェスティバルの実行委員としてイベントの企画運営に携わり、琵琶湖博物館としての参加協力を行った。また、滋賀県博物館協議会の記念事業委員幹事として、京都文化博物館で実施した滋賀の博物館・美術館逸品展の企画運営に取り組んだ。

印刷物

【専門分野の著作】

林 竜馬・高原 光（2014）東アジアの花粉記録に残された千年スケールでの植生変動の証拠. 号外 地球, 63, 海洋出版株式会社：74-79.

【一般向けの著作】

林 竜馬（2013）ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～25 回復すべき自然の姿とは. 毎日新聞, 毎日新聞社, 6月4日.

林 竜馬（2013）花粉の化石が教えてくれる昔の森の姿. うみっこ通信, 10, 滋賀県立琵琶湖博物館：1-3.

林 竜馬（2013）巻頭言. 琵琶湖博物館フィールドレポーター掲示板, 71, 琵琶湖博物館フィールドレポーター：1.

林 竜馬（2013）巻頭言. 琵琶湖博物館フィールドレポーター掲示板, 72, 琵琶湖博物館フィールドレポーター：1.

林 竜馬（2013）巻頭言. 琵琶湖博物館フィールドレポーター掲示板, 73, 琵琶湖博物館フィールドレポーター：1.

林 竜馬（2013）巻頭言. 琵琶湖博物館フィールドレポーター掲示板, 74, 琵琶湖博物館フィールドレポーター：1.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 林 竜馬 (2013 年 4 月 19 日) 琵琶湖堆積物の花粉分析による定量的植生復元手法の検討. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 林 竜馬 (2013 年 8 月 10 日) 花粉化石. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト一次発掘参加者報告会, 多賀町立博物館 (滋賀県犬上郡), [口頭発表].
- 林 竜馬・牧野 渡・占部城太郎・栗野 将・槻木玲美・小田寛貴 (2013 年 8 月 31 日) 山形県畑谷大沼周辺における過去 50 年間の植生とスギ花粉年間堆積量の変化. 日本花粉学会第 54 回大会, 日本花粉学会, 松山大学 (愛媛県松山市), [ポスター発表].
- 林 竜馬 (2013 年 10 月 13 日) 花粉化石. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト一次発掘参加者報告会, 多賀町立博物館 (滋賀県犬上郡), [口頭発表].
- 林 竜馬・高原 光・井内美郎・竹村恵二 (2013 年 12 月 1 日) 琵琶湖堆積物の花粉分析からみる過去 15 万年間の植生変動と気候システムの季節性. 第 28 回日本植生史学会大会, 日本植生史学会, 高知大学 (高知県高知市), [ポスター発表].
- 矢部 淳・藤井良太・百原 新・寺田和雄・高原 光・林 竜馬 (2013 年 12 月 1 日) 福井市北方水切泥炭層の植物遺体に基づいた最終間氷期-最終氷期境界の植生変遷. 第 28 回日本植生史学会大会, 日本植生史学会, 高知大学 (高知県高知市), [ポスター発表].
- 佐々木尚子・林 竜馬・兵藤不二夫・槻木玲美・加三千宣・牧野 渡・占部城太郎 (2014 年 3 月 15 日) 湖沼堆積物の花粉組成はどの範囲の植生を反映しているか? GIS を用いた湖沼堆積物中の花粉組成と周辺植生の比較. 日本生態学会第 61 回大会, 日本生態学会, 広島国際会議場 (広島県広島市), [ポスター発表].
- 高原 光・佐々木尚子・林 竜馬 (2014 年 3 月 16 日) 近畿地方における過去 3000 年間の人間活動が現植生の成立過程に与えた影響. 日本生態学会第 61 回大会, 日本生態学会, 広島国際会議場 (広島県広島市), [口頭発表].
- 志知幸治・池田重人・岡本 透・林 竜馬 (2014 年 3 月 29 日) 花粉分析に基づく秋田県北西部の完新世におけるスギ林変遷. 第 125 回日本森林学会大会, 日本森林学会, 大宮ソニックシティ (埼玉県さいたま市), [ポスター発表].
- 池田重人・志知幸治・岡本 透・林 竜馬 (2014 年 3 月 29 日) 北秋田市上谷地における花粉分析に基づく完新世後期の山地帯スギ林の変遷. 第 125 回日本森林学会大会, 日本森林学会, 大宮ソニックシティ (埼玉県さいたま市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖周辺における縄文時代以降の植生環境復元に向けた基礎的研究ー花粉分析データの収集と定量的復元のための手法の検討ー」, (2013 年度) .
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者: 高橋啓一), 共同研究者 (2011~2015 年度) .
- 科学研究費助成金(若手 B)「日本海堆積物の花粉分析からみる森林動態に対する海洋・モンスーン変動の影響評価」(研究代表者: 林 竜馬), 研究代表者 (2013~2016 年度) .

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本花粉学会, 日本花粉学会会誌, 編集委員.
地質学雑誌, 査読, 1 件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。

2013年4月27日，春の草花でしおりをつくろう，体験プログラムわくわく探検隊，琵琶湖博物館，指導補助。

2013年7月28日，琵琶湖の生い立ちをさぐる方法3：花粉化石，講座，琵琶湖博物館，講師。

2013年7月28日，博物館夏祭り，博物館夏祭り実行委員会，ビバシティ彦根（彦根市），企画運営・実行委員。

2013年10月12日，秋の色をさがしてみよう，体験プログラムわくわく探検隊，琵琶湖博物館，指導補助。

他の博物館・機関等主催行事

2013年8月1日，木をはかる・森をはかる，草津市教育研究所，環境学習指導者養成講座，ロクハ公園および草津市教育研究所（滋賀県草津市），講師。

2013年11月17日，博物館周辺及び湖畔の生態系観察，NPO自然と緑，自然大学琵琶湖実習，琵琶湖博物館，講師。

2014年3月1日，森の移り変わりと里山の歴史について，清水・小脇街づくり委員会，琵琶湖博物館研修，琵琶湖博物館，講師。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電子媒体による質問対応，花粉に関する質問への回答，1件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本整備，収蔵庫維持管理，担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年12月21日～2014年2月2日，ギャラリー展示「巡回展 アケボノゾウ発掘から20年～新たな発見を求めて～」，副担当。

モーニングレクチャー，講義，4回。

他博物館・機関の活動

多賀町立博物館，2013年10月5日～12月11日，企画展「アケボノゾウ発掘から20年～新たな発見を求めて～」，展示物原稿作成。

【企画調整活動】

滋賀県博物館協議会記念事業委員会「滋賀の博物館・美術館 逸品展 美と歴史のおもてなし SHIGA MUSEUM TOUR」，企画運営，2014年1月30日～2月2日，京都文化博物館（京都市）。

地域発見！参加型移動博物館事業，展示撤収，2014年2月19日，日本生命丸の内ビル。

【研究部関連事業】

新琵琶湖学セミナー，主担当，2013年度，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2013 年度，新琵琶湖博物館創造準備室，展示ワーキンググループ。

2013 年度，滋賀県博物館協議会記念事業委員会，幹事。

2013 年度，環境と科学のフェスティバル実行委員会，委員。

【海外渡航】

2013 年 7 月 15 日～21 日，中国湖南省，湖南省友好提携 30 周年記念事業「博物館交流連携事業」。

平成 25 年度の研究活動は、琵琶湖博物館申請専門研究「過疎集落と他出先市街地における二地域居住の実態の解明」に取り組んだ。

本研究は、過疎集落と市街地における二地域居住、住民組織への二重加入に着目し、その実態を明らかにすることを通し、(1) これからの過疎集落における資源管理やガバナンスのあり方に示唆を与えること、(2) 高度経済成長期以降の家と地域との変容を、農村と都市の両者を繋ぐ視点から問い直すこと、を目的としている。人口の半数以上が 65 歳以上の集落を「限界集落」と名付け、それが人口ゼロの「消滅集落」へ向かうであろうという大野 (1991) の指摘から、すでに 20 年以上が経過した。人口ゼロになりつつある／すでになった集落を、地域住民はどのようにしていこうと考えているのか、あるいは、行政や外部者の関与も視野に入れながらどのように次世代に繋いでいく可能性があるのか、検討している。

この研究の一環として、他出者の中に、出身集落と、他出先市街地の双方の自治会へのかかわりを継続しているメンバーが多数存在していることに着目し、滋賀県多賀町、滋賀県余呉町、山梨県早川町でフィールド調査を行った。以上の研究について、これまでに収集したデータの整理と論文執筆を行った。

成果の一部は、林業経済学会(2013年11月)にて、「出身山村と他出先との二地域居住」として口頭発表を行った。本発表では、内実が様々である二地域居住の実態について、山村で生活する時間の長短から、居住型、準居住型、帰省型として類型化し、それぞれが山村地域社会で果たしている役割を考察した。自家用車で日帰り可能な他出先から、出身山村を日常的に訪れ、耕作、養蜂、家屋の手入れなどを行う「準居住型」の中には、集落の役職を任される者もいた。暮らしの中で、道路や簡易水道の日常的な管理や、毎月のお題目などの細々とした行事の開催、集落内の自主的な清掃など、様々な役割を担っている「居住型」の重要性は言うまでもないが、他出者が増加する中、行事ごとに帰ってくる「帰省型」の存在が、作業量の多い総人足や賑わいある祭りを可能にしてきたことも事実である。ハレを支える帰省型と、ケを支える居住型・準居住型の組み合わせにより、山村での営みを細々とあれ継続していくことで、山村を次世代へと繋ぐ可能性を提起した。

印刷物

【専門分野の著作】

大久保実香 (2013) 子どもたち孫たちと繋いでいく行事—過疎地域のこれからを考える. 2013 年度鹿児島国際大学大学院国際文化研究科公開研究会「地域文化の継承と創造」報告書, 鹿児島国際大学: 13.

大久保実香 (2013) 出身山村と他出先との二地域居住. 林業経済学会 2013 年秋季大会要旨集, 林業経済学会: 13.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

大久保実香 (2013 年 5 月 12 日) 山村集落の人と暮らし—あるいは、むらを離れて暮らすということ. 第 18 回南島学らいふとーく, トカラ塾, ギャラリー GALA (東京都世田谷区), [口頭発表].

大久保実香 (2013 年 5 月 17 日) 栽培植物と人間. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

大久保実香 (2013 年 11 月 9 日) 出身山村と他出先との二地域居住. 林業経済学会 2013 年秋季大会, 日本林業経済学会, 高知大学 (高知県高知市), [口頭発表].

大久保実香（2013年11月30日）子どもたち孫たちと繋いでいく行事ー過疎地域のこれからのを考える。平成25年度鹿児島国際大学大学院国際文化研究科公開研究会「地域文化の継承と創造」、鹿児島国際大学国際文化研究科、鹿児島国際大学（鹿児島県鹿児島市）、[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「過疎集落と他出先市街地における二地域居住の実態の解明」、(2013年度)

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

国際commons学会，第14回世界大会（北富士大会）組織委員会事務局，2013年3月～6月。

国際commons学会，第14回世界大会（北富士大会）フィールドトリップ「HAYAKAWA SLASH AND BURN- Changing lifestyles in mountain villages」，コーディネーター（鞍打大輔氏と共同），2013年6月6日。

国際commons学会，第14回世界大会（北富士大会）ポストカンファレンスフィールドトリップ「BIWA-KO - Governing a complex watershed : Lessons from the Lake Biwa - Yodo River Watershed in SHIGA, KYOTO and OSAKA prefectures」，コーディネーター（大野智彦氏と共同），2013年6月8日～9日。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

はしかけ「暮らしをつづる会」，運営（2013年11月発足）。

2013年7月6日，夏祭りのお話，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！，琵琶湖博物館，講演。

2013年8月2日，資料整備活動の実習指導，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2013年9月16日，昔の暮らしをインタビュー，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，主担当。

2013年10月14日，職人さんの技と知恵！カエデの木がカゴになる，企画展示関連イベント，琵琶湖博物館，運営。

2013年10月19日，作って食べよう！滋賀の伝統料理，企画展示関連イベント，琵琶湖博物館，運営。

2014年3月15日，西川嘉廣さんとヨシ博物館ーこれからの活用に向けてー，交流会，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会・滋賀県立大学近江楽座地域博物館プロジェクト，琵琶湖博物館，進行。

他の博物館・機関等主催行事

2013年9月28日，琵琶湖博物館における地域の人びととの連携，JICA，平成25年度JICAエチオピア国別研修「農業イノベーションと研究・普及連携」コース，琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

2013年9月23日，京都新聞，湖国探研62，取材対応，（2013年9月11日）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

「地域のコレクションを活用した人材育成事業」（文化庁「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」）におけるヨシ博物館資料の整理等，実施。

収蔵資料の貸出・返却，対応，1件。

環境資料の受入れ，対応。

図書資料の受け入れ，対応。

環境収蔵庫定期清掃，実施。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎―植物研究にかけた情熱―」, 担当.

琵琶湖博物館第21回企画展示「生きものがたり ―生物多様性 湖国から 世界から―」, 地域のくらしと生物多様性, 担当, (滋賀の食事文化研究会と共同).

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

新任職員等研修, 図書室について説明, 講師, 2013年4月10日, 琵琶湖博物館.

研修生(図書資料整理)の受け入れ, 三重県立博物館, 2013年6月25~26日, 琵琶湖博物館.

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

新琵琶湖博物館創造基本計画の策定, C展示室の再構築について, 主担当.

C展示室の再構築に向けたワーキンググループ会議の運営, 担当.

交流機能利用者参加制度ワーキンググループ, メンバー.

2013年8月1日, 新琵琶湖博物館創造基本計画検討会議検討委員会による現地視察, C展示室, 担当.

2013年8月7日, 新琵琶湖博物館創造基本計画検討会議検討委員会による現地視察, C展示室, 担当.

2014年2月8日, 県民ワークショップ, C展示室について, 担当.

2014年2月10日, 展示交流員さんとの交流会, C展示室について, 担当.

新琵琶湖博物館創造基本計画検討会議検討委員会, 出席.

新琵琶湖博物館創造基本計画, 「あたらしいびわこはくぶつかん」C展示室, 原稿執筆.

【研究部関連事業】

研究セミナー, 主担当, 12件, 2013年度, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2013年度, 新琵琶湖博物館創造準備室.

2012年4月~2014年3月, 滋賀県博物館協議会, 広報委員.

平成 25 年度 (2013 年度) は、ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎―植物研究にかけた情熱―」の副担当として、打ち合わせ会議の開催や植物写真の撮影、企画展示室の空間配置などの業務に携わった。また、橋本忠太郎氏が収集した貝類標本の展示についても担当した。企画展示「生きものがたり ―生物多様性 湖国から 世界から―」では、副担当として打ち合わせ会議の開催、生物写真の撮影、展示標本類の借用、展示製作などに携わった。特に 2010 年に西湖で確認されたクニマスの生体展示や、日本国内で絶滅したニホンカワウソ、ニホンオオカミ、ニホンアシカなどの借り受けや展示に携わった。文化庁からの助成事業である平成 25 年度文化芸術振興費補助金 (文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業) では全体の進行管理を行った。その内容は、地域のコレクションが収集された、現在閉鎖されている博物館の資料を、大学、地域と連携して整理、研究、そして展示する事業や、地域の博物館や教育委員会に所蔵されている映像資料を調査し、集められた映像を編集し情報発信するための PR 映像にする事業や、国際交流の拠点として、中国湖南省での移動博物館開催や中国の研究者を招いた講演会を開催する事業など 3 つの事業を展開した。

研究では、滋賀県内の移入貝類と在来の小型貝類について、専門誌に投稿する準備を進めている。また、現在学術雑誌に投稿中のイチモンジタナゴの遺伝的多様性に関する論文に、共著者として参加している。この他、魚類の性決定機構を解明する目的で、成長段階における精巢の発達状況についての理解研究を行うための準備を進めた。共同研究「微小生物」では、微小生物の展示方法を考えるため、最先端の映像技術の収集や先進的な水族館への視察を実施した。また、淡水生のマミズクラゲの飼育展示・飼育方法の開発に協力した。

印刷物

【専門分野の著作】

松田征也 (2013) ハリヨ生息域外保全モデル事業実施報告. 平成 24 年度 絶滅のおそれのある野生動植物の生息域外保全方策検討業務報告, 環境省自然環境局野生生物課 : 90-99.

松田征也 (2013) イチモンジタナゴ生息域外保全モデル事業実施報告. 平成 24 年度 絶滅のおそれのある野生動植物の生息域外保全方策検討業務報告, 環境省自然環境局野生生物課 : 100-114.

【一般向けの著作】

松田征也 (2013) 琵琶湖の住人―固有種・国内移入種・外来種とは?. 滋賀県謎解き散歩, 新人物往来社 : 213-215.

松田征也 (2013) 日本一の規模を誇る 琵琶湖の数字トリビア. 滋賀県謎解き散歩, 新人物往来社 : 186-187.

松田征也 (2013) 琵琶湖はいつ、どうして、誕生したのか?. 滋賀県謎解き散歩, 新人物往来社 : 188-190.

松田征也 (2013) 琵琶湖のボテジャコ. ヨシでびわ湖を守るネットワーク通信, 17, (株)コクヨ工業滋賀 : 2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

松田征也 (2013 年 9 月 20 日) 希少淡水魚の野生復帰について (ハリヨ・イチモンジタナゴ). 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「希少淡水魚における性決定について」，（2013年度）。

琵琶湖博物館共同研究「微小な生物の飼育技術開発および展示技法」（研究代表者：松田征也），研究代表者（2013～2015年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の活動

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。

2013年7月28日，初心者のためのふなずし作り体験，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，講師，（菅原和宏と共同）。

2013年7月30日，事業部について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2013年7月31日，琵琶湖の貝を調べよう，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，指導。

2014年1月25日，水族バックヤード探検，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，企画・案内。

2014年2月22日，水族バックヤード探検，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，企画・案内。

他の博物館・機関等主催行事

2013年6月26日，地域との連携，JICA，研修，琵琶湖博物館，講師。

2013年6月30日，博物館研修，近畿大学農学部，琵琶湖博物館，講師。

2013年7月3日，ハリヨについて，岐阜県海津市教育委員会，視察研修，琵琶湖博物館，講師。

2013年7月20日，平成25年夏季特別展 華麗なる漁と美味なる食一魚・人・琵琶湖の過去・現在・未来一，安土城考古博物館，講演会，安土城考古博物館（滋賀県近江八幡市），企画運営。

2013年8月7日，琵琶湖の概要と水族展示室の解説①②，環境教育研究協議会，平成25年度環境教育研究協議会教員研修，琵琶湖博物館，講師。

2013年9月13日，絶滅のおそれのある種の生息域外保全について，環境調査研修所，平成25年度野生生物研修，琵琶湖博物館，講演。

2013年12月4日，水族展示の案内，近畿工業化学研究会，研修会，琵琶湖博物館，案内。

2014年2月28日，エコスクール協議会，大津市立逢坂小学校エコスクール協議会，大津市立逢坂小学校，委員。

2014年3月27日，淡水真珠について，夢琵琶湖，研修会，琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

2013年10月30日，読売テレビ 関西情報ネット ten 若一光司のミステリーファイル，マミズクラゲの飼育，取材協力，（2013年9月26日）。

2013年10月3日，NHK おうみ発610，クイズで知るびわ湖，取材協力，（2013年9月28日）。

2014年1月25日，NHK おうみ発610，水族バックヤード探検，取材協力，（2014年1月25日）。

2014年2月22日，びわ湖放送，水族バックヤード探検，取材協力，（2014年2月22日）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館インターネットページ・博物館ニュース，写真提供，3件。

【資料整備活動】

他博物館・機関の活動

海の中道海洋生態科学館，ヒナモロコ10尾，分譲。

葛西臨海水族園，ゼニタナゴ40尾，分譲。

亀岡市文化資料館，アユモドキ 5 尾，貸出。
宮島水族館，ワタカ 10 尾，貸出。
宮島水族館，ワタカ 10 尾，分譲。
岡山理科大学生物地球学部，魚類咽頭歯標本，貸出。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013 年 4 月 6 日～6 月 9 日，ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎―植物研究にかけた情熱―」，副担当。
2013 年 7 月 20 日～11 月 24 日，琵琶湖博物館第 21 回企画展示「生きものがたり ―生物多様性 湖国から 世界から―」，副担当。
2012 年 8 月 2 日～2014 年 1 月 17 日（金），水族トピック展示，マミズクラゲ，企画。
6 月 18 日（火）～7 月 7 日（日），水族トピック展示，絶滅危惧種 イチモンジタナゴの稚魚，企画。
7 月 9 日（火）～8 月 4 日（日），水族トピック展示，絶滅危惧種 カゼトゲタナゴの稚魚，企画。
8 月 6 日（火）～9 月 1 日（日），水族トピック展示，天然記念物「アユモドキの幼魚」絶滅危惧種，企画。
9 月 7 日（土）～9 月 29 日（日），水族トピック展示，絶滅危惧種 ニッポンバラタナゴの稚魚，企画。
10 月 1 日（火）～12 月 8 日（日），水族トピック展示，絶滅危惧種 スイゲンゼニタナゴ，企画。
10 月 22 日（火）～11 月 10 日（日），水族トピック展示，産卵期を迎えたカネヒラ，企画。
10 月 26 日（土）～11 月 24 日（日），企画展示関連水族トピック展示，幻の魚 クニマス，企画。
11 月 12 日（火）～12 月 8 日（日），水族トピック展示，産卵期を迎えたゼニタナゴ，企画。
モーニングレクチャー，講義，4 回。

他博物館・機関の活動

亀岡市文化資料館，2013 年 7 月 10 日～9 月 30 日，ロビー展，展示協力。
宮島水族館，2013 年 12 月 12 日～2014 年 1 月 31 日，干支展，展示協力。

【研究部関連事業】

調査船「うみんど」管理，副担当。
研究用アルコール管理，主担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，事務局。
滋賀県博物館協議会，事務局次長。

【館外の活動】

1999 年～，守山湖岸再生部会，委員。
2000 年～，木浜内湖再生部会，委員。
2004 年～，淀川水系アユモドキ連絡協議会（環境省），委員。
2011 年～，生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，ニッポンバラタナゴ種別計画管理者。
2011 年～，生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，アユモドキ種別計画管理者。
2011 年～，生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，イチモンジタナゴ種別計画管理者。
2013 年～，亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム（仮称）に係る環境保全専門家会議，委員。
2013 年～，生物多様性委員会・保全戦略部，部員。
2013 年～，亀岡市アユモドキ緊急調査検討委員会，委員。
2014 年～，特定非営利活動法人 西日本自然史系博物館ネットワーク，理事。

2014 年～，愛知目標達成のための侵略的外来種リスト作成に向けた魚類ワーキンググループ，検討委員.
2014 年～，侵略的外来種リスト作成に向けた魚類 WG 会合，検討委員.
2014 年～，淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会，委員.

今年度も、環境学習センターの所長を研究部との兼務で行なった。環境学習センターでは、「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！」を主催したり、環境ホットカフェを実施したりといった様なイベントも多々あるが、地域で活動している個人や団体との情報を収集し、それらの情報を元に活動を行いたいと思っている人達を支援していくことが主要な業務となる。しかし、2010年に博物館に移管される際に環境推進員が1名に減員されたことから、実際には情報収集ができなくなり活動も停滞していた。昨年度から環境学習推進員が2名になったことで多少なりとも情報収集を行うことができるようになり、活動も活発になってきたもののまだ十分とはいえない状況である。今年度に第四次環境総合計画が策定され、環境学習センターの位置づけと活動内容についても大きく設定された。そのような中、今年度については環境審議会等環境学習に関連する審議の場に参加はしたものの、環境学習センターとしてそれらの議論に加わることはできなかった。これは、琵琶湖博物館の中での環境学習センターの立ち位置がきちんと理解できておらず、環境政策課環境政策担当グループとの連携がうまくとれていなかったことにも起因するものと考えている。新年度は環境総合計画で謳われている(仮称)環境学習推進協議会の事務局にも入らなければならないことから、環境政策課との連携をもっと密にしていく必要がある。

博物館事業としては、リニューアルに向けてアナンデルヨコエビ、ビワオオウズムシ、イサザ等の長期飼育試験を行うとともに、トピック水槽において展示を行った。飼育試験では、イサザではほぼ周年飼育することができたことから、展示方法の確立に向けてさらに飼育試験を進める。ビワオオウズムシについては、現状ではほぼ半年間は生存しているものの、餌を捕食しているかどうかの確認ができていないものの、卵囊から孵化した幼生からの飼育の可能性について検討を進めているところである。

研究活動では、「定期サンプリングによる湖内におけるビワマスの基礎的生態情報の取得」というテーマで、東大グループおよび近大グループと共同研究をすすめ、今年度はその最終年度に当たる。私の分担である胃内容物の季節変化について、3年間のデータを比較することで、新たな知見も得ることができた。ただ、この3年間はスジエビやアユなどビワマスの主要な餌生物の漁獲量が激減するなどのイベントが続いたことから、状況を見ながら再度調査を行う必要があるかもしれない。

魚類学雑誌に掲載されているシリーズ・Series 日本の希少魚類の現状と課題に「ビワマス：その利用と保全」というタイトルで投稿し、2013年4月に発行された魚類学雑誌に掲載された。

印刷物

【学術論文】

桑原雅之 (2013) ビワマス：その利用と保全. *魚類学雑誌*, 1 (60), 日本魚類学会 : 63-67.

Amano, Y., Kuwahara, M., Takahashi, T., Shirai, K., Yamane, K., Amakawa, H., and Otake, T. (2013) Otolith elemental and Sr isotopic composition as a natal tag for Biwa salmon *Oncorhynchus masou* subsp. in Lake Biwa, Japan. *Aquatic Biology*, 19, Inter research : 85-95.

【一般向けの著作】

桑原雅之 (2013) ここだけの湖の話 ～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～28 ビワマス取り巻く生態系. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 7月23日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 桑原雅之（2013年6月21日）ビワマスはいったい何を食べたいのだろうか。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表].
- 天野洋典・桑原雅之・高橋俊郎・白井厚太郎・天川裕史・大竹二雄（2014年3月28日）耳石の微量元素組成とSr安定同位体比によるビワマスの母川回帰性の検討。平成26年度日本水産学会春季大会，日本水産学会，北海道大学函館キャンパス(北海道)，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」（研究代表者：高橋啓一），研究協力者(2011～2015年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「定期サンプリングによる湖内におけるビワマスの基礎的生態情報の取得」（研究代表者：桑原雅之），研究代表者（2011～2013年度).
- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究」，(2013年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 魚類学雑誌，査読，1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件.
- 2013年7月5・6日，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！，運営.
- 2013年7月27日，漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう，見学会，湖北町尾上，（協力：朝日漁協、金尾滋史と共同）.
- 2013年7月31日，水族展示探検，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，指導.
- 2013年12月7日，琵琶湖学習（班での調べ学習），立命館守山中学校ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，指導・助言.
- 2013年12月8日，エコクラブ交流会，琵琶湖博物館，運営.
- 2014年2月22日，水族バックヤード探検，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，講師.
- 2014年3月14・15日，びわ博春のプレミアムレストラン，琵琶湖博物館，運営.
- 2014年3月15日，環境ほっとカフェ，湖の竜宮城をつくろう 一切り絵作家・早川鉄兵さんと見つける、かつこい魚のカタチー，琵琶湖博物館，運営.

他の博物館・機関等主催行事

- 2013年5月25日，琵琶湖について，岩谷化学工業(株)，琵琶湖博物館，講師.
- 2013年6月1日，川の生きものたちを見つけられるかな，常世川再生の会，甚七町自治会(大津市)，講師.
- 2013年7月22・23日，淡水魚①，シニア自然大学，淡水魚の生態と分類，大阪環境情報プラザ・ワキタビル(大阪市)，講師.
- 2013年8月1日，淡水魚①，シニア自然大学，淡水魚の生態と分類，大阪環境情報プラザ・ワキタビル(大阪市)，講師.
- 2013年8月5・7・8日，淡水魚②，シニア自然大学，淡水魚の採集と同定，大戸川(大津市)，講師.
- 2013年9月7日，米原市ビワマス漁見学会，米原市，尾上，講師.

2013年10月11日，仕事人と語ろう，仰木の里東小学校，仰木の里東小学校，講師。
2013年11月12・13日，水族での実習，新堂中学校，職場体験，琵琶湖博物館，指導。
2013年11月23日，米原市ビワマスシンポジウム，米原市，滋賀県立文化産業交流会館，パネラー。
2013年11月26日，ビワマス教室，米原市，息長小学校，講師。
2014年3月18日，博物館の概要とビワマスについて，NHK文化センター，琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

2014年1月20日，NHK 大津，オオサンショウウオ身体測定，出演，（2014年1月20日取材）。
2014年1月23日，NHK 大津，クイズで知る琵琶湖，出演，（2014年1月22日取材）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集，担当。
水族資料維持管理，担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理，担当。
旬のさかなたち，主担当。
水族トピック展示，担当。
展示交流員と話そう，内容指導。
モーニングレクチャー，講義，4回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2013年7月15日～21日，中国湖南省長沙市・岳陽市・常德市等洞庭湖周辺，滋賀県・湖南省友好提携30周年記念事業。

【館外の活動】

日本動物園水族館協会，設備会議幹事。
野洲市環境審議会，委員。
滋賀大学環境学習支援士養成プログラム，企画運営委員。
米原市ビワマスプロジェクト，生態アドバイザー。

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化および生物地理を明らかにすることを研究目標としている。また、地域の人たちとともに滋賀県の昆虫相を解明することを目指している。

研究活動では、オサムシ上科甲虫における消化管および内部生殖器官の比較形態学的研究に関する論文が印刷された。この論文はオサムシ上科に属する 16 亜科 47 種の消化管および内部生殖器官を形態比較し、分類学的位置が曖昧であったハンミョウモドキ亜科、キノコゴミムシ族、クビナガゴミムシ亜科、ホソクビゴミムシ亜科などの系統関係を議論したものである。その成果をもとに作成された「オサムシ科甲虫の絵解き検索による見分け方」が、「絵解きで調べる昆虫～環境アセスメント動物調査手法 絵解き検索シリーズ総集編～」(日本環境動物昆虫学会編)に掲載された。日本昆虫学会のあきつ賞を受賞したウェブサイト「日本産環境指標ゴミムシ類データベース 里山のゴミムシ」の紹介記事が、日本昆虫学会和文誌に掲載された。多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトにおいて、昆虫化石班の一員として研究調査を行い、その成果を日本昆虫学会近畿支部 2013 年度大会で発表するとともに、日本甲虫学会誌「さやばね」に論文が掲載された。また、昨年度末に国際交流事業の一環として、エクス・アン・プロバンス自然史博物館の企画展示「虫愛でる国、日本」を視察したが、その企画展示の図録に日本の昆虫文化に関する 5 編の著述を行った。草津市の昆虫を調査した結果を報告書にまとめ、18 目 252 科 1,368 種を記録するなど草津市の生物相の解明に寄与した。

昨年度に引き続き研究部長として研究部の総括を行うほか、研究部代表者会議や研究審査委員会の運営に関わった。新琵琶湖博物館創造基本計画の研究部の方針を策定した。科学研究費補助金事業の学芸員全員申請に館として取り組んでいるが、申請書類に目を通すなどして採択率の向上にも努めた。また、滋賀県試験研究機関連絡会議の担当として、9 機関連携研究の館内とりまとめを行った。

博物館の事業活動では、東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市立博物館の昆虫標本について、琵琶湖博物館で修復した標本についてのデータベース化を進めた。また、資料整備活動では、約 3 万点におよぶ村山修一蝶類コレクションの登録作業を進め、次年度にはデータベースを公開する見込みである。滋賀県で 100 種目のトンボ「スナアカネ」が発見されたことを記念したトピック展示「近江はトンボの宝庫」は 1 月 25 日から 5 月 11 日まで開催予定である。2011 年から滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会の部会長を務めているが、昆虫類部会の研究成果のとりまとめの報告書を作成した。

印刷物

【学術論文】

Yahiro, K. (2014) Comparative morphology of the alimentary canal and reproductive organs of the terrestrial Caraboidea (Coleoptera: Adephegata) Part 3. *Esakia*, 54: 63-101.

八尋克郎・林 成多 (2014) 滋賀県犬上郡多賀町の古琵琶湖層群から産出したネクイハムシ属の化石. *さやばね ニューシリーズ*, 13: 35-39.

【専門分野の著作】

八尋克郎 (2014) カワウの巣に棲む昆虫類. *昆虫と自然*, 49 (4): 4-8.

Yahiro, K. and Inoue, E. (2014) Insects. ed. In *Lake Biwa Guidebook*, Shiga Prefectural Government: 54-55.

八尋克郎・武田 滋・高石清治 (2014) 草津市の昆虫. *草津市の自然*, 滋賀県草津市: 88p.

八尋克郎 (2013) オサムシ科甲虫の絵解き検索による見分け方. *絵解きで調べる昆虫～環境アセスメント動物調査手法 絵解き検索シリーズ総集編～*, 日本環境動物昆虫学会: 205-225.

八尋克郎 (2013) ウェブサイト「日本産環境指標ゴミムシ類データベース里山のゴミムシ」の紹介（「あきつ賞受賞

サイト (14)」。 *昆虫* (ニューシリーズ), 16 (3) : 168-171.

Yahiro, K. (2013) La libellule et le scarabee kabuto (トンボとカブトムシ). ed. エクス・アン・プロヴァンス自然史博物館 In *Japon, la passion des insecte* (虫愛でる国、日本), エクス・アン・プロヴァンス自然史博物館 : 14-15.

Yahiro, K. (2013) Les lucioles (ホタル). ed. エクス・アン・プロヴァンス自然史博物館 In *Japon, la passion des insectes* (虫愛でる国、日本), エクス・アン・プロヴァンス自然史博物館 : 22-23.

Yahiro, K. (2013) Les cigales (セミ). ed. エクス・アン・プロヴァンス自然史博物館 In *Japon, la passion des insectes* (虫愛でる国、日本), エクス・アン・プロヴァンス自然史博物館 : 26-27.

Yahiro, K. (2013) L' insectes a laque (ラック虫). ed. エクス・アン・プロヴァンス自然史博物館 In *Japon, la passion des insectes* (虫愛でる国、日本), エクス・アン・プロヴァンス自然史博物館 : 34-35.

Yahiro, K. (2013) Les grillons (コオロギ類). ed. エクス・アン・プロヴァンス自然史博物館 In *Japon, la passion des insectes* (虫愛でる国、日本), エクス・アン・プロヴァンス自然史博物館 : 38-39.

八尋克郎 (2013) 滋賀県新記録のニセトックリゴミムシ. *Came 虫*, 172 : 15.

【一般向けの著作】

八尋克郎 (2013) 湖岸より 187 研究手助けも博物館の役割. *中日新聞*, 中日新聞社, 7月13日.

八尋克郎 (2013) 湖岸より 190 生き物の多様性とは. *中日新聞*, 中日新聞社, 8月24日.

八尋克郎 (2013) 湖岸より 198 効果大きい資料DB化. *中日新聞*, 中日新聞社, 11月30日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

八尋克郎・林 成多 (2013年8月10日) 昆虫化石について. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト一次発掘参加者報告会, 多賀町立博物館 (滋賀県犬上郡), [ポスター発表].

八尋克郎・林 成多 (2013年10月13日) 昆虫化石について. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第一次発掘調査報告会, 多賀町立博物館 (滋賀県犬上郡), [口頭発表].

八尋克郎・林 成多 (2013年12月8日) 滋賀県犬上郡多賀町四手の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石. 日本昆虫学会近畿支部2013年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第147回例会合同大会, 大阪市立自然史博物館 (大阪府大阪市), [口頭発表].

八尋克郎・林 成多 (2014年3月2日) 滋賀県犬上郡多賀町四手の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石. 多賀町立博物館研究発表会, 多賀町立博物館 (滋賀県犬上郡), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「カワウの巣の昆虫相」, (2013年度).

琵琶湖博物館共同研究「2010年代の滋賀県のトンボ類の分布状況に関する研究」(研究代表者:河瀬直幹), 研究副代表者 (2012~2014年度).

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖を支える生命と物質の循環系に関する共同研究-I」(研究代表者:藤岡康弘), 研究分担者 (2013~2016年度).

科学研究費補助金(基盤 B)「ニッチ構築としての鳥の巣:未知の共生系の進化生態学的研究」(研究代表者:上田恵介), 研究分担者 (2013~2015年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本昆虫学会 2013・2014年度, 評議員, 2013年1月1日~.

滋賀オサムシ研究会, 事務局, 1997年度~.

地表性甲虫談話会会報, 編集幹事, 2004年度~.

Biogeography, 査読, 1件.

Entomological Science, 査読, 1件.
大阪市立自然史博物館研究報告, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

2013年7月5日, 夜の昆虫観察会, あさ、ひる、ぼん博物館を楽しもう!, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年7月21日, 昆虫, 夏休み自由研究講座, 琵琶湖博物館, 講師, (南 尊演・武田 滋氏と共同).

2013年7月30日, 博物館の研究活動, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年7月31日, 博物館周辺で昆虫採集をしよう, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 指導.

2013年8月10日, からすま半島の生きもの調査(夏の虫), からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 講師, (澤邊久美子と共同).

2013年10月26日, 問題解決のアプローチの方法, 立命館守山中学校ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年12月22日, 昆虫化石, はしかけ古琵琶湖発掘調査隊勉強会, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2013年8月7日, 昆虫から見る琵琶湖, 環境教育研究協議会, 平成25年度環境教育研究協議会教員研修, 琵琶湖博物館, 講師.

メディアへの協力

2014年1月24日, 中日新聞, 県内トンボ100種標本全て見せます, 取材対応, (2014年1月15日).

2014年1月25日, 京都新聞, 滋賀はトンボの宝庫, 取材対応, (2014年1月17日).

2014年3月8日, 産経新聞, 県内生息100種類目「スナアカネ」発見, 取材対応, (2014年1月17日).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電子媒体による質問対応, 昆虫に関する質問への回答, 4件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の寄贈, 4件.

資料の特別観覧, 2件.

資料の貸出し, 1件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館第21回企画展示「生きものがたり ―生物多様性 湖国から 世界から―」, 昆虫コーナー担当.

琵琶湖博物館第26回水族企画展示「水中の忍者たち～滋賀の水生昆虫～」, 昆虫標本展示協力.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

他博物館・機関の活動

多賀町立博物館, 2013年10月5日～12月11日, 企画展「アケボノゾウ発掘から20年～新たな発見を求めて～」, 昆虫班パネル制作協力.

【企画調整活動】

新任職員等研修，琵琶湖博物館の研究活動，講師，2013年4月9日，琵琶湖博物館。

新任職員等研修，C展示室生き物コレクション，講師，2013年4月18日，琵琶湖博物館。

JICA 博物館学コース，博物館と研究，講師，2013年5月9日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2011年4月1日～，滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，部会長。

2012年4月1日～，滋賀県環境審議会自然環境部会「指定希少野生動植物種および指定外来種の選定に関する選定小委員会」，専門委員。

2012年4月1日～，草津市自然調査，昆虫類調査，分担責任者。

2011年11月1日～2013年10月31日，大津市環境影響評価委員。

2013年4月1日～，滋賀県生物多様性大賞，選考委員。

2013年7月22日～9月30日，セミ調査，草津市環境課，アドバイザー。

森林には、地球温暖化防止・環境保全・憩いの場など多面的な機能があり、特に身近な里山については、適切な手入れが継続されることで、その機能が維持されてきた空間である。しかしながら、暮らしの中でのエネルギー構造が変化し、里山資源は利用されなくなり放置された里山が増えてきた。近年、補助事業等の導入により里山の整備が進んでいる地域もあるが、伐採された資源の利用状況は把握されていない。

現在、暮らしの多くの面で森林資源を利用していた頃とは違い、里山整備で生産される資源は火力発電所での代替エネルギーや製紙チップ原料などの利用が想定されるが、地域での薪利用も需要が高まっている。地域で生産される資源を地域で有効利用することは、地域の持続的な暮らしにつながり、炎のある新しいライフスタイルの実現を後押しするものである。

今年度は、里山整備などの活動により生産される資源の状況や流通実態を調査し、身近に利用できる薪としての利用の可能性を対象として調査研究した。

詳細事項としては、①森づくり団体等へのアンケート調査、②里山整備と森林資源の有効活用、③森林環境学習の推進、④県民参画の森づくりなどを対象とした。

①については、森づくり団体に対して森林整備活動時に発生する森林資源量、並びに薪として活用の有無等を調査した。また、森林組合等の事業体を対象に生産流通量を調査した。次年度以降、流通に関する仕組みづくりを検討する。

②については、はしかけ里山の会を支援する形で、里山の資源利用の仕方を継承している。活動としては、蕎麦づくり、味噌造り、原木キノコ栽培などを行った。

③については、兼務している森林センターの業務である「やまのこ」事業の専任指導員の研修会や、小学校担当教員への研修会での講師・指導助言などを行った。

④についても兼務している森林センターの業務である「県民講座」において、里山整備の方法や、木質バイオマスの利用に関する講師や指導助言などを行った。

交流事業としては、野洲市大篠原の里山周辺で体験教室を開催しており、四季を通じて4回企画運営した。担当しているはしかけ里山の会では独自活動を実施しており、この活動を支援してきた。

印刷物

【一般向けの著作】

安福俊幸 編 (2013) *琵琶博だより*. 13・14・15・16, 琵琶湖博物館, 草津市: 4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

安福俊幸 (2014年2月21日) 木質バイオマスの現状. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

安福俊幸 (2014年3月1日) ニホンジカによる森林植生の変化について. 滋賀県農林水産試験研究機関研究成果発表会, 滋賀県, イオンモール草津 (草津市), [ポスター発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，2件。

はしかけ運営，里山の会，担当。

2013年4月～2014年1月，里山の四季を楽しむ，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営，4件，（はしかけ「里山の会」共同）。

2013年11月16日，秋の里山を歩こう，観察会，大津市仰木の里，運営，（楠岡 泰・カワセミ自然の会・はしかけ「里山の会」と共同）。

視察対応

2013年6月2日，森林環境学習「やまのこ」事業説明，「水源の森」滋賀森林インストラクター会。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2013年度，琵琶博だより，編集委員。

2013年度，滋賀県森林センターを兼務。

2013年度は、研究代表者となっている科学研究費補助金(基盤 C)「カワウによる森林衰退に対する伝統的保全管理技術の効果と検証」の最終年度にあたり、野外実験および室内実験の準備と実施に時間と労力を割いた。実験はほぼ予定通りに実施でき、その結果をとりまとめて3月の日本生態学会大会で発表を行った。共同研究者の調査と分析も進み、生態学会ではこの研究プロジェクトから2つの発表を行うことができた。今後は、発表時にまとめきれなかったデータも含めて解析を行うとともに、採集したサンプルの分析を進めたいと考えている。

論文や本の原稿執筆については、進捗状況はさまざまである。以前分担執筆した「水辺と人の環境学(中)ー人々の生活と水辺ー」の書籍が2013年度に出版された。また、同志社大学教授の環境経済学者である室田武氏の古稀記念論文集に、共著で執筆した原稿が掲載された。鳥類の生態系サービスに関する英語の本については、鳥による物質輸送に関する章の原稿を10月に提出することができた。新たな論文の準備としては、2012年度の日本生態学会の自由集会の演者4名で、総説論文を執筆する準備が進んでいる。また、2012年度に執筆していた日本のカワウ保護管理に関する紹介原稿がヨーロッパのカワウウェブサイトに掲載されるとともに、環境省の平成25年度カワウの保護管理に関するレポートにはヨーロッパの保護管理について紹介した原稿が掲載された。これ以外にも、国内、関西地域、滋賀県内のカワウ保護管理に関する最近の動向をとりまとめたりした。さらに年度末には、滋賀県生きもの総合調査委員会による草津市生物調査について、鳥類に関する報告書のとりまとめを行った。

博物館内では、研究部生態系研究領域のサブグループリーダーとしてグループリーダーの補佐を務め、関西広域連合生態系保全検討チームの会議には、当館の主担当者として出席した。事業部では、展示グループリーダーとして展示室の運営総括を行うとともに、展示交流員の対応やC展示室の富江家耐震工事の対応を行った。また、企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」では、県内に生息する鳥類のうち当館所蔵の本剥製標本を全種展示し、好評を博した。新琵琶湖博物館創造基本計画の策定では、B展示室、C展示室、ディスカバリールーム、交流基盤機能などの議論に参加し、展示更新について検討を行った。

館外の活動としては、昨年度から引き続き、日本鳥学会の会計幹事(12月まで)および評議員、日本生態学会の生態学教育専門委員会および大会企画委員会高校生ポスター部会の委員、「野生生物と社会」学会編集委員を務めた。これに加えて1月からは、日本鳥学会和文誌編集委員会委員も務めている。行政への協力や研究の社会貢献としては、引き続き、滋賀県カワウ総合対策協議会、農林水産省近畿中国森林管理局伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ、関西地域カワウ広域保護管理計画の推進に関する検討委員会、環境省カワウ保護管理検討会などの委員として、県内、関西、国内のカワウの保護管理について協力や助言を行っている。

印刷物

【専門分野の著作】

亀田佳代子(2014)カワウ:被害と恩恵をもたらす物質輸送機能. *水辺と人の環境学(中)ー人々の生活と水辺ー*, 朝倉書店:59-61.

川那部浩哉・亀田佳代子(2014)物質輸送の生態学と室田武さん(随筆). *経済学論叢*, 65, 同志社大学:565-598.

【一般向けの著作】

亀田佳代子(2013)琵琶湖のカワウ. *ヨシでびわ湖を守るネットワーク通信*, 16, コクヨ工業滋賀:2-3.

亀田佳代子(2013)「湖国」滋賀の生きものたち 鳥類. *琵琶湖博物館第21回企画展示図録「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」*, 琵琶湖博物館:14.

亀田佳代子(2014)ヨーロッパにおけるカワウの保護管理. *平成25年度カワウの保護管理に関するレポート*, 環境省:8-9.

亀田佳代子 (2014) カワウをめぐる最近の動向. *におのうみ (日本野鳥の会滋賀会報)*, 36, 日本野鳥の会滋賀:23-24.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

亀田佳代子 (2013年9月14日) いずこも同じ!? カワウ事情 ～ヨーロッパのカワウ最前線～. 日本鳥学会 2013年度大会自由集会「カワウを通じて野生生物と人との共存を考える (その16) -アメリカとEUからの最新情報-」, 日本鳥学会, 名城大学天白キャンパス (愛知県名古屋市), [口頭発表].

亀田佳代子 (2013年9月17日) 同位体を用いた生態学・環境学研究所の過去・現在・未来. 日本鳥学会 鳥の学校: 第6回テーマ別講習会「安定同位体比分析入門」, 日本鳥学会, 名城大学天白キャンパス (愛知県名古屋市), [口頭発表].

亀田佳代子 (2013年11月15日) カワウによる樹木衰退への伝統的糞採取の効果. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

亀田佳代子 (2013年12月27日) これまでと最近やっていること. 同位体生態学研究会, 京都大学生態学研究センター, 京都大学生態学研究センター (滋賀県大津市), [口頭発表].

亀田佳代子・藤井弘章 (2014年3月18日) 伝統的糞採取はカワウによる樹木衰退を防ぐ効果があったのか?. 第61回日本生態学会大会. 日本生態学会, 広島国際会議場 (広島県広島市), [口頭発表].

前迫ゆり・亀田佳代子 (2014年3月18日) 糞採集放棄50年経過後のカワウ営巣地の植生遷移. 第61回日本生態学会大会. 日本生態学会, 広島国際会議場 (広島県広島市), [口頭発表].

【インターネットページでの公表】

Kameda, K. and Tsuboi, J. (2013年7月4日) Cormorants in Japan: Population development, conflicts and management. http://ec.europa.eu/environment/nature/cormorants/files/Cormorants_in_Japan.pdf, EU CorMan project (EU カワウ個体群の持続的保護管理プロジェクト).

Kameda, K. (2014年3月25日) Oriental Turtle Dove Kijibato (Jpn) *Streptopelia orientalis*. http://www.bird-research.jp/l_shiryu/seitai/kijibato.pdf, Ueta, M. ed. [Kurosahwa R. translation] In "Bird Research English Guide to Birds of Japan: featuring the rare and endemic birds of Japan and East Asia" the Japan Bird Research Association.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「生態系機能としての鳥類の養分輸送機能の検討」, (2013年度).

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖を支える生命と物質の循環系に関する共同研究-I」(研究代表者: 藤岡康弘), 研究分担者 (2013~2016年度).

科学研究費補助金(基盤 B)「ニッチ構築としての鳥の巣」(研究代表者: 上田恵介), 研究分担者 (2013~2015年度).

科学研究費補助金(基盤 C)「カワウによる森林衰退に対する伝統的保全管理技術の効果と検証」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究代表者 (2011~2013年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学会会計幹事, 2010年1月~2013年12月.

日本鳥学会評議員, 2006年1月~2015年12月.

日本鳥学会和文誌編集委員, 2014年1月~2015年12月.

日本鳥学会員近畿地区懇談会世話人, 2000年1月~.

日本生態学会生態学教育専門委員会委員, 2010年4月~2016年3月.

日本生態学会大会企画委員会高校生ポスター部会委員, 2012年4月~2014年3月.

日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員, 2008年1月~2014年12月.

日本生態学会近畿地区会委員，2014年1月～2015年12月。

「野生生物と社会」学会「野生生物と社会」編集委員，2012年4月～2016年3月。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件。

2013年4月28日，からすま半島の生きもの調査（春の鳥），からすま半島で楽しもう，屋外展示および烏丸半島・草津市，主担当。

2013年8月1日，展示交流について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2013年12月7日・2014年2月15日，琵琶湖の鳥について，立命館守山中学校ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講師，2件。

2013年12月14日，水鳥を観察しようー色とりどりの冬鳥たちー，体験プログラムわくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師。

2013年12月15日，からすま半島の水鳥を観察してみよう，からすま半島で楽しもう，烏丸半島周辺・草津市，主担当，（日本野鳥の会滋賀共催）。

他の博物館・機関等主催行事

2014年1月29日，生態系における鳥類ーカワウによる物質輸送機能を例としてー，滋賀県レイカディア大学，滋賀県レイカディア大学草津校びわこ環境学科選択講座，琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

2013年8月28日，朝日新聞南京都版，宇治川で越夏しているカワアイサについて，取材対応，（2013年8月25日）。

2013年12月16日，朝日新聞，観察会「からすま半島の水鳥を観察してみよう」について，取材対応，（2013年12月15日）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

鳥類資料（本剥製および骨格標本）の製作，16件。

鳥類資料の提供，受入・整理，21件。

鳥類資料の貸出，手続き・対応。

鳥類映像資料の特別観覧，手続き・対応。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年7月20日～11月24日，琵琶湖博物館第21回企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」，鳥類資料の展示。

展示担当事務の総括に関すること，主担当。

危機管理・ユニバーサルデザインの総括に関すること，主担当。

展示交流員の管理運営に関すること，主担当。

展示交流員と話そう，内容指導，2件。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

新任職員等研修，危機管理・対応とユニバーサルデザイン，講師，2013年4月11日，琵琶湖博物館。

新任職員等研修, C 展示室生きものコレクションコーナー(鳥類)の説明, 講師, 2013年4月18日, 琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

関西広域連合生物多様性保全検討チーム, 主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

新琵琶湖博物館創造準備室, B 展示室ワーキンググループ, メンバー.

新琵琶湖博物館創造準備室, 交流基盤機能ワーキンググループ, メンバー.

新琵琶湖博物館創造準備室, ディスカバリールームサブワーキンググループ, メンバー.

【館外の活動】

2012年4月1日～2014年3月31日, 京都大学生態学研究センター, 協力研究員.

2006年8月1日～2016年3月31日, 滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会, 専門委員.

2006年7月12日～2016年3月31日, 農林水産省近畿中国森林管理局伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ, 委員.

2007年11月27日～2013年11月26日, 大津市環境審議会, 委員.

2010年7月21日～2015年3月31日, 滋賀県カワウ総合対策協議会, 委員.

2013年8月6日～2014年3月31日, 環境省平成25年度カワウ保護管理検討会, 専門委員.

2014年1月6日～2016年3月31日, 関西地域カワウ広域保護管理計画の推進に関する検討委員会, 委員.

琵琶湖南湖に繁茂する沈水植物の動向のモニタリングを継続した。また、2012年の沈水植物の激減について考察し、学会で発表すると共に、学術雑誌に投稿した。他の研究への協力では、北湖の底生動物採取の際の調査船の運航を担った。

事業系の業務では広報戦略の策定を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

芳賀裕樹(2013)ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～29 南湖で繁茂する沈水植物. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 8月6日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芳賀裕樹 (2013年6月21日) 終わりののはじまりか? 2012年の南湖の水草の急減. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

芳賀裕樹 (2013年9月13日) 琵琶湖南湖の沈水植物の動向. 日本陸水学会第78回大会, 日本陸水学会, 龍谷大学 (滋賀県大津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖の湖底地形に関する研究」, (2013年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

2013年5月25日, 琵琶湖の模型を作ろう, 体験プログラムわくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年12月15日, 琵琶湖学習(班での調べ学習), 立命館守山中学校ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 助言・指導.

他の博物館・機関等主催行事

2013年5月29日, 琵琶湖・淀川の水質の話, 武庫川女子中学, 体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年6月14日, 琵琶湖の水質, 日本石鹸技術開発協会, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年8月30日, 琵琶湖南湖における水草繁茂の現状と展望, 琵琶湖市民大学, 琵琶湖市民大学, 朝日漁業会館 (滋賀県長浜市), 講師.

2013年10月17日, 琵琶湖の水質浄化に学ぶ, 生活と環境を考える会, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年11月8日, 琵琶湖の価値と最近の課題, クリタグループ, クリタグループ研修会, 大津プリンスホテル(滋

賀県大津市) , 講師.

2013年12月4日, 琵琶湖湖底の模型を作ろう, 近畿工業化学教育研究会, 近畿工業化学教育研究会秋季大会, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年12月11日, 琵琶湖の水草繁茂の現状と課題, 滋賀県環境保全協会, 開発研究プロジェクト参加募集説明会, 立命館大学びわこ草津キャンパス (滋賀県草津市) , 講師.

2014年1月27日, 琵琶湖の水質および淀川水系の水質と自然環境について, 高槻市民大学, 高槻市民大学研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年3月15日, 琵琶湖および琵琶湖博物館の紹介, 森林文化研究会, フットパスツアー, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2013年6月12日, 展示解説, ベトナム旅行社メディア視察.

2013年8月6日, 展示解説, JICA 集団研修「水環境モニタリング」関係施設訪問.

メディアへの協力

2013年6月1日, 毎日新聞, 湖国の人たち: 琵琶湖博物館専門学芸員・芳賀裕樹さん / 「琵琶湖の水草、異変探る 52カ所で重量測定」, インタビュー, (2013年5月22日取材) .

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2013年度, 大津市科学館運営協議会, 協議委員.

農業や農村地域がもつ多面的な機能は、営農を通して発揮され、農地や生産施設、水利施設などは食料生産の基盤であるとともに、地域の生きものの生息や植物の生育にとって重要な役割を果たしている。このことから、生きものが生息できる場所や移動経路の確保を目的とする環境保全活動を普及発展させるため、地域の実情に応じた様々な取り組みによる生態的な機能効果を調査した。

調査は、幹線排水路や河川に流出する前に水路の土砂を沈降させる施設として位置づけられている「泥だめ」の生態的機能を検証するため、湖北地域の姉川流域と余呉川流域の一部水田地帯において、2012年度から夏期と冬期の2回に分け、今年度は、春期と秋期の2回生物調査を実施した。4期（春・夏・秋・冬）における泥だめに生息する魚類、貝類の種類数と個体密度から、期別による個体の特徴や溜まった土砂（土質区分）の生態的な役割を検証し、特に冬期における水路内の生態を確認することができたほか、泥だめによる深みの形成と泥に含まれる有機物の有効性、さらに効果的な泥の維持管理について検証することができた。

これらの調査で得られたデータや資料は、施設の必要性や使い方等を検討するための基礎資料として、農家や地域住民が水田地帯やその周辺において、営農や地域活動によって生きものを守っていく取り組みの基盤づくりに役立てたいと考える。

事業活動では、生活実験工房を中心に田んぼ体験教室を15回企画し、計287名の参加者に水稲作と暮らしに関する体験と田んぼの生きものに触れる機会を提供し、交流のきっかけづくりを行った。展示では、観覧者の安全確保を目的とするC展示室富江家母屋の耐震補強業務を担当した。

印刷物

【一般向けの著作】

- 水谷 智・林 竜馬・中井克樹・里口保文・菅原和宏・大塚泰介・中藤容子・安福俊幸 編(2013) うみっこ通信 10, 琵琶湖博物館:4p.
- 水谷 智・用田政晴・蜂屋正雄・里口保文・菅原和宏・大塚泰介・中藤容子・安福俊幸 編(2014) うみっこ通信 11, 琵琶湖博物館:4p.
- 水谷 智(2013) どこでもだれでもフィールド情報 季節を変えての生きもの観察. 琵琶湖博だより, 13, 琵琶湖博物館:4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 水谷 智(2013年10月18日)農業排水路泥だめの生物調査について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].
- 水谷 智(2013年11月13日)排水路泥だめの生態的役割について. 農業農村工学会京都支部研究発表会, 農業農村工学会, 京都テルサ(京都府京都市), [口頭発表].
- 水谷 智(2014年2月13日)排水路泥だめの生態的役割について ~豊かな生きものを育む水田づくりの取り組みから~. 平成25年度農業土木研究発表会, 滋賀県農政水産部耕地課, 滋賀県庁(滋賀県大津市), [口頭発表].

【研究プロジェクトへの参加】

琵琶湖博物館専門研究「水田地帯の排水路における生態保全の基礎調査」, (2013 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10 件.

はしかけ制度, 副担当.

2013 年 4 月～2014 年 3 月, 体験教室 田んぼ体験, 琵琶湖博物館, 担当, 15 件, (中川 優・はしかけと共同).

2013 年 7 月 5・6 日, あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう! はしかけオープンハウス, 琵琶湖博物館, 副担当.

2013 年 11 月 18 日, 学校サテライト博物館移動, 長浜市・東近江市, 副担当.

他の博物館・機関等主催行事

2013 年 6 月 2 日, 高島市お魚ふやし隊自然観察会, 琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会, 新旭公民館他 (高島市), 講師.

2013 年 6 月 8 日, ニゴロブナ(25627)フェア企画生きもの観察会, 滋賀県農村振興課, 須原水田内(野洲市), 講師.

2013 年 6 月 15 日, 栗見出在家町魚のゆりかご水田学習会, 栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会, JA グリーン近江, 栗見出在家町公民館他 (東近江市), 講師.

2013 年 6 月 22 日, 竹町魚のゆりかご水田生きもの観察会, 竹町のしぜんを守る会, 竹町公民館他 (近江八幡市), 講師.

2014 年 2 月 26 日, 水田地帯の生き物を育む水路について, 滋賀県レイカディア大学, 選択講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2014 年 3 月 9 日, 人・生きものにぎわう農村づくり実践研修会, 滋賀県農村振興課にぎわう農村推進室, 高月公民館 (長浜市), 講師.

視察対応

2013 年 4 月 24 日, 水資源の利用と里山の暮らしについて, JICA 北海道国際センター.

2013 年 5 月 14 日, 屋外植栽の維持管理について, 三重県立博物館.

2013 年 9 月 18 日, 琵琶湖周辺地域の農業と環境について, 立教大学経済学部.

2014 年 1 月 30 日, はしかけ制度について, 千葉県立中央博物館.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の貸出, 1 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013 年 9 月 13 日～2014 年 1 月 31 日, 富江家耐震補強業務, 監督.

2013 年 5 月 22 日～2014 年 3 月 25 日, 屋外植栽管理業務委託, 監督.

生活実験工房, 田畑の維持管理.

モーニングレクチャー, 講義, 4 回.

【企画調整活動】

地域発見! 参加型移動博物館事業, 「まなびしが発見」出展運営, 2013年8月6日, 滋賀県立文化産業交流会館 (滋賀県米原市).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2013 年度，うみっこ通信，編集委員.

2013 年度，滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当，主幹を兼務.

【館外の活動】

2013 年度，滋賀県農政水産部農村振興課 豊かな生き物育む水田（魚のゆりかご水田），担当者.

2013 年度，滋賀県農政水産部農村振興課 みずすまし専門部会（生態系保全部会），オブザーバー.

2013 年度，近畿農政局農村計画部資源課 水域ネットワーク調査業務，オブザーバー.

昨年度に引き続いて、2013年度7月に、学術振興会の科学研究費補助金(科研費)の研究で、モンゴル北部フブスグル湖流域の山火事跡や森林地帯を調査した。頻発する山火事跡地の再生が非常に悪いことから、その再生を促進するために、この森林の更新機構と再生阻害要因を、観察と野外実験で調べている。昨年度行った再生阻害要因実験の追加データをとるとともに、今回はモンゴル自然史博物館の植物担当のBADAMTSETSEG Bazarragchaa (Badmer)さんの現地での協力を得て、調査地周辺の植物調査を行い、不明確だった草本植物を同定した。あわせて、異なる光環境下での自然状態での倒木とその周囲の実生・稚樹生育調査を、湖西部のハロスや湖東部のヘクツアル、湖南部のハトガルで広く行った。その結果、自然に起きた倒木遮蔽更新例が草原や明るい森林内で数多く見られ、数メートル以上に育った再生木が倒木の陰側だけに10本以上再生している実例データを数多くとることができた。これは倒木陰に再生した稚樹の一部は自然状態で亜高木にまで育つことの証明となる。また、40年ほど前に焼失した湖西部ボルソグの広大な火事跡を調査したが、焼け跡の縁と斜面下部の一部以外は未だ全く再生していなかった。

これまでの調査の成果の一部として、3月に広島で行われた生態学会で再生阻害要因実験での結果や自然の再生例などのこれまでの調査、観察などから、『倒木遮蔽更新仮説』の検証というタイトルで口頭発表した。岩でも倒木の代わりになるかという質問があったが、発表に対する反論は特になかった。

また、『倒木遮蔽更新仮説』を応用した森林再生促進のためのマニュアルを更新した。現在、モンゴル語や英語に翻訳中で、現地で提案していきたい。

また、約30年前との比較を行っている世界遺産奈良春日山原始林流域の調査では、安定した水質が当時と大きく変化してきていることに気づき、その原因を探るため1年ほど前から月1回のペースで継続調査を行っている。その一部を日本水環境学会で報告するとともに、春日山原始林の本(前迫ゆり編)にコラムで紹介した。

事業では、2013年4月2日から6月9日まで、ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎—植物研究にかけた情熱—」を開催し、明治・大正・昭和にかけて、植物採集を行ってきた橋本忠太郎の人となり、その業績を4コマイラストや年表、600点あまりの標本資料、写真、地図資料等で紹介した。これらは、明治から昭和30年頃までに採集された大変貴重な植物さく葉県内植物標本で、滋賀県植物誌の元になった標本の一部である。当館にご寄贈いただいた遺族に感謝状を贈呈し、地元植物研究会や出身地である日野町の方々の協力のもと開催することができた。この標本の中には今では県内絶滅してしまった珍しい植物も多く含まれ、整理は今も進行中である。

総務部企画調整課では新任研修、博物館実習、年報編集、業績集編集、要覧編集、印刷物管理、来館者アンケートを担当した。

印刷物

【一般向けの著作】

- 草加伸吾(2013) ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎—植物研究にかけた情熱—」. うみっこ通信, 9, 琵琶湖博物館: 4.
- 草加伸吾(2013) 近江の博物学者 橋本忠太郎—植物研究にかけた情熱—. 琵琶博だより, 12, 琵琶湖博物館: 1-2.
- 草加伸吾・山川千代美(2013) 陸生植物. 琵琶湖博物館第21回企画展示図録「生きものがたり —生物多様性 湖国から 世界から—」, 琵琶湖博物館: 24.
- 草加伸吾・山川千代美(2013) イチイガシ. 琵琶湖博物館第21回企画展示図録「生きものがたり —生物多様性 湖国から 世界から—」, 琵琶湖博物館: 24.

研究活動に関する業績

【学会・研究会で発表など】

- 草加伸吾（2013年7月28日）モンゴル北部森林火災跡再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証。滋賀自然環境研究会発表会，滋賀自然環境研究会，彦根市勤労者会館（滋賀県彦根市），[口頭発表]。
- 草加伸吾（2014年2月21日）モンゴル北部山火事跡再生困難地での再生促進研究と七不思議。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。
- 草加伸吾（2014年2月22日）モンゴルでのシベリアカラマツ林の再生促進 ―仮説の検証―。平成26年度滋賀県植物研究会総会，滋賀県植物研究会，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。
- 草加伸吾（2014年3月18日）モンゴル北部森林火災跡再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証。第61回日本生態学会大会，日本生態学会，広島国際会議場（広島県広島市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「森林伐採後の硝酸形成に影響する環境条件の解明と斜面での硝酸流出過程の探求」，（2013年度）。
- 科学研究費補助金（基盤 B）「モンゴル北部森林火災跡再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証と再生促進法の開発」（研究代表者：草加伸吾），研究代表者（2011～2013年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

はしかけ運営，緑のくすり箱，担当。

2013年4月13日，春の花でしおりを作ろう，体験プログラムわくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，（藤橋和弘・蜂屋正雄・はしかけ「びわたん」と共同）。

2013年4月21日，植物談話会「村田源先生を囲んで～滋賀の植物について語り合う～」，ギャラリー展示関連イベント，琵琶湖博物館，企画・運営，（山川千代美・芦谷美奈子と共同）。

2013年5月19日，春満開の綿向山登山，ギャラリー展示関連観察会，綿向山・日野町，企画運営。

2013年5月26日，日野で植物観察会，ギャラリー展示関連観察会，日野町，企画運営。

2013年7月31日，博物館周辺の植物（クズ）を調べよう，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，指導。

2013年8月2日，植物さく葉標本の作り方，整理について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2013年11月9日，秋の色をさがしてみよう，体験プログラムわくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，（藤橋和弘・蜂屋正雄・はしかけ「びわたん」と共同）。

2013年11月24日，朽木観察会，観察会，森林公園くつきの森 搦み谷周辺（滋賀県高島市），講師，（はしかけ「緑のくすり箱」共同開催）。

他の博物館・機関等主催行事

2013年4月14日，松の実 針葉樹 植物観察会，はしかけ緑のくすり箱，野洲市希望ヶ丘文化公園，講師。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物収蔵庫，維持管理，主担当。

植物標本資料，収集整理（モンゴル国植物標本資料用60点）。

橋本忠太郎植物標本，整理（採集標本のデータベース化 約12,000点）。

橋本忠太郎地形図データ，整理.

屋外実験施設管理，主担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年4月2日～6月9日，ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎―植物研究にかけた情熱―」，主担当，

(芦谷美奈子・石田未基・大久保実香・松田征也・山川千代美と共同) .

屋外展示植栽木(高木、亜高木)，ラベル調査実施.

展示交流員と話そう，内容指導，5件.

モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

新任職員研修，主担当.

博物館実習，主担当.

年報・業績集・要覧編集，主担当.

印刷物管理，主担当.

来館者アンケート，主担当.

新任職員等研修，新空間について，講師，2013年4月10日，琵琶湖博物館.

新任職員等研修，屋外展示について，講師，2013年4月11日，琵琶湖博物館.

新任職員等研修，C展示室，講師，2013年4月18日，琵琶湖博物館.

地域発見！参加型移動博物館事業，撤収，2013年10月27日，瀬田公園体育館（滋賀県大津市）.

館内の人事・館外活動に関すること

【海外渡航】

2013年7月2日～7月24日，モンゴル国フブスグル湖流域、ハトガル、ボルナイ、ヘクツアルの山火事跡地，科学研究費補助金で森林再生促進のため野外調査.

本年度の研究では、共同研究者と共に琵琶湖から共生藻類をもつ繊毛虫 *Pelagodileptus trachelioides*, *Stokesia vernalis*, *Bursellopsis spumosa*, *Didinium* sp. および、琵琶湖博物館生態観察池から *Coleps hirtus viridis* を単離し、それぞれの遺伝子および共生藻の遺伝子を解析した。

また、マミズクラゲ (*Craspedacusta sowerbii*) の生きたクラゲを、2012年8月から2014年1月まで連続533日ディスプレイルームで展示した。これは世界最長記録だと思われる。産地の異なる雄と雌のクラゲを掛け合わせて出来た受精卵から生まれたポリプ (イソギンチャク状のステージ) の増殖速度は、父母それぞれの系統より遅く、系統が異なる集団が日本に移入している可能性が考えられる。恒温、定光条件で1年以上飼育したポリプからも、野外と同じように5月から9月にかけてクラゲが出現した。このことから、マミズクラゲに季節を感知する体内時計がある可能性が示された。

国際交流事業では、日本学術振興会研究拠点形成事業 B. アジア・アフリカ学術基盤形成型 “New Horizon in Asian Museums and Museology” 「アジアにおける新しい博物館・博物館学創出のための研究交流」の一環で International Research Meeting on Museology (9月21日～29日 ミャンマー) に参加した。9月27日ヤンゴン国立博物館で開催された “Core-to-core Program Public Seminar” (全国の博物館関係者向けの公開セミナー) で “Cooperation Between Museums and the Local Community” のタイトルで発表した。

博物館の事業としては、交流担当のとりまとめを行った。JICA 博物館学コースではコースの運営委員の一人として、6 カ国10 人の研修員を受け入れに関わった。

印刷物

【専門分野の著作】

Kusuoka, Y. (2013) “Participation of the local community in museum activities: the case study of the Lake Biwa Museum.” In “*New Horizons in Asian Museums and Museology*. - International Workshop on Asian Museums and Museology in Mongolia organized by the National Museum of Ethnology, Japan and JSPS - : 87-100.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Kusuoka, Y. (2013年9月27日) Cooperation Between Museums and the Local Community. “New Horizon in Asian museum and museology”, -International Workshop on Asian Museums and Museology- “JSPS Core-to-Core Program Public Seminar”, Yangon National Museum (Yangon Myanmar), [口頭発表].

楠岡 泰 (2013年10月19日) マミズクラゲの不思議 II. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

前田雅子・楠岡 泰・Mark J. Grygier・田んぼの生きもの調査グループ (2013年12月22日) 長浜地域における大型鯉脚類分布の不思議 -水入れ時期の影響-. 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

日本学術振興会研究拠点形成事業 B. アジア・アフリカ学術基盤形成型 「アジアにおける新しい博物館・博物館学

創出のための研究交流」(研究代業者：園田直子)，研究分担者(2012～2015年度)。
琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者：高橋啓一)，研究分担者(2011～2015年度)。
琵琶湖博物館共同研究「微小な生物の飼育技術開発および展示技法」(研究代表者：松田征也)，副代表(2013～2015年度)。
琵琶湖博物館専門研究「*Apocarchesium* 属を中心としたツリガネムシ類の系統解析」，(2013年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本原生動物学会，評議員，2012年11月～。
日本原生動物学会，活性化委員，2012年11月～。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013年9月18日，京都府立大学，環境微生物学集中講義「繊毛虫の分類および生態」。
2013年10月9日，JICA「湖沼環境保全のための統合的流域管理」コース，Environment education in the Lake Biwa Museum。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。
はしかけ運営，田んぼの生き物調査グループ，主担当。
はしかけ運営，里山の会，副担当。
2013年4月21日・10月20日・2014年1月19日，里山体験教室，体験教室，野洲市大篠原，講師，(安福俊幸・はしかけ「里山の会」と共同)。
2013年6月22日，田んぼの不思議なエビたちを見てみよう！，体験プログラムわくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，(はしかけ「田んぼの生き物の調査グループ」・藤橋和弘・蜂屋正雄と共同)。
2013年7月6日，田んぼのエビ類のペーパークラフトを作ろう，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！，琵琶湖博物館，講師，(はしかけ「田んぼの生き物調査グループ」と共同)。
2013年7月6日，ハンモックを作ろう，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！，琵琶湖博物館，講師，(はしかけ「里山の会」と共同)。
2013年7月21日，プランクトンの研究指導，夏休み自由研究講座，琵琶湖博物館，講師，(大塚泰介と共同)。
2013年7月31日，琵琶湖博物館の交流事業，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。
2013年7月31日，琵琶湖のプランクトンについて調べよう，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，指導。
2013年8月1日，プランクトンネットの作り方および観察，サテライト博物館能登川東小学校教員研修，能登川東小学校，講師，(蜂屋正雄と共同)。
2013年8月24日，プランクトンでアート，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，講師，(成安造形大学宇野君平氏と共同)。
2013年10月26日，ハンモックで遊ぼう，体験プログラムわくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，(はしかけ「里山の会」・藤橋和弘・蜂屋正雄と共同)。
2013年11月16日，秋の里山を歩こう，観察会，大津市仰木，講師，(安福俊幸・はしかけ「里山の会」と共同、「カワセミ自然の会」と共催)。
2013年12月7日・2014年2月15日，プランクトンの研究，立命館守山中学校ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，指導・助言，2件。

他の博物館・機関等主催行事

- 2013年6月30日、プランクトンの観察、近畿大学水産学科、琵琶湖博物館、講師。
- 2013年7月11日、プランクトンの観察、彦根東高校、琵琶湖博物館、講師。
- 2013年7月20日、里山観察会、京セラ、京セラ蒲生工場、講師。
- 2013年8月7日、プランクトンの観察、環境教育研究協議会、平成25年度環境教育研究協議会教員研修、琵琶湖博物館、講師。
- 2013年8月8日、プランクトンの観察および模型作り（湖南省の子供たち）、湖南省友好提携30周年事業、琵琶湖博物館、講師。
- 2013年8月21日・22日、織毛虫の染色法、日本原生動物学会若手の会、ワークショップ、琵琶湖博物館、講師。
- 2013年9月13日、琵琶湖博物館の交流事業についての講義、愛知淑徳大学、琵琶湖博物館、講師。
- 2013年10月23日、挨拶、千里第二小学校、琵琶湖博物館、講師。
- 2013年10月27日、英語でプランクトンの観察、Science in English Club Kansai、琵琶湖博物館、講師。
- 2013年11月17日、プランクトンの観察、NPO 自然と緑、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

- 2013年5月2日、琵琶湖博物館の紹介、京都大学カナダ留学生。
- 2013年5月21日、琵琶湖博物館の紹介、タイ・カセサート大学留学生および京都大学。
- 2013年5月29日、フィールドレポーター・はしかけ制度について説明、神奈川県。
- 2013年5月29日、はしかけ制度について説明、大阪府立狭山池博物館。
- 2013年6月5日、フィールドレポーター・はしかけ制度について説明、新潟市文化観光・スポーツ部。
- 2013年10月30日、フィールドレポーター・はしかけ制度について説明、三重県農林水産部。

メディアへの協力

- 2013年10月6日、朝日新聞、琵琶湖博物館のマミズクラゲ 飼育1年超「世界初」、取材対応、(2013年9月10日)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 微小生物静止画、撮影および指導、約1,000件。
- 微小生物動画、撮影および指導、約20件。
- 微小生物プレパラート、作製および指導、約50件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2013年、常設展示：プランクトンコーナー、維持管理、展示更新、4件。
- 2013年、常設展示：ミクロの世界、維持管理。
- 2013年、常設展示：どぶ川の生き物たち、維持管理。
- モーニングレクチャー、講義、4回。

【企画調整活動】

- 新任職員等研修、琵琶湖博物館の交流事業、講師、2013年4月10日、琵琶湖博物館。
- 新任職員等研修、C展示室全体説明、講師、2013年4月11日、琵琶湖博物館。
- 新任職員等研修、C展示室個別コーナー説明、講師、2013年4月18日、琵琶湖博物館。
- JICA 博物館学コース、交流事業の考え方、講師、2013年5月10日、琵琶湖博物館。
- JICA 博物館学コース、フィールドレポーターおよびはしかけとの懇談、コーディネートおよび司会、2013年5月11日、琵琶湖博物館、(フィールドレポーター・はしかけ「びわたん」と共同)。
- 地域発見！参加型移動博物館事業、プランクトンの解説、2013年4月7日、ルシオールアートキッズフェスティバ

ル in 立命館守山中・高等学校.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011年4月～2014年3月, 滋賀県博物館協議会研修委員会, 委員.

【海外渡航】

2013年9月21日～29日, ミャンマー, 日本学術振興会研究拠点形成事業“Core-to-core Program Public Seminar”
で発表.

【館外の活動】

2004年4月～2014年3月, JICA 博物館学コース運営委員会, 運営委員.

2010年4月～2014年3月, 京都府立大学, 非常勤講師.

今年度は、第21回企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」の主担当として、年度初めからとりわけ展示の開幕までの間、その準備・製作にほとんどの努力を傾注することになった。この春から夏にかけての時期は、研究の主要課題である外来魚の生息抑制技術開発のための野外調査を実施するうえで、対象魚種の繁殖期と完全に重複するため、事前から今年度は野外調査を直接実施することが困難であることが予想された。そこで、これまでの調査地における共同研究者等の関係者と事前協議を十分に行い、それぞれの調査地への出張は、調査開始時の現場確認を行うだけに限定し、実際のデータ収集等のための見回り等は地元の関係者に行ってもらい体制とした。

今年度で得られた成果の主要なものは、オオクチバスの生息抑制のための装置として開発を進めている「吊り下げ式人工産卵装置」に関するものである。ブルーギルの高密度生息水域である鹿児島市松元ダム貯水池において、ブルーギル除けに衝立を付けた装置と、衝立のない装置とを組合せて設置した結果、衝立付き装置が高い頻度で利用され、ブルーギル生息水域においては衝立を付けることによる効果が示された。人工産卵装置を網場に係留したり、誘導フェンスを用いて岸から離したりして設置することにより、装置の利用頻度を高めることができた。小規模水域である東京都立狭山公園宅部池と富山県魚津市早月川河口溜まりで、水域の全周に装置を設置することで、人工産卵装置は産卵活動が自然繁殖の頻度よりも高く抑制された。装置を十分数設置することで、水域のオオクチバス個体群の繁殖成功率を相当に抑えうる可能性が示唆された。常時満水位で管理される岡山県鏡野町苦田ダム貯水池においては、繁殖ポテンシャルマップに基づく防除努力の高ポテンシャル区域への集中により、人工産卵装置による繁殖抑制を含めた総合的防除により、オオクチバスの生息密度が低下し、既存の魚類の回復が認められつつあることが成果としてあげられる。

なお、これらの研究活動は、琵琶湖博物館共同研究「侵略的外来魚の生息抑制に関する総合的研究」、環境省地球環境研究総合推進費「外来動物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」（研究代表者：五箇公一、サブテーマ「外来魚類の防除手法開発および防除体制強化」）、水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来種抑制技術高度化事業」（研究代表者：片野 修）、および水源地生態研究会三春ダムグループ（代表者：谷田一三）の枠組みで実施した。また、これらの研究の成果については、アメリカ水産学会大会（アメリカ・アーカンソー州）、応用生態工学会大会（大阪市）、日本魚類学会大会（宮崎市）、外来魚情報交換会（草津市）、日本生態学会大会企画シンポジウム（広島市）等で発表した。環境省研究総合研究費は3カ年の最終年度、水源地生態研究会は5年目の総括年度に当たったため、それぞれの成果を報告書として取りまとめ、前者については外来魚防除の手引きに追加すべき補遺として、環境省外来生物対策室に提出した。

希少生物の保全に関しては、環境省レッドリストの改訂に伴う「レッドデータブック陸産・淡水産貝類編」の担当分類群（タニシ科、カワニナ科、トウガタカワニナ科（一部）、ミズツボ科、ミズシタダミ科、ヒラマキガイ科、モノアラガイ科、シジミ科）の執筆に携わった。

地域連携の活動としては、4年目となる滋賀県経済同友会湖南支部加盟企業で構成される「湖南いきもの応援団」による、地元を流れる狼川における生きもの調査に関わり、調査手法や結果の分析等にかかる指導を草津市環境課と共に行った。その活動内容は「平成25年度しが生物多様性大賞」において、大賞を受賞する榮譽に浴した。また、同じく4年目を迎えた鹿児島市松元ダムにおける調査活動は、水土里ネットまつもとによる土地改良区創造運動における外来魚駆除の連携活動として位置づけられ、この運動は平成25年度21世紀土地改良区創造運動大賞を受賞した。

展示グループのメンバーとしては、今年度開催の第21回企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」の主担当として、展示の企画、製作、運営に携わった。展示内容は生きものの実物標本をできるだけ多く展示する方針とし（540種、1,100点以上）、話題性のある絶滅種（ニホンオオカミ、ニホンカワウソ、ニホンアシカ）や、再発見されたクニマス、絶滅の淵から回復しつつあるトキ、コウノトリなども、他館からの協力により展示することができた。この企画展示の入場者数は67,347人を数えた。

印刷物

【学術論文】

土岐範彦・大杉奉功・中沢重一・鎌田健太郎・熊沢一正・浅見和弘・中井克樹 (2013) オオクチバスが優占する前貯水池の魚類群集構造と水抜きによる駆除とその後の変化. *応用生態工学*, 16 : 37-50.

【専門分野の著作】

- 中井克樹 (2013) 外来魚問題への法令による対応：特に国内外来魚問題に対して. *見えない脅威“国内外来魚”*, 東海大学出版会 : 179-196.
- 中井克樹 (2014) 外来生物法、外来種の定義：水域を中心に. *水辺と人の環境学 (中) 一人々の生活と水辺*, 朝倉書店 : 66-69.
- 中井克樹 (2014) ブラックバス・ブルーギルの生態と生息抑制. *水辺と人の環境学 (中) 一人々の生活と水辺*, 朝倉書店 : 69-71.
- 中井克樹 (2014) 淡水魚の放流による国内外来種と遺伝的攪乱の問題. *水辺と人の環境学 (中) 一人々の生活と水辺*, 朝倉書店 : 71-74.
- 稲村 修・不破光大・草間 啓・中井克樹 (2014) 早月川河川敷の水溜りにおける人工産卵装置導入によるオオクチバスの繁殖抑制について. *魚津水族館年報*, 23, 魚津水族館 : 18-20.

【一般向けの著作】

- 中井克樹 (2013) 生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー. *琵琶博だより*, 13, 琵琶湖博物館 : 1-2.
- 中井克樹 (2013) 第21回企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」. *うみっこ通信*, 10, 琵琶湖博物館 : 4. (http://www.lbm.go.jp/publish/umikko-tsuushin/files/010_umikko-tsuushin_130910.pdf)
- 中井克樹・松田征也・藤岡康弘・澤邊久美子 編著 (2013) *琵琶湖博物館第21回企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」展示解説書*. 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津 : 60 p.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 熊沢一正・大杉奉功・西田守一・浅見和弘・鎌田健太郎・沖津二郎・中井克樹・五十嵐崇博・船橋昇治・岩見洋一・中沢重一 (2012) ダム湖の水位低下を利用した定置網による外来魚捕獲とその効果. *応用生態工学*, 15 : 171-185.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中井克樹・林 和典・滋賀県自然環境保全課 (2013年4月21日) 滋賀県指定外来種コモチカワツボの県内における分布状況. 日本貝類学会平成25年度大会, 日本貝類学会, 豊橋市自然史博物館 (愛知県豊橋市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2013年5月13日) 三春ダム貯水池における外来魚オオクチバスの生息抑制手法の開発. 平成25年度第1回三春ダム外来魚研究会, 国土交通省, 国土交通省東北地方河川事務所三春ダム管理所 (福島県三春町), [口頭発表].
- Nakai, K. (2013年9月12日) A mirror image of blackbass conservation: Active control of blackbass as an invasive alien species in Japan. 143rd Annual Meeting of the American Fisheries Society, Little Rock, Arkansas “Preparing for the Challenges Ahead” : “Fisheries and Natural Resources 3”, Ballroom A - Marriot (Little Rock / Arkansas / USA), [Oral presentation].
- 笹田直樹・芹澤英一郎・佐貫方城・中井克樹・土江清司 (2013年9月19日) ダム湖におけるオオクチバス低密度

管理の事例報告. 応用生態工学会第 17 回大阪大会・研究発表会, 応用生態工学会, 大阪府立大学 I-site なんば (大阪府大阪市), [ポスター発表].

中井克樹 (2013 年 9 月 19 日) ポスター発表の審査. 応用生態工学会第 17 回大阪大会・研究発表会, 応用生態工学会, 大阪府立大学 I-site なんば (大阪府大阪市), [ポスター発表審査員].

中井克樹 (2013 年 9 月 20 日) 特定外来生物オオクチバスの繁殖抑制のための人工産卵装置の改良. 応用生態工学会第 17 回大阪大会・研究発表会, 応用生態工学会, 大阪府立大学 I-site なんば (大阪府大阪市), [口頭発表].

沖津二郎・樋口貴哉・中井克樹・大杉奉功・浅見和弘・土岐範彦・松崎厚史・小山幸男 (2013 年 9 月 20 日) 三春ダムにおけるリフレッシュ放流を活用したブルーギルの繁殖抑制の試験的な試み. 応用生態工学会第 17 回大阪大会・研究発表会, 応用生態工学会, 大阪府立大学 I-site なんば (大阪府大阪市), [口頭発表].

中井克樹 (2013 年 9 月 20 日) セッション J「住民との協働」. 応用生態工学会第 17 回大阪大会・研究発表会, 応用生態工学会, 大阪府立大学 I-site なんば (大阪府大阪市), [座長].

中井克樹 (2013 年 10 月 4 日) オオクチバスを対象とした吊り下げ式人工産卵装置: 新たな改良と影響評価の試み. 2013 年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 宮崎観光ホテル (宮崎県宮崎市), [口頭発表].

馬渕浩司・ソンヨハン・武島弘彦・中井克樹・瀬能 宏・西田 睦 (2013 年 10 月 4 日) 日本在来コイのレフュージアとしての琵琶湖. 2013 年度日本魚類学会年会, セッション「日本の古代湖・琵琶湖における魚類進化の生態研究の現在とこれから」, 日本魚類学会, 宮崎観光ホテル (宮崎県宮崎市), [口頭発表].

中井克樹 (2013 年 10 月 4 日) 口頭発表 (保全・生態: 発表番号 37-40). 2013 年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 宮崎観光ホテル (宮崎県宮崎市), [座長].

中井克樹 (2013 年 10 月 20 日) 琵琶湖と伊吹山-湖国・滋賀の貝類の多様性- . 阪神貝類談話会 2013 年 10 月例会, 阪神貝類談話会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

中井克樹 (2013 年 10 月 20 日) この夏のカタツムリ展: 豊橋・飯田・徳島めぐり. 阪神貝類談話会 2013 年 10 月例会, 阪神貝類談話会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

中井克樹 (2013 年 12 月 14 日) 外来生物と分布情報システムの親和性: 滋賀県での取り組みを例に. GBIF ワークショップ 21 世紀の生物多様性研究「外来種・移入種と生物多様性情報」, 国立科学博物館 (東京都台東区), [口頭発表].

中井克樹 (2014 年 1 月 17 日) 生物多様性: 企画展を終え、リニューアルに向けて. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

中井克樹・井上和彦 (2014 年 1 月 25 日) 実践報告⑨ 滋賀県/草津市. 第 5 回 B センス・フォーラム「B センスさんぽ」有効化 (!) 研究大会, 日比谷図書館 (東京都千代田区), [口頭発表].

中井克樹・江川昂弘 (2014 年 2 月 2 日) 吊り下げ式人工産卵装置: ブルーギル高密度水域における新たな試み. 第 9 回外来魚情報交換会, 琵琶湖を戻す会, 草津市立まちづくりセンター (滋賀県草津市), [口頭発表].

中井克樹 (2014 年 2 月 13 日) 課題 7 特定外来魚の生息抑制装置の開発. 平成 25 年度外来魚抑制管理技術高度化事業第 2 回検討委員会 (最終報告会), 農林水産省 (東京都千代田区), [口頭発表].

中井克樹 (2014 年 2 月 17 日) サブテーマ 2: 外来魚類の防除手法開発および防除体制強化. 地球環境研究総合推進費平成 23 年度開始課題 D-1101「外来生物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」平成 25 年度アドバイザーボード会合, 国立環境研究所, [口頭発表].

中井克樹 (2014 年 3 月 14 日) コメント: 自由集会 W11「これでいいの? 水辺の特定外来生物」. 第 61 回日本生態学会大会, 日本生態学会, 広島国際会議場 (広島県広島市), [コメンテーター].

中井克樹 (2014 年 3 月 15 日) オオクチバスを対象とした防除手法の開発と防除体制の強化. 第 61 回日本生態学会大会, 日本生態学会, 広島国際会議場 (広島県広島市), [口頭発表].

江川昂弘・山本智子・鹿兒島市松元土地改良区・高山真由美・中井克樹 (2014 年 3 月 16 日) オオクチバスに対する人工産卵装置の誘因効果. 第 61 回日本生態学会大会, 日本生態学会, 広島国際会議場 (広島県広島市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金(挑戦的萌芽)「侵入生物ジャンボタニシの地域限定個体群に対する総合的根絶マネジメントへの

試み」(研究代表者：日鷹一雅)，研究分担者(2012～2014年度)。
水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来種抑制技術高度化事業」(研究代表者：片野 修)，研究分担者(2012～2014年度)。
環境省地球環境研究総合推進費「外来生物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」(研究代表者：五箇公一)，研究分担者(2011～2013年度)。
水源地研究会陸上生態研究委員会三春ダム研究グループ(陸上・水圏生態研究委員会)(委員長：谷田一三)，委員(2008～2013年度)。
琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者：高橋啓一)，貝類班班長(2011～2015年度)。
琵琶湖博物館共同研究「侵略的外来魚の生息抑制に関する総合的研究」(研究代表者：中井克樹)，研究代表者(2011～2013年度)。
琵琶湖博物館専門研究「魚類・貝類の保全に関する研究」，(2013年度)。
滋賀県生きもの総合調査(魚貝類)「博物館施設等に収蔵された滋賀県産貝類の実態調査」，研究者(2013年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会自然保護専門委員会，近畿地区選出専門委員，2013年1月～。
日本生態学会自然保護専門委員会，外来種問題検討作業部会委員，2001年3月～。
日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員会，委員，2010年1月～。
日本魚類学会，評議員，2004年1月～。
日本魚類学会自然保護委員会，委員。
日本魚類学会自然保護委員会，外来魚部会，部会長，2014年1月～。
応用生態工学会普及・連携委員会，委員，2009年9月～。
応用生態工学会大阪大会実行委員会，委員，2013年度。
日本貝類学会，評議員，2011年1月～。
阪神貝類談話会，理事，2000年1月～。
生物多様性ネットワーク新潟，顧問，2004年10月～。
全国ブラックバス防除市民ネットワーク，理事，2005年11月～。
陸水生物学報，査読，1件。
魚類学雑誌，査読，1件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013年6月7日，滋賀県立大学，近江環人地域再生学座「地域診断法」特論「滋賀県の動植物の特性把握と地域診断」。
2013年9月27日，酪農学園大学，環境共生学特論I「生物多様性の大切さと外来生物への対処」。
2014年1月27日，Kasetsart University (Bangkok / Thailand)，Invasive species threatening local biodiversity: Lessons from Japan. Special Lecture of Research Laboratory of Ichthyology.
2014年2月21日，103年臺北市立動物園環境教育簽到單，How to evaluate biodiversity, threatened by invasive species—入侵物種威脅的生物多様性評估。
滋賀県立大学環境科学部4年生，オオクチバスの捕食行動に関する卒業論文に対する助言。
関西学院大学総合政策学部3年生，外来種問題に関するゼミ研究に対する助言。
東京農業大学大学院農学研究科博士前期課程1年，琵琶湖周辺での魚類サンプル採集に対する助言。
東京学芸大学環境教育専攻4年生，ブラックバス問題に関する卒業論文に対する助言。
三重大学大学院生物資源研究科博士後期課程1年，ため池での外来魚と在来魚の関係に関する研究に対する助言。
獨協埼玉高等学校3年生，外来魚問題に関する卒業論文に対する助言。
近畿大学農学部水産学科4年生，カワヒバリガイに関する卒業論文に関する助言。

【受賞など】

平成 25 年度日本博物館協会顕彰者，表彰。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，8 件。

フィールドレポーター2013 年度第 1 回調査「カタツムリ調査」の実施にかかる助言等，[金尾滋史と共同]。

2013 年 5 月 25 日，報告会「スクミリンゴガイおよびタニシ類の分布調査」へのコメント，琵琶湖博物館フィールドレポーター2013 年度第 1 回交流会，琵琶湖博物館，コメンテーター。

2013 年 6 月 2 日，観察会「からすま半島の生きもの調査：魚と漁具」，琵琶湖博物館および琵琶湖岸・滋賀県草津市，講師，[藤岡康弘・澤邊久美子・藤橋和弘ほかと共同]。

2013 年 6 月 29 日，琵琶湖の生き物とその調査法，立命館守山中学校総合学習第 3 回琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講師。

2013 年 7 月 5 日，フロアトーク「生きものの奏でるにぎわい」，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！，琵琶湖博物館，講師。

2013 年 7 月 30 日，常設展示および企画展示解説，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2013 年 8 月 8 日，外来種を飼うとき、注意すべきこと：外来生物問題と生物多様性，琵琶湖博物館指導者のための博物館活用講座第 1 回「生き物飼い方講座」，琵琶湖博物館，講師。

2013 年 11 月 3 日，パネルディスカッション「生きものめぐみ，今・むかし」，新琵琶湖学セミナー「湖国，世界から学ぶ生物多様性」第 3 回，琵琶湖博物館，進行。

2013 年 12 月 7 日・2014 年 2 月 15 日，班別学習「外来魚」，立命館守山中学校総合学習・琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講師，2 件。

他の博物館・機関等の主催行事

2013 年 4 月 18 日，現地調査指導および講評，湖南企業いきもの応援団第 13 回（2013 年度第 1 回）調査会，滋賀経済同友会湖南支部，草津市南笠東公民館および狼川流域（滋賀県草津市），講師。

2013 年 5 月 10 日，琵琶湖博物館で生物多様性について考えよう，平成 25 年度振興協会・自治体研修期間研修担当者会議（(財) 全日本市町村研修財団全国市町村国際文化研究所），琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2013 年 5 月 29 日，びわ湖の自然と自然環境を守る取り組みとしての外来魚対策，武庫川女子大学附属中学校 2 年生体験学習，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2013 年 6 月 19 日，魚・へび・ワニに関する質問への対応，たかつかさ保育園（京都府京都市）年長クラス，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2013 年 6 月 19 日，琵琶湖の外来魚問題，開智未来中学校琵琶湖学習，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2013 年 7 月 23 日，現地調査指導および講評，湖南企業いきもの応援団第 14 回（2013 年度第 2 回）調査会，滋賀経済同友会湖南支部，草津市南笠東公民館および狼川流域（滋賀県草津市），講師。

2013 年 7 月 28 日，魚つかみ遊びおよび環境学習・講義「身近な生きものたちを大切に」，水口町泉区生き物観察会「びわ湖や大きな川にいる魚たちと里川や田んぼにいる生き物」，甲賀市水口町旧泉川および泉公民館（滋賀県甲賀市），講師。

2013 年 8 月 4 日，水域環境学習&ブラックバス試食体験「Bi ックリ Wa クワク Ko ドモ学校」，びわこファミリーカーニバル 2013，BOAT RACE びわこ（滋賀県大津市），講師。

2013 年 8 月 23 日，琵琶湖の魚たちのいま，～水を通して自然に学ぶ～琵琶湖環境学習クルーズ，日本ロータリー E クラブ 2650 地区・大津東ロータリークラブ，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2013 年 9 月 23 日，講義「びわ湖の外来魚問題と対策」，近畿大学附属中学校キッズ・ウィットネス・ニュース応募作品製作，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

- 2013年9月27日、講義「地域協働で取り組む外来種対策～琵琶湖水における取り組みを例に～」、特定外来生物移入・拡大防止対策研修会、UW クリーンレイク洞爺湖協議会・水産多面的機能発揮対策事業、洞爺湖観光情報センター（北海道洞爺湖町）、講師。
- 2013年10月8日、展示・体験コーナー「さくら湖にいる魚たち」、さくら湖自然環境フォーラム2013～「さくら湖流域の自然環境の魅力を見つめ直す～」、さくら湖自然環境フォーラム実行委員会、三春交流館「まほらホール」（福島県三春町）、展示解説講師。
- 2013年10月8日、研究成果報告「研究から見えてきたさくら湖の特徴～外来魚の研究から～」、さくら湖自然環境フォーラム2013～「さくら湖流域の自然環境の魅力を見つめ直す～」、さくら湖自然環境フォーラム実行委員会、三春交流館「まほらホール」（福島県三春町）、報告者。
- 2013年10月27日、開始の挨拶「びわ湖の魚たちのいま」、自然体験イベント「いま・自然を考える」：外来魚駆除釣り大会、（一社）日本自動車連盟滋賀県支部、津田江1北湖岸緑地（滋賀県草津市）、講師。
- 2013年11月2日、基調講演「日本における外来魚の現状と課題」、外来魚を考える水辺の環境フォーラム、環境教育ネットワークとやまエコひろばほか、富山市ファミリーパーク自然体験センター（富山県富山市）、講師。
- 2013年11月2日、パネルディスカッション「どう向き合うか、外来魚対策」、外来魚を考える水辺の環境フォーラム、環境教育ネットワークとやまエコひろばほか、富山市ファミリーパーク自然体験センター（富山県富山市）、アドバイザー。
- 2013年11月6日、琵琶湖・魚類について、滋賀県立河瀬中学校、滋賀県立河瀬中学校1年生地域探訪、琵琶湖博物館、取材への対応。
- 2013年11月12日、生態系について、立命館守山高等学校、立命館守山高等学校2年生フィールドワーク、琵琶湖博物館、質問対応。
- 2013年11月12日、講義「滋賀県・琵琶湖から生物多様性を考える」、滋賀県職員研修主事・技師級2年コース、滋賀県職員研修所、琵琶湖博物館（滋賀県草津市）、講師。
- 2013年11月15日、外来魚について、滋賀県立虎姫高等学校、滋賀県立虎姫高等学校サイエンスフィールドワーク、琵琶湖博物館、質問対応。
- 2013年11月16日、滋賀Bセンスさんぽ：草津市を歩く、南草津駅～草津駅および下物バス停～琵琶湖博物館（滋賀県草津市）、案内人。
- 2013年11月20日、講義「外来生物による生態と影響の解明及び防除・抑制方法の開発、湖と人々との関わり」、滋賀県レイカディア大学草津校第35期生前期選択講座（びわこ環境学科1年）、校外学習、琵琶湖博物館（滋賀県草津市）、講師。
- 2013年11月20日、現地調査指導および講評、湖南企業いきもの応援団第15回（2013年度第3回）調査会、滋賀経済同友会湖南支部、（株）郷インテックスおよび狼川流域（滋賀県草津市）、講師。
- 2013年12月1日、講義「外来生物問題について～地域の生物多様性を守るには～」、NPO法人シニア自然大学第20期風組第2回自主観察会、琵琶湖博物館見学会、琵琶湖博物館（滋賀県草津市）、講師。
- 2013年12月7日、基調講演「外来生物と生物多様性：なぜ外来生物対策なのか」および情報交換会、講座「外来生物のおはなし」、芥川倶楽部・国土交通省淀川河川事務所ほか、高槻市総合センター（大阪府高槻市）、講師およびパネラー。
- 2014年1月20日、現地調査指導および講評、湖南企業いきもの応援団第16回（2013年度第4回）調査会、滋賀経済同友会湖南支部、草津市南笠東公民館および狼川流域（滋賀県草津市）、講師。
- 2014年3月16日、講演「なぜ、外来生物が問題になるのか？」、フォーラム「身近な川から考えよう！ 江の川水系のめぐみと外来生物問題」、広島県江の川水系環境保全協議会、土師ダム湖面利用研修センター「はじ丸館」（広島県安芸高田市）、講師。

視察対応

- 2013年4月16日、常設展示案内、JICA研修「平成24年度産業廃水処理技術（B）」コース（（公財）北九州国際技術協力協会）。
- 2013年4月24日、講義、常設展示の案内、および後日の質問対応、JICA研修（集団研修）「平成24年度ゼロ・エミッション型農業・農村開発」コース（JICA北海道国際センター（帯広））、[水谷 智と共同]。

- 2013年6月28日、常設展示案内、平成25年度滋賀県高校生海外相互派遣事業ミシガン州派遣生徒および引率者一行、[ロビン J. スミスと共同]。
- 2013年7月20日、企画展示案内、企画展示オープニングセレモニー来賓一行。
- 2013年7月29日、企画展示案内、関西広域連合広域環境保全局生物多様性保全検討チーム一行。
- 2013年8月19日、企画展示案内、鹿児島県松元土地改良区一行。
- 2013年8月26日、企画展示案内、NACS-J 大阪連絡会一行。
- 2013年8月28日、常設展示案内、JICA 研修「平成25年度産業廃水処理技術A」コース。
- 2013年10月9日、常設展示・企画展示案内、ケベック州 GRIL (Interuniversity Research Group in Limnology and Aquatic Environment) Pierre Magnan 氏。
- 2013年10月29日、意見交換会・常設展示案内、マレーシアからの研究者訪問団((公財)国際湖沼環境委員会)。
- 2013年10月31日、常設展示・企画展示案内、マレーシアからの研究者訪問団((公財)国際湖沼環境委員会)。
- 2013年11月9日、企画展示案内、名護市名護博物館・村田尚史氏。
- 2013年11月19日、常設展示・企画展示案内、台北動物園保育教育基金会秘書組・張 瓊文氏。
- 2013年11月23日、企画展示案内、千葉県立中央博物館・林 浩二氏。
- 2013年11月23日、企画展示・水族トピック展示案内、さかなクン。
- 2013年11月24日、企画展示案内、豊橋市自然史博物館・西 浩孝氏。
- 2013年11月24日、企画展示案内、滋賀県議会議員・駒井千代氏。

メディアへの協力

- 2013年4月24日、NHK 総合テレビ「NHK ニュース：東海・北陸地方ニュース」、ブルーギル繁殖コロニーの水中写真の提供。
- 2013年5月、ノーバスネットニュースマガジン編集室(編)「にぎやかな水辺 No.2」、インタビュー記事『法改正をまず評価。次は実効性の有る行動計画・侵略的外来種リストを実現すること』滋賀県立琵琶湖博物館専門学芸員・中井克樹さん、(2013年4月22日取材対応)。
- 2013年6月2日、NHK・Eテレ「サイエンス ZERO：絶滅の危機！日本のコイ」、水族展示での野生型コイの解説、(2013年4月15日・5月2日取材対応)。
- 2013年6月22日(びわ湖放送では6月29日)、テレビ大阪系ネット「かがく de ムチャミタス！：君もカタツムリ博士だ！みんなのギモン解決スペシャル」、カタツムリの解説および生体提供、(2013年5月11日取材対応)。
- 2013年7月9日、ぼうずコンニャク氏による魚介類食用利用に関する取材、にほのうみにおけるオオクチバス料理を紹介・解説。
- 2013年8月、ノーバスネットニュースマガジン編集室(編)「にぎやかな水辺 No.3」、活動紹介記事「吊り下げ式人工産卵装置の野外実験5年目の効果 4月～7月 中井克樹さん(琵琶湖外来魚研究グループ・滋賀県)」。
- 2013年8月15日、毎日新聞・地域情報紙「Oh! Me Vol.478：生物多様性を考えるテーマ展示／草津市 県立琵琶湖博物館」、企画展示の見どころを紹介。
- 2013年8月17日、中日新聞「自由研究見つけた!? 2 剥製に学ぶ地球環境／琵琶湖博物館」、企画展示の見どころを紹介。
- 2013年10月26日、産経新聞「生物多様性テーマに琵琶湖博物館企画展」、企画展示の見どころを紹介。少年写真新聞社、「中山れいこ著：いのちのかんさつ6 ホタル」への協力(外来種問題に関する助言)。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

質問メールへの回答、5件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

魚類・貝類・その他水生無脊椎動物の標本資料、採集、受入、収蔵、随時。

京都大学理学部動物学教室 堀道雄前教授提供のタンガニイカ湖・琵琶湖産魚類の液浸標本，魚類主要目の頭骨標本の提供，受入および一次整理.

他博物館・機関の活動

株式会社啓林館「平成 26 年度以降用デジタル教科書高校理科教科書（教師用・生徒用）」，オオクチバスとブルーギルの写真提供.

(財) リバーフロント整備センター「平成 23・24 年度河川水辺の国勢調査」の結果リスト中の貝類疑義サンプル，取り寄せおよび同定.

大阪市立自然史博物館，陸産貝類（ナメクジ類）写真の種の同定依頼への対応.

アトリエモレリ，陸産貝類写真の種の同定依頼への対応.

(一財) 自然環境研究センター，外来ナメクジ類の侵略性の問い合わせに関する助言.

琵琶湖を戻す会，カワヒバリガイ写真の種の同定依頼への対応.

彦根市在住の母子，彦根市周辺の陸産貝類に関する同定依頼への対応.

鳥取県栽培漁業センター，東郷池および湖山池で採取したイガイ科貝類の同定依頼への対応.

長浜バイオ大学学生，滋賀県・京都府で採取された陸産貝類の同定依頼への対応.

京都府八幡市在住，京都府南部で採取された陸産貝類に関する同定依頼への対応.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013 年 7 月 20 日～11 月 24 日，琵琶湖博物館第 23 回企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」，準備・実施主担当，[松田征也・藤岡康弘・澤邊久美子と共同].

モーニングレクチャー，講義，4 回.

他博物館・機関の活動

豊橋市自然史博物館，2013 年 7 月 12 日～9 月 1 日，第 28 回特別企画展「はてな？なるほど！ザ・カタツムリ」，ホソヤカギセルガイの逆旋個体の標本の貸出し.

沖縄県立博物館・美術館，2013 年 7 月 12 日～9 月 1 日，企画展「海・山・川のおくりもの 目からウロコの大きき物展ー生物多様性ホットスポット JAPANー」，ビワコオオナマズの剥製標本の貸出し.

茨城県自然博物館，2013 年 7 月 13 日～9 月 23 日，第 58 回企画展「ぎょ・魚・漁～淡水魚の知られざる生態を追って～」，コイ科魚類咽頭歯模型の貸出し.

京都府主催「京都環境フェスティバル 2013」，2013 年 12 月 14 日・15 日，京都府総合見本市会館<京都パルスプラザ>におけるシンボルゾーン（京都府文化環境部自然環境保全課担当）に出展するアライグマ、カミツキガメ、アカミミガメ、カワウの剥製標本の貸出し.

【企画調整活動】

地域発見！参加型移動博物館事業，ルシオール・アート・キッズ・フェスティバルにおける「移動博物館展示」の前日設営，2013 年 4 月 7 日，立命館守山中・高等学校（滋賀県守山市）.

新入職員等研修，C 展示室解説，講師，2013 年 4 月 18 日，琵琶湖博物館.

JICA 集団研修「博物館学コース」一般研修，地域活動の見学と意見交換（エコアイデアキッズびわ湖の活動に同行），講師，2013 年 5 月 12 日，琵琶湖博物館・津田江内湖（滋賀県草津市），[マーク J. グライガー・楠岡泰らと共同].

JICA 集団研修「博物館学コース」個別研修「地域コミュニティと博物館」，Diversity and localization, as local heritages with historical background（地域の遺産としての多様性と地域性），講師，2013 年 6 月 25 日，琵琶湖博物館（滋賀県草津市）.

琵琶湖博物館協議会，企画展示見学案内，2013 年 11 月 6 日，琵琶湖博物館.

フランス国立パリ自然史博物館と琵琶湖博物館との協定延長に関する協力.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

- 2013年9月8日～9月14日，アメリカ合衆国アーカンソー州リトル・ロック市，第143回アメリカ水産学会年次大会（マリオット／リトル・ロック）での日本のオオクチバス対策の概要に関する研究発表（環境省地球環境総合研究推進費）。
- 2014年1月26日～1月30日，タイ王国バンコク都、パトゥムタニ県、アユタヤ県，淡水外来魚の流通状況、仏教的行為としての放生等の現状に関する視察、および国立カセサート大学水産学部における特別講義（環境省地球環境総合研究推進費）。
- 2014年2月20日～2月26日，台湾台北市、基隆市、桃園県、宜蘭県，淡水外来魚、特にオオクチバスの流通・利用・生息状況の調査、および台北市立動物園における特別講義（環境省地球環境総合研究推進費）。

【館外の活動】

- 2003年5月～，滋賀県，外来種問題検討委員会，検討委員および水生生態系部会員。
- 2003年度～，滋賀県，生きもの総合調査委員会，魚貝類部会，専門委員。
- 2013年度，滋賀県，野生動植物との共生に関する検討会，委員。
- 2013年度，東近江市博物館運営委員会，委員。
- 2004年8月～，国土交通省琵琶湖河川事務所，河川保全利用委員会，委員。
- 2010年3月～，国土交通省中国四国整備局苦田ダム管理所，ブラックバス勉強会，委員。
- 2012年1月～，国土交通省東北地方河川事務所三春ダム管理所，三春ダム外来魚研究会，委員。
- 2013年度，農林水産省東海農政局，外来貝類被害防止対策検討調査連絡会，委員。
- 2012年6月～2013年8月，中央環境審議会野生生物部会外来生物対策小委員会，専門委員。
- 2013年8月～，中央環境審議会自然環境部会外来生物対策のあり方検討小委員会，専門委員。
- 2003年度～，環境省，絶滅のおそれのある野生動植物種の選定・評価検討会（陸・淡水産貝類分科会），検討委員。
- 2004年10月～，環境省，特定外来生物分類群専門家グループ（無脊椎動物），検討委員。
- 2012年9月～，環境省，愛知目標達成のための侵略的外来種リストの作成会議，検討委員。
- 2012年9月～，環境省，外来種被害防止行動計画の策定会議，検討委員。
- 2014年1月～，環境省，特定外来生物分類群専門家グループ（魚類），検討委員。
- 2013年度，環境省近畿地方環境事務所，琵琶湖内湖オオクチバス等防除事業，アドバイザー。
- 2013年度，環境省九州地方環境事務所，蘭牟田池オオクチバス等防除連絡会議，アドバイザー。
- 1999年2月～，（財）リバーフロント整備センター，河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員（貝類担当）。
- 1999年10月～，（財）ダム水源地環境整備センター，河川水辺の国勢調査（ダム湖版）スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員（貝類担当）。
- 水土里ネットまつもと（鹿児島県）の平成25年度21世紀土地改良区創造運動大賞受賞，外来魚駆除の活動における連携団体として協力。
- 湖南企業いきもの応援団（滋賀県）の平成25年度しが生物多様性大賞受賞，主要活動団体のひとつとして調査時の生物同定や結果講評，成果発表等に協力。

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、世界の中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

今年度は、文部科学省の科学研究費補助金(科研費)の研究「南米大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」において研究代表者として、2014年2月26日から3月26日の間、南米(ベネズエラ、ウルグアイ、アルゼンチン、ペルー、エクアドル、キュラソー)において調査を行った。これらの地域に固有な種(未記載を含む)を多数採集できた。この他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製やDNAの解析を行っている。

また、新琵琶湖博物館創造準備室に席をおき、公益財団法人カメイ社会教育振興財団の海外先進施設調査「最新の環境学習における展示・学習プログラムの開発・指導者研修・運営についての事例研究」において研究代表者として、2013年11月30日から12月13日の間、オーストラリア(オーストラリア博物館、メルボルン博物館)と香港(香港湿地公園、マイポ自然保護区)において調査を行った。これらの施設において、子どもだけでなく大人も日常の学習の場として博物館を利用する方策について、担当者からのヒアリングや来館者の展示の使用状況等を調査した。

印刷物

【一般向けの著作】

梶永一宏(2013)ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～22 アシナガバエが示すもの 進化の過程 世界で調査. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 4月9日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

梶永一宏(2014年1月17日)海外博物館の調査から考えた大人が楽しめる展示室. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ属 *Dolichopus* の分類学的研究」, (2013年度).

科学研究費補助金(基盤 C)「南米大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」(研究代表者: 梶永一宏), 研究代表者(2011~2013年度).

公益財団法人カメイ社会教育振興財団(海外先進施設調査)「最新の環境学習における展示・学習プログラムの開発・指導者研修・運営についての事例研究」(研究代表者: 梶永一宏), 研究代表者(2013年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

2013年7月6日，夜の昆虫観察会，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！，琵琶湖博物館，講師。

2013年7月21日，里山の夏を楽しもう，里山体験教室，体験教室，野洲市大篠原，講師。

2013年10月6日，昆虫の進化と多様性～世界のアシナガバエ研究から～，2013年度 新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性」，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2013年5月18日，川の中の生きものしらべ，ホテルの学校，観察会，千丈川（大津市），講師。

2013年6月9日，千丈川の水生昆虫についての講話，ホテルの学校，ほたるの集い，千丈川（大津市），講師。

2013年7月23日，川の中の生きものしらべ，ホテルの学校，観察会，千丈川（大津市），講師。

2013年8月19日，琵琶湖博物館へ行こう，ホテルの学校，観察会，琵琶湖博物館，講師。

2013年9月30日，川の中の生きものしらべ，ホテルの学校，観察会，千丈川（大津市），講師。

2013年10月20日 川で見られる昆虫，水茎干拓土地改良区婦人会，講義，琵琶湖博物館，講師。

2014年1月18日 川で見られる昆虫，京都府立亀岡高等学校，講義，琵琶湖博物館，講師。

2014年1月18日，水鳥と水辺の生きもの観察会，ホテルの学校，観察会，瀬田川（大津市），講師。

視察対応

2013年5月29日，展示案内，神奈川県議会・市議会議員の視察。

メディアへの協力

2013年8月16日，びわ湖放送，まだ間にあう自由研究，取材対応，（2013年8月15日）。

2013年9月20日，NHK 大津，おうみ発 610，取材対応，（2013年9月18日）。

2014年3月8日，産経新聞，県内生息100種類目「スナアカネ」発見，取材対応，（2014年1月11日）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース，維持管理。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

日本産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも），500件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」ライトトラップの展示，更新と維持管理。

2013年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」顕微鏡で虫を観る展示，更新と維持管理。

2013年度，研究最前線，更新。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

新任職員等研修，C展示室の説明，講師，2013年4月18日，琵琶湖博物館。

事業に関する資料提供，1件。

JICA 博物館学コース，交流空間のリニューアルについて，講師，2013 年 6 月 26 日，琵琶湖博物館。
地域発見！参加型移動博物館事業，展示維持、解説，2013 年 4 月 29 日，ピアザ淡海（大津市）。
地域発見！参加型移動博物館事業，展示維持、解説、撤収，2013 年 10 月 30 日，品川プリンスホテル（東京都港区）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2013 年度，新琵琶湖博物館創造準備室交流ワーキンググループ，全体調整。

【海外渡航】

2013 年 11 月 30 日～12 月 13 日，オーストラリア・香港，海外先進地施設調査。

2014 年 2 月 26 日～3 月 26 日，ベネズエラ・ウルグアイ・アルゼンチン・ペルー・エクアドル・キュラソー，野外調査。

【館外の活動】

2013 年 4 月～2014 年 3 月，滋賀県生きもの総合調査昆虫類部会，専門委員。

今年度は、以下にしめす5つのプロジェクトを中心に研究を行った。

1. オーストラリア Riversleigh 地層からのカイミジンコ、体の内部が保存されている化石カイミジンコの分析。論文を仕上げた。
2. 日本の地下水に生息するカイミジンコについて、サンプリングを行い、分類作業が進行中である。論文を準備中である。
3. 韓国の淡水カイミジンコの分類とサンプリングをした。論文を仕上げた。
4. 淡水カイミジンコの精子の形態を分析。論文を仕上げた。
5. 日本のマルカイミジンコ (*Notodromas* 属) の分類をした。論文を準備中である。

印刷物

【学術論文】

Matzke-Karasz, R., Neil, J. V., Smith, R. J., Godthelp, H., Archer, M. and Hand, S. J. (2013) Ostracods (Crustacea) with soft part preservation from Miocene cave deposits of the Riversleigh World Heritage Area, NW Queensland, Australia. *Journal of Systematic Palaeontology*, 11, Natural History Museum, UK: 789-819.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

スミス ロビン (2013年5月17日) 日本の淡水カイミジンコ (甲殻類) の多様性と分布について. 琵琶湖博物館 研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表],
Smith, Robin James (2013年7月22日) The Diversity and Distribution of Freshwater Ostracods (Crustacea) in Japan. Meiofauna Conference, Ansan City (South Korea), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「東アジアのカイミジンコデータベースの拡大」, (2013年度).
共同研究「白亜紀と現在のカイミジンコの放射光による分析」(研究代表者: Dr. Renate Matzke-Karasz), 古生物学 (2008年1月~).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Zootaxa, 査読, 4件.
Internation Review of Hydrobiology, 査読, 1件.
Zoologischer Anzeiger, 査読, 1件.
Crustaceana, 査読, 1件.
Chinese Journal of Limnology & Oceanography, 査読, 1件.
Species Research, 査読, 1件.
International Ostracod Symposium, 査読, 2件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件。

2013年7月6日，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！，琵琶湖博物館，補助。

2013年10月26日，琵琶湖のプランクトンを見てみよう，体験学習，補助。

他の博物館・機関等主催行事

2013年5月29日，Lake Biwa，講義，高校生，琵琶湖博物館。

2013年7月19日，Lake Biwa，講義，大学生，琵琶湖博物館。

2013年8月4日，Lake Biwa，講義，高校生，琵琶湖博物館。

2013年10月18日，Lake Biwa，講義，大学生，琵琶湖博物館。

2014年3月14日，Lake Biwa，講義，高校生，琵琶湖博物館。

視察対応

2013年5月21日，展示案内，Professor Emi Ito。

2013年11月20日，講義，JICA研修員。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの更新，多数。

英語版ホームページのデザイン，変更。

日本の淡水カイミジンコの検索表，作成。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

世界の湖の展示コーナー，清掃・管理。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

JICA博物館学コース，カンントリーレポート，運営スタッフ，2013年4月16日，琵琶湖博物館。

JICA博物館学コース，視察同行，2013年6月26日，オムロン株式会社。

JICA博物館学コース，研修員の対応，運営スタッフ，2013年6月25～19日，琵琶湖博物館。

JICA博物館学コース，ファイナルレポート，運営スタッフ，2013年7月18日，琵琶湖博物館。

滋賀県博物館協議会，“Discover the Museums in Shiga”，原稿の英語編集。

地域発見！参加型移動博物館事業，展示維持，2013年4月28日，ピアザ淡海（滋賀県大津市）。

地域発見！参加型移動博物館事業，展示維持，2013年8月6日，文化産業交流会館（滋賀県米原市）。

館内の人事・館外活動に関すること

【館外の活動】

2013年4月～2014年3月，JICA博物館学コース運営委員会，運営委員。

2013 度から滋賀県水産試験場との共同研究「スレ症を目的とした塩水浴の治療メカニズムの解明」を開始した。本研究は、傷ついた淡水魚に対して昔から経験的に行われてきた塩水浴が、なぜ効果的なのかを明らかにすることが最終目的である。本年度は、金魚とアユを用いて健康魚の塩分耐性、人為的にスレ症状を再現する実験系の確立、スレ症の金魚とアユに対する最適な塩分濃度を明らかにした。さらに、塩水浴時の金魚から採血し、血清中の塩化物イオン濃度を測定することによって、適した濃度での塩水浴は血清中の塩化物イオン濃度が正常時とほとんど変化しないことを明らかにした。これは、塩水浴が効果的である理由の一つである可能性がある。この研究成果の一部は日本水産学会で発表を行った。今後は、浸透圧調節に関与している酵素である鰹の $\text{Na}^+\text{K}^+\text{ATPase}$ や、血液の浸透圧を測定し、塩水浴の治療メカニズム解明につなげる予定である。

その他研究成果として、前所属で行っていたピワマス引縄釣についての論文を日本水産学会誌に発表した。内容は、近年琵琶湖で増加してきたピワマスを引縄釣で狙う遊漁者の現状（人数、採捕尾数等）を、届出制を導入することにより把握したというものである。

博物館の事業では、広報担当として雑誌掲載記事や新聞・テレビ等の取材対応、資料提供を行った。来館者が年々減少していく中で、いかにして博物館へ来館してもらうかを考えながら、来館者に博物館の魅力が伝わるような広報活動に努めた。交流事業では、琵琶湖の魚や漁業、外来魚についての講義、解剖・調理実習を担当した。

印刷物

【学術論文】

菅原和宏・井出充彦・酒井明久・鈴木隆夫・久米宏人・亀甲武志・西森克浩・関 慎介（2014）琵琶湖における届出制によるピワマス引縄釣遊漁の現状把握. *日本水産学会誌*, 80(1), 日本水産学会: 45-52.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

菅原和宏（2013年6月12日）琵琶湖におけるピワマス漁業と遊漁の現状. 第79回近畿ブロック水族館飼育係研修会, 日本動物園水族館協会, 海遊館（大阪府大阪市）, [口頭発表].

菅原和宏（2013年12月20日）淡水魚のスレ症に対する塩水浴の治療効果. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].

菅原和宏・山本充孝（2014年3月28日）淡水魚のスレ症に対する塩水浴の効果. 平成26年度日本水産学会春季大会, 日本水産学会, 北海道大学函館キャンパス（北海道函館市）, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「アユの寄生虫2種の季節動態と生物標識としての可能性」, (2013年度).

琵琶湖博物館共同研究「スレ症を目的とした塩水浴の治療メカニズムの解明」(研究代表者: 菅原和宏), 研究代表者 (2013~2014年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。

2013年5月18日，魚の寄生虫を調べよう！，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，講師。

2013年7月28日，初心者のためのふなずし作り体験，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，主担当。

2013年7月31日，外来魚について調べよう，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，指導。

2013年8月8日，生き物の飼い方，指導者のための博物館活用講座，講座，琵琶湖博物館，講師。

2014年2月15日，琵琶湖漁業について，立命館守山中学校ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，指導・助言。

他の博物館・機関等主催行事

2013年5月30日，外来魚について，レイカディア大学，琵琶湖外来魚駆除釣り大会，琵琶湖湖岸，講師。

2013年6月30日，豊かな水産物の宝庫、琵琶湖～琵琶湖漁業の現状と問題点～，近畿大学水産学科，自校学習，琵琶湖博物館，講師。

2013年8月7日，セタシジミを使ったストラップ作り，環境教育研究協議会，平成25年環境教育研究協議会教員研修，琵琶湖博物館，講師。

2013年8月20・21日，琵琶湖の魚，滋賀県水産課，夏休み親子水草と魚学習会，琵琶湖博物館，講師，2件。

2013年9月4日，琵琶湖の魚の話と外来魚解剖，天津清陵高校，環境学習，天津清陵高校（天津市），講師。

2013年11月17日，琵琶湖の自然，全トヨタ労連，スマイリングイベント，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2013年5月2日，Lake Biwa (Fish and Fishery)，京都大学農学部。

2013年10月30日，食(水産物)に関係した観察会・講座，三重県庁。

2014年2月25日，琵琶湖と魚，イートラベル韓国。

メディアへの協力

2013年4月22日，eo光テレビ，原田伸郎のこの街ええなあ，撮影対応。

2013年5月3日，アスミック・エース，映画「偉大なる、しゅららぼん」，撮影対応。

2013年5月13日，三重ケーブルテレビ，出演。

2013年6月28日，関西テレビ，よ～いドン！，撮影対応。

2013年7月16日，FM石川，FUN×FUN Museum!!，出演（生放送）。

2013年12月1日，NHK 天津放送局，クイズで知るびわ湖，出演。

2013年12月3日，NHK 天津放送局，おうみ発610，出演（生放送）。

2014年2月28日，CBC テレビ，花咲かタイムズ，出演。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電子媒体による質問対応，魚類等に関する質問への回答，8件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族飼育，管理・対応。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年7月20日～11月24日，琵琶湖博物館第21回企画展示「生きものがたり ―生物多様性 湖国から 世界から―」，分担担当者.

2013年7月13日～9月1日，第26回水族企画展示「水中の忍者たち～滋賀の水生昆虫～」，分担担当者.
展示交流員と話そう，内容指導.

モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

イナズマロックフェスブース出展，2013年9月21・22日，烏丸半島広場.

生物多様性協働フォーラムブース出展，2013年12月21日，京都劇場.

びわ湖レイクサイドマラソンブース出展，2014年2月23日，烏丸半島広場.

イオンモール草津展示ケース，維持管理，2013年4月～2014年3月，イオンモール草津.

地域発見！参加型移動博物館事業，副担当，10件.

資料提供，43件.

テレビ取材対応，約20件.

新聞取材対応，約30件.

雑誌情報掲載対応，約50件.

今年度は、滋賀県南部のミズゴケ湿地研究を進めた。共同研究者、地元「甲賀水源の自然を守る会」、はしかけグループ「たんさいぼうの会」などの活躍によって、湿原の成立時期、湿原の水質、集水域の地盤の構造、珪藻および有殻アメーバの種組成、維管束植物の植生などが明らかになりつつある。また、滋賀県南部のミズゴケ湿地と同様の「鈹質土壌湿原」が、中央構造線の北側に広く分布することが分かってきた。そこで滋賀県の湿原との比較のために、愛知、三重、広島などの鈹質土壌湿原の予備調査を始めた。

今年も、琵琶湖地域で田んぼの生きものを研究している人たちを集めて、「第4回 琵琶湖地域の水田生物研究会」を開催した。第1部のミニシンポジウム「ハッタミズ・サミット」では、日本最長のミミズ、ハッタミズの研究や保全に関わっている人たちを、これまでに判明している世界のハッタミズ全産地（石川県・滋賀県・福井県）から招聘してご講演をいただき、パネルディスカッションを行った。第2部は例年と同様の多数のショートセッションを行った。ポスター発表も含めて33題の発表、161名以上の参加があり、過去最高の盛会となった。

研究部としては、博物館学研究の領域会議を、セミナー形式で行った。具体的には、琵琶湖博物館の交流事業および参加型研究に理論的基礎を与えると思われる社会教育学等の文献を、グループのメンバーとともに読んで互いに文献紹介し、その内容についてディスカッションした。2010年前後に琵琶湖博物館で研究を進めていた学生たちの研究成果が、相次いで3本も出版された。また、はしかけ「たんさいぼうの会」の研究成果が、久しぶりに論文化された。

日本珪藻学会の編集委員長として、会誌 *Diatom* の29巻を編集・発行した。本巻よりB5版だったサイズをA4版に変更した。計113ページの構成で、6論文を掲載した。うち3編は、私自身の主著あるいは共著論文である。

現在、私のデータ解析を待っている共同研究者やはしかけの研究成果がいくつかあるので、2014年はその論文化に重点を置いて研究を進めたい。また、本業である珪藻の分類・生態を中心に、論文にすべきデータ（取得途中のものも含む）が数多くたまっているので、これもなるべく早く論文化していきたい。ただし一方で、2014年度は仕事の重点をリニューアルに置く必要があるので、執筆可能な論文は主著1本、共著2~3本程度が限界と思われる。

印刷物

【学術論文】

- 上瀧七美・大塚泰介（2013）水田のナゴヤダルマガエル幼生は中干しまでにカエルになれるか？. *地域自然史と保全*, 35, 関西自然保護機構：45-52.
- 廣田昌昭・木原靖郎・有田重彦・大塚泰介（2013）湖山池（鳥取県）の付着珪藻相. *Diatom*, 29, 日本珪藻学会：24-41.
- 大塚泰介・中村優介・向井康夫・岩渕成紀（2013）東北地方太平洋沖地震による津波と地盤沈下で海水化した水田の珪藻. *Diatom*, 29, 日本珪藻学会：42-47.
- 芝崎美世子・大塚泰介・三田村宗樹（2013）大阪府安威川の付着珪藻植生と河川環境との関係. *Diatom*, 29, 日本珪藻学会：48-53.
- Shinohara, K., Maruyama, A., Rusuwa, B. and Ohtsuka, T. (2014) Taxonomic revision of three diatoms found in Lake Malawi: *Afrocymbella brunii* (Fricke) comb. nov., *Afrocymbella rossii* (Kociolek & Stoermer) comb. nov., and *Aulacoseira euareolata* (O. Müller) comb. nov. et nom. nov.. *Phycological Research*, 62, The Japanese Society of Phycology：9-15.

【専門分野の著作】

- 金尾滋史・大塚泰介（2013）「魚のゆりかごとしての水田—湖国・滋賀からの発信—」特集によせて. *海洋と生物*,

35, 生物研究社 : 195-196.

大塚泰介 (2013) ニゴロブナ仔稚魚を育む水田で何が起こったか. *海洋と生物*, 35, 生物研究社 : 215-221.

金尾滋史・大塚泰介 (2013) 湖国・滋賀における水田生態系研究の現在、過去、未来. *海洋と生物*, 35, 生物研究社 : 426-432.

【一般向けの著作】

大塚泰介 (2013) 湖岸より 185 カエルの子 上陸可能か. *中日新聞*, 中日新聞社, 6月15日.

大塚泰介 (2014) 湖岸より 201 ふゆみずたんぼの生き物たち. *中日新聞*, 中日新聞社, 1月28日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

大塚泰介 (2013年5月18日) 日本珪藻学会第34回大会. 日本珪藻学会, 文教大学 (埼玉県越谷市), [座長].

石角江里佳・大塚泰介・里口保文 (2013年5月18日) 古琵琶湖層群および東海層群から見出された *Stephanodiscus suzukii* 様珪藻化石の観察. 日本珪藻学会第34回大会, 日本珪藻学会, 文教大学 (埼玉県越谷市), [口頭発表].

大塚泰介・石井千津・石角江里佳 (2013年5月19日) *Stephanodiscus suzukii* の培養過程で出現した殻縁の棘について. 日本珪藻学会第34回大会, 日本珪藻学会, 文教大学 (埼玉県越谷市), [口頭発表].

芝崎美世子・井上 淳・大塚泰介・三田村宗樹 (2013年5月19日) 珪藻化石群集から推測される京丹後市離湖の900年間における水環境変遷. 日本珪藻学会第34回大会, 日本珪藻学会, 文教大学 (埼玉県越谷市), [口頭発表].

大塚泰介 (2013年11月16日) 日本珪藻学会第33回研究集会. 日本珪藻学会, 琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設 (沖縄県国頭郡本部町), [座長].

Ohtsuka, T. and Arita, S. (2013年11月16日) Diatoms in Yawata moor, Kitahiroshima, Hiroshima Prefecture, Japan. 日本珪藻学会第33回研究集会, 日本珪藻学会, 琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設 (沖縄県国頭郡本部町), [ポスター発表].

Shinohara, K., Maruyama, A., Rusuwa, B. and Ohtsuka, T. (2013年11月16日) Taxonomic revision of three diatoms found in Lake Malawi: *Afrocybella brunii* (Fricke) comb. nov., *Afrocybella rossii* (Kociolek & Stoermer) comb. nov., and *Aulacoseira euareolata* (O.Müller) comb. nov. et nom. nov.. 日本珪藻学会第33回研究集会, 日本珪藻学会, 琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設 (沖縄県国頭郡本部町), [ポスター発表].

大塚泰介・石角江里佳・石井千津・里口保文 (2013年12月20日) 琵琶湖周辺の固有種スズキケイソウに関するいくつかの新知見. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

大塚泰介・金尾滋史 (2013年12月22日) 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [企画運営].

大塚泰介・浦部美佐子 (2013年12月22日) 滋賀 湖国ハッタミミズ・ダービー中間報告. 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

大塚泰介・藤田裕子 (2013年12月22日) 水田珪藻群集の季節変動—大阪府高槻市の事例—. 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [ポスター発表].

大塚泰介 (2013年12月22日) 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [座長].

辻 咲恵・小山奈々・大塚泰介・一般財団法人池田町農業公社・(株) ネイチャースケープ・岩井紀子・丸山 敦 (2014年3月14~18日) 水田に生物がいると群集組成はどう変化するか〜ドジョウ、タニシ、オタマジャクシが果たす役割〜. 第61回日本生態学会大会, 日本生態学会, 広島国際会議場 (広島県広島市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「水田における珪藻の環境指標性の研究」, (2013年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～」(研究代表者:大塚泰介), 研究代表者(2012～2016年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖を支える生命と物質の循環系に関する研究-I」(研究代表者:藤岡康弘), 研究分担者(2013～2015年).
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:高橋啓一), 共同研究者(2011～2015年度).
- 琵琶湖統合研究「大気中から降下する汚染物質が琵琶湖と集水域に与える影響の評価」(研究代表者:永淵 修), 研究分担者(2011～2014年度).
- 科学研究費補助金(基盤 A)「水田の生物がもたらす生態系サービスの賢い利用を導く技術と社会の総合研究」(研究代表者:夏原由博), 研究分担者(2012～2014年度).
- 総合地球環境学研究所機関連携プロジェクト予備研究「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会-生態システムの健全性」(研究代表者:奥田 昇), 研究協力者(2013年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本珪藻学会, Diatom, 編集委員長, 2009年1月～.
- 日本珪藻学会, 運営委員, 2011年1月～.
- 日本生態学会, 近畿地区会委員, 2012年1月～2013年12月.
- 関西自然保護機構, 運営委員, 2014年2月～.
- 日本珪藻学会, Diatom, 担当編集委員, 3件.
- 日本生態学会, Ecological Research, 査読, 1件.
- 日本藻類学会, Phycological Research, 査読, 1件.
- 日本プランクトン学会・日本ベントス学会, Plankton & Benthos Research, 査読, 1件.
- 日本珪藻学会, Diatom, 査読, 4件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2013年9月17日, 京都府立大学, 「環境微生物学」.
- 2013年4月～2014年3月, 芝崎美世子(大阪市立大学理学研究科博士課程), 研究指導・助言.
- 2013年4月～2014年3月, 石角江里佳(京都造形芸術大学大学院修士課程), 研究指導・助言.
- 2013年11月～2014年3月, 富 小由紀(滋賀県立大学環境科学部), 研究指導・助言.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.
- はしかけ運営, たんさいぼうの会, 担当.
- 2013年12月7日・2014年2月15日, 琵琶湖学習(班での調べ学習), 立命館守山中学校ミュージアムスクール, 指導・助言, 2件.

他の博物館・機関等主催行事

- 2013年6月24日, 田んぼ学習, 草津市立常盤小学校, 講義と観察, 志那中町の田んぼ(滋賀県草津市), 講師.
- 2013年6月29日, ニゴロブナ・フォーラム, 滋賀県農村振興課, フォーラム, 草津市立市民交流プラザ(滋賀県草津市), 話題提供.
- 2013年6月30日, プランクトン実習, 近畿大学農学部水産学科, 実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年7月7日,2014年3月15日,NICCOふゆみずたんぼ生き物観察会,公益社団法人日本国際民間協力会(NICCO),
観察会,山之上のふゆみずたんぼ(滋賀県蒲生郡竜王町),調査指導と解説.
2013年7月11日,プランクトン実習,彦根東高校,実習,琵琶湖博物館,講師,(楠岡 泰と共同).
2013年8月10日,彦根東高校SSH研修会(プランクトン),彦根東高校,講義と実習,琵琶湖博物館,講師,(金
尾滋史と共同).
2013年9月19日,プランクトン実習,彦根市環境保全指導員連絡会議,実習,琵琶湖博物館,講師.
2013年11月23日,「博物館で地球を救える」か?あなたの環境活動への博物館の利用方法,京大農薬ゼミ,ワ
ークショップ,京都大学吉田キャンパス,講師.

メディアへの協力

2013年6月6日,毎日新聞,雑記帳:長さ競う「湖国ハッタミミズ・ダービー」開始,取材対応.
2013年6月14日,京都新聞,希少 巨大ミミズ探せ,取材対応.
2013年6月17日,びわ湖大津経済新聞,準絶滅危惧種の巨大ミミズ「ハッタミミズ」-滋賀でフォトコンテスト
-,取材対応.
2013年6月17日,滋賀報知新聞,巨大ミミズのダービー 琵琶湖博物館が開催中,取材対応.
2013年6月23日,中日新聞,巨大ミミズ見つけて,取材対応.
2013年7月1日,KBS 京都ラジオ,笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ 嘶の朝ごはん 「湖国ハッタミミズ・ダービ
ー」が開催中,出演.
2013年7月3日,NHK 大津放送局,おうみ発610 おうみ探検隊「日本最長のミミズを探せ!」,出演.
2013年10月27日,京都新聞,水田生物テーマ研究発表を募集,取材対応.
2013年12月23日,京都新聞,日本最長ミミズ 生態など報告,取材対応.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物試料の収集・整理,監督・指示.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年7月20日~11月24日,琵琶湖博物館第21回企画展示「生きものがたり -生物多様性 湖国から 世界
から-」,協力.
常設展示の維持管理,主担当.
集う・使う・創る 新空間,副担当.
モーニングレクチャー,講義,4回.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員(朱偉,柏尾珠紀,舟尾俊範),受け入れ担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2001年4月~,島根大学汽水域研究センター,協力研究員.
2011年4月~,京大大学生態学研究センター,協力研究員.

本年度は、思いもかけず関与している科学研究費助成事業2件が共に新規採択され、その立ち上げ作業と、昨年度の成果を公表に向けて整理する作業とを並行して進めねばならない状況に陥った。その結果、中期的な方向性は明らかであっても、短期的な方向性を見出すのに難渋している琵琶湖博物館共同研究に新たな進展が乏しかったことが悔やまれる。

採択された科学研究費助成事業のうち1件は、日本博物館協会が数年おきに行ってきた博物館総合調査を継承するものであり、年度前半は調査内容の策定や関連業務(契約事務など)でエフォートの多くを費やした。来年度は、この調査の集計結果を受けた分析作業、およびその成果を基本とするテーマ研究が控えている。

もう1件は、博物館の「癒し」機能を「副次的機能」という側面から理論化しようとするものである。これは、2011年度琵琶湖博物館共同研究の成果を踏まえたものであるが、全く一からの理論構築を目指すという野心的な試みであるため、本年度は手がかりになると思われる2つの事例(貸館機能を当初から融合している千葉県野田市と中規模都市に各種の博物館施設が揃っている北海道旭川市)を選んで個別調査を行うに留まった。

琵琶湖博物館共同研究では相変わらず博物館学の戦略的展開を目指しているが、今年度は昨年度の成果を業績として集成する2つの作業に終始した。1つは博物館教員に関するアンケート調査結果の分析である。これは、博物館教員に関する基礎データであるにも関わらず、今まできちんとした調査が為されてこなかった部分で、調査の本体は昨年度前半に終了し、今年度6月の学会発表までに分析の大枠は完了した。しかし、分析の過程で全国の博物館だけでなく教員人事を取扱う各教育委員会への調査も必要であることが判明して昨年度末に調査依頼を行い、その集計と未回答者への督促に年度前半を費やした。そして、9月に入ってから論文化の作業に入って、年末に投稿に至ることができた。現在、査読手続きの段階である。

もう1つは、昨年度の特別研究セミナーで注目された「博物館教員OBが学校現場で果たす役割」の整理である。研究分担者(蜂屋)の協力を得て琵琶湖博物館のOBの実情を簡単に分析し、8月に学会発表を行った。

博物館学に直接関わる研究テーマとは別に、昨年度に取り組んだ琵琶湖環流の研究史に関する本格的なレビューは、年度前半一杯をかけた査読手続きを経て、1月に総説論文として印刷公表するに至った。これは、新琵琶湖学セミナーで「琵琶湖の流れ」に関する内容を担当するために不可欠な取組みであったが、リニューアル計画で実現を目指している「大人のディスカバリールーム」の構成要素につながるものと考えられる。

事業では、資料整備事業の総括を担った。資料整備事業は開館以来の試行錯誤を経て、業務が概ね確立しているが、その一方で未整理資料の進捗から収蔵資料の安定まで運営していく中で気付く問題点が山積している。このことから「収蔵庫環境改善プロジェクト」を委託事業として課題を整理した。

その他、文化庁の文化芸術振興費補助金により、県内の無形文化財に関する動画資料のアーカイブ化事業を担当した。単年度事業でデジタルアーカイブを完成させることは不可能であるため、対象と成り得る動画資料を可能な限り完全にリストアップすることを目標に据え、9月からアンケートによる予備調査を進めて、翌年2月には県内各地への訪問調査を実施した。年度後半には、この事業にエフォートの多くを費やす結果となった。

印刷物

【学術論文】

戸田 孝 (2014) 琵琶湖環流の研究史. *陸水学雑誌*, 75 (1), 日本陸水学会 : 35-48.

【一般向けの著作】

戸田 孝 (2013) 湖岸より 188 博物館OBの役割. *中日新聞*, 中日新聞社, 7月27日.

戸田 孝 (2014) 湖岸より 202 博物館の「国勢調査」. *中日新聞*, 中日新聞社, 2月1日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 戸田 孝 (2013年6月30日) 博物館教員の実態調査(2)ー教員出身職員の分掌. 全日本博物館学会第39回研究大会, 全日本博物館学会, 明治大学(東京都千代田区), [口頭発表].
- 戸田 孝 (2013年7月19日) 博物館教員OBの役割ー特別研究セミナーの結果からの考察ー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].
- 戸田 孝・蜂屋正雄 (2013年9月8日) 博物館教員OBが果たす役割. 日本科学教育学会第37回年会, 日本科学教育学会, 三重大学(三重県津市), [口頭発表].
- 戸田 孝(2013年9月13日) 琵琶湖環流に関する残された課題ーエネルギー源の問題. 日本陸水学会第78回大会, 日本陸水学会, 龍谷大学(滋賀県大津市), [口頭発表].
- 戸田 孝 (2013年11月9日) 琵琶湖環流の研究史. 陸水物理研究会第35回研究発表会, 陸水物理研究会, 京都大学地球熱学研究施設(大分県別府市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費助成金(基盤 B)「日本の博物館総合調査研究」(研究代表者:篠原 徹), 研究分担者(2013~2015年度).
- 科学研究費助成金(挑戦的萌芽研究)「『癒し』を手がかりとする博物館の副次的機能論の構築」(研究代表者:戸田孝), 研究代表者(2013~2015年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「『人をつなぐ人材』を軸とした戦略的博物館学への展開」(研究代表者:戸田 孝), 研究代表者(2012~2015年度).
- 琵琶湖博物館専門研究「地球物理学を手がかりとする博物館学の展開」, (2013年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本科学教育学会, 編集委員, 2010~2013年度.
- 陸水物理研究会, 運営委員.

【受賞など】

- 平成25年度日本博物館協会顕彰者, 表彰.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9件.

2013年8月6日, 回転実験室で水槽実験を!, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年11月2日(中止), 回転実験室で琵琶湖の物理学を考えよう, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 企画.

他の博物館・機関等主催行事

2013年12月1日, 琵琶湖博物館の常設展示の考え方, 大阪市都島区内代連合町会, レクリエーション研修会, 琵琶湖博物館, 講義.

視察対応

2013年10月8日, 自然系博物館の構想に関わる研究実験用機器設備の設置状況調査, 熊本県企画振興部文化企画

課博物館プロジェクト班（松橋収蔵庫），生物資料関連の収蔵設備およびDNA分析を中心とする研究設備。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

インターネットを介した情報発信，副担当。
情報システム整備および運営，副担当。
質問メールの受付・振り分け・回答進捗状況管理，技術的補助。
全館員向けメールメッセージの館内公開。
個人管理ページの運営。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料整備活動の総括。
資料データベースの管理運営，総合調整およびセキュリティ管理。
電子図鑑の管理運営，総合調整（将来計画策定など）。

他博物館・機関の活動

全国的な自然史標本セーフティネット，情報公開方針検討，ワーキンググループ委員。
滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，地域の魅力発信映像資料アーカイブ事業，事業の総括および県内博物館等が管理する動画映像資料の網羅的調査。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年度，気象に関する展示の維持管理，主担当。
2013年度，水理に関する展示の維持管理，主担当。
モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

JICA 博物館学コース，Information Use and Equipment for Information Use -Learning from History-，講義，
2013年5月10日，琵琶湖博物館。
地域発見！参加型移動博物館事業，解説対応・展示物撤収，2013年4月29日，ピアザ淡海。
地域発見！参加型移動博物館事業，展示物設営，2013年10月26日，瀬田公園体育館。

【研究部関連事業】

研究備品管理情報の再整理，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2013年度，独立行政法人国立科学博物館「全国的な自然史系標本セーフティネット」のためのワーキンググループ，委員。

2013 年度は、多様な分野にわたり学会や研究会で発表の機会が多くあった。まず、発足以来所属している日本ミュージアム・マネジメント学会の大会で、研究分担者として関係している科研費のプロジェクトにも絡めて、写真を用いるプログラムについて発表した。続いて、2010 年のフィールドレポート調査を発端にした、フィールドレポートの前田雅子さんが中心になって進めている水生コケ類のイチョウウキゴケの研究について、日本蘚苔類学会での前田さんのポスター発表に研究協力者として同行した。学会での発表自体を長らく行っていなかったもので、知人の研究者との交流や情報交換も含めて得るものが多い1年であった。

研究全般については、個人的なことではあるが、かねてより行っていたイバラモについての研究を再開して学位取得するために、神戸大学の大学院博士課程へ進学した。博物館学に関しては、研費の基盤研究 S「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」(代表者：国立科学博物館・小川義和)の研究分担者として滋賀県内での学習プログラムの情報登録の準備を行った。

事業に関しては、引き続き展示担当グループではあったが、新たに新空間担当となり、長年担当したディスカバリールームの主担当を離れた。また、4 月から始まったギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎―植物研究にかけた情熱―」の副担当者として展示を運営し、橋本忠太郎さんゆかりの村田源先生を招いての関連行事なども開催した。継続する業務としては、企画調整課に関連する JICA の博物館学コースに関して、引き続き館内の副担当者として、国立民族学博物館との委員会の専門委員も務めた。

印刷物

【専門分野の著作】

芦谷美奈子・秋山廣光 (2013) 写真資料を用いた館種横断的な学びのプログラムの開発について～過去の参加型イベントおよび写真展からの発展形として～. *JMMA会報*, 18 (3), 日本ミュージアム・マネジメント学会 : 9-10.

【一般向けの著作】

芦谷美奈子 (2013) 「湖国」滋賀の生きものたち 水生植物 (水草). *琵琶湖博物館第 21 回企画展示図録「生きものがたり ―生物多様性 湖国から 世界から―*」, 琵琶湖博物館 : 23.

芦谷美奈子 (2013) 湖岸より 186 水田に浮くイチョウウキゴケの謎. *中日新聞*, 中日新聞社, 6月29日.

芦谷美奈子 (2013) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～31 琵琶湖の「秘密の花園」. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 9月10日.

芦谷美奈子 (2013) 湖岸より 199 ヨシの季節のおわり. *中日新聞*, 中日新聞社, 12月14日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芦谷美奈子・秋山廣光 (2013 年 6 月 2 日) 写真資料を用いた館種横断的な学びのプログラムの開発について～過去の参加型イベントおよび写真展からの発展形として～. 第 18 回日本ミュージアム・マネジメント学会大会, 日本ミュージアム・マネジメント学会, 東京家政大学 (東京都千代田区), [口頭発表].

芦谷美奈子 (2013 年 7 月 19 日) イバラモ *Najas marina* L. の生活史と多様性 その 1 : イバラモの性比と成長特性. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

前田雅子・芦谷美奈子・秋山弘之（2013年8月6日）イチョウウキゴケ生活史の解明. 第42回日本蘚苔類学会大会, 日本蘚苔類学会, 岡山理科大学（岡山県岡山市）, [ポスター発表].

芦谷美奈子・前田雅子・秋山弘之（2013年12月24日）滋賀県で確認されたイチョウウキゴケの孢子と有性生殖. 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].

芦谷美奈子・前田雅子・秋山弘之（2014年2月22日）滋賀県内で確認されたイチョウウキゴケの有性生殖. 2013年度滋賀県植物研究会総会, 滋賀県植物研究会, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金(基盤 S)「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」(研究代表者:小川義和), 研究分担者(2012~2015年度).

科学研究費補助金(基盤 S)「学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツールの開発」(研究代表者:平賀伸夫), 研究分担者(2013~2015年度).

琵琶湖博物館共同研究『「人をつなぐ人材」を軸とした戦略的博物館学への展開」(研究代表者:戸田 孝), 副代表者(2012~2015年度).

琵琶湖博物館専門研究「イチョウウキゴケの有性生殖の可能性とそのメカニズム」, (2013年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 1件.

はしかけ運営, 「ザ! ディスカバはしかけ」・「植物観察の会」・「タンポポ調査はしかけ」, 担当.

2013年4月21日, 談話会「村田源先生を囲んで~滋賀の植物について語り合う~」, ギャラリー展示関連イベント, 琵琶湖博物館, 企画・運営, (山川千代美・草加伸吾と共同).

2013年9月14日・28日, 光と陰で写真をとろう~水草編~, 体験プログラムわくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2013年12月7日・2014年2月15日, ヨシについて, 立命館守山中学校ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 指導・助言, 2件.

2014年3月15日, 琵琶湖のヨシ~湿地帯のシンボル~, 新空間交流会「西川嘉廣さんとヨシ博物館-これからの活用に向けて-」, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2013年4月6日, 琵琶湖と葦を通して見えるもの, 日本よし笛協会, 葦・よし笛の日記念フォーラム, 琵琶湖博物館, パネラー.

視察対応

2013年9月20日, 博物館見学研修, 桃山学院大学博物館学芸員資格課程.

メディアへの協力

2013年11月1日, 関西テレビ スーパーニュース アンカー, オオバナミズキンバイの特徴および琵琶湖の外來水草について, インタビュー対応, (2013年10月11日・22日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年4月2日~6月9日, ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎-植物研究にかけた情熱-」, 副担当

者.

モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

JICA 博物館学コース，副担当者，2013年5月9日～15日（全体研修），琵琶湖博物館.

JICA 博物館学コース，副担当者，2013年6月25日～29日（個別研修），琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（黒岩啓子），受入担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，守山湖岸再生部会，委員.

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，木浜内湖再生部会，委員.

2011年4月～，JICA 博物館学コース運営委員会，専門委員.

2013 年度、事業部は、資料活用グループに異動になった。博物館リニューアルを進めていく中、資料収蔵環境についてもハード・ソフト両面で刷新の必要性を常々感じており、9 月に「資料収蔵環境改善プロジェクト」の立ち上げを提案。年度内に期限を切って、全職員、関係業者、専門家のご協力を得て、できる限りの現状・問題点の調査と改善提案をまとめることとなった。その中で、老朽化した空調・配管設備の現状、今後の調査改修の必要性、漏水の注意箇所も明らかになり、年度末にまとめた報告書は、今後、日常的な資料整備やリニューアルの中で役に立つ内容となったと自負している。特に、国立民族学博物館の保存科学の専門家、日高真吾氏より、本館の収蔵庫温湿度や虫害調査のモニタリングについて評価を頂き、40 年、空調設備をメンテしながら、資料収蔵環境を維持してきた民族学博物館の方法を聞くことができたことは大変有意義だった。本館でも、業者と資料整備担当職員との日常的な連携をはかり、資料整備に関わらない職員も含め、職員すべてが資料を維持する意識をもつことが大事だと痛感した。

研究について特筆すべきは、ふるさと絵屏風に関わるはしかけ会員からの提案を受けて、近江昔くらし倶楽部の活動として、草津市内の小学校に保管されている民具資料の調査を行うことになったことである。「学校に眠る民具を照らす会」と銘打って、市教育委員会やふるさと絵屏風の会と連携しながら、常盤、玉川、草津の小学校の調査を行い、年度末にはマスコミに取り上げられたことで、市内外の方から相談を受けることとなった。会員・市民の自発的な意欲をうまく後押しする形で、無理なく活動が広がっている。今後も温かく見守りつつ、応援していきたい。

印刷物

【専門分野の著作】

中藤容子 (2014) 博物館資料の収蔵・維持管理の現状と問題点、資料収蔵環境の改善の提案. 平成 25 年度資料収蔵環境調査・改善提案報告書, 資料収蔵環境改善プロジェクト, 琵琶湖博物館 : 50p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中藤容子 (2013 年 8 月 16 日) 地域を応援する学芸員の役割と新しい博物館像. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「地域を応援する学芸員の役割と新しい博物館像」, (2013 年度).

琵琶湖博物館共同研究『「人をつなぐ人材」を軸とした戦略的博物館学への展開」(研究代表者: 戸田 孝), 研究分担者 (2012~2015 年度).

科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「『癒し』を手がかりとする博物館の副次的機能論の構築」(研究代表者: 戸田 孝), 研究分担者 (2013~2015 年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013 年 6 月 11・18・25 日, 龍谷大学国際文化学部, 「民俗学入門」.

2013 年 9 月, 桃山学院大学, 博物館実習.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9件。

はしかけ運営，「近江昔くらし倶楽部」・「近江はたおり探検隊」，担当。

2013年6月29日，民具の歴史とその調査方法―昔のくらしの道具から学ぶこと―，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講義。

2013年7月6日，富江家のくらし案内ツアー，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！，琵琶湖博物館，担当，3件。

2013年8月2日，民具資料の収蔵と取り扱い，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2013年11月23日，綿にふれてみよう！，体験プログラムわくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，（はしかけ「わくたん」、滋賀の教師塾と合同）。

2013年12月7日・2014年2月15日，琵琶湖学習（班での調べ学習），立命館守山中学校ミュージアムスクール，指導・助言，2件。

2014年1月6日，むかしのくらし体験，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，講師，（生活実験工房担当と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2013年6月1日，昔のくらし体験，若鮎保育園（守山市），琵琶湖博物館，実習指導。

2013年10月4日，昔のくらし，近江八幡市立八幡小学校，琵琶湖博物館，講義。

2013年10月24日，里地のくらし，大津市立志賀中学校，大津市南比良，実習指導，（比良里山クラブと共同）。

2013年10月29日，昔のくらし（綿から糸へ糸から布へ），野洲市立野洲小学校，授業，野洲市立野洲小学校，講師。

2013年11月5日，昔の道具あんない，野洲市立野洲小学校，琵琶湖博物館，講師。

2013年11月12日，職場体験学習（民具資料のクリーニング），草津市立新堂中学校，琵琶湖博物館，講師。

2014年1月8日，昔のくらし体験がもたらす自発的学びと響き合い，口丹地区私立幼稚園協会研修会，篠村幼稚園（京都府亀岡市），講師。

2014年2月3日，昔のくらし（綿から糸へ糸から布へ），大津市立志賀小学校，授業，大津市立志賀小学校，講師，（はしかけ「近江昔くらし倶楽部」と共同）。

2014年2月25日，昔のくらし新聞づくり，大津市立葛川小学校，授業，大津市立葛川小学校，指導。

メディアへの協力

2014年3月24日，草津市役所（Facebook ページ），思わぬ「お宝」発掘も 小学校収蔵の民具資料を調査中です，取材対応，（2014年3月20日）。

2014年3月26日，京都新聞，小学校に眠る民具 調査 草津の男性 データベース化へ 地域の財産 交流に活用，取材対応，（2014年3月20日）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

近江昔くらし倶楽部 ブログ（2009年6月～），管理人。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料受入，主担当。

燻蒸業務，主担当。

資料収蔵環境改善プロジェクト，主担当.

民俗収蔵庫（水域）維持管理業務・民俗資料整備，主担当.

民俗収蔵庫（陸域）維持管理業務・民俗資料整備，副担当.

環境収蔵庫維持管理業務・環境資料整備，副担当.

特別観覧（撮影）・貸出，2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示 B 展示室「湖に生きる人々」コーナー展示，主担当.

生活実験工房（屋外展示）展示，主担当.

展示交流員と話そう，内容指導.

モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

新任職員等研修，B 展示室展示説明，講師，2013 年 4 月 17 日，琵琶湖博物館.

JICA 博物館学コース，資料の整理と利用について，講師，2013 年 5 月 10 日，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2013 年度，ショップ会議，メンバー.

2013 年度，琵琶博だより，編集委員.

専門研究のテーマである水田地帯における各魚種の季節消長や利用目的、そして保全にむけた試みについて、今年度も継続して調査・研究を行った。また、2012年11月に開催された企画展示関連シンポジウム「魚のゆりかごととしての水田 ー湖国・滋賀からの発信ー」を専門分野の雑誌で特集として企画・編集し、専門研究に関してその成果を公表することができた。また、当館をはじめ、滋賀県内で行われてきた水田生態系研究のレビューを行い、同誌にその報文が掲載された。共同研究者となっている総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」では、魚類班班長として各研究の取りまとめを行ったほか、これまでの博物館標本や文献情報を元に、滋賀県内における各河川魚類相について分布パターンが検討できる基礎資料をまとめた。さらにナマズ類などの遺伝的多様性に関する研究のため、滋賀県内に生息するナマズ属3種のサンプリングし、その他広域分布種についてもサンプリングを行なった。このほか、国内外来種問題に関して、観賞魚として流通する日本産淡水魚の現状と課題について、これまでの成果をまとめた印刷物（分担執筆）が書籍として出版された。また、博物館学研究領域にかかわる研究として、観察会や学校の授業を通じた参加型調査に関わる報告文が掲載され、さらに関連した研究においては学会発表を行った。今後も、観察会などを通じたモニタリング調査の有効性や、観察会が地域自然史の知見を得るための場となりうる可能性について研究を続けていく予定である。

また、今年度、事業部資料活用グループでは資料活用担当となり、博物館資料の特別観覧、貸出しの手続きを行った。当館の資料の中でも映像資料のニーズは高く、印刷物、教育、報道目的に加え、近年では企業の環境活動の一環としてのニーズも増加しはじめており、利用目的の申請が多様化している。これらのニーズに適応できるよう今後とも工夫をしていく予定である。

水族展示では水族維持管理、飼育のためのノウハウを実務も交えながら学んでおり、早期の専門的な技術習得を目指している。また、今年度は水族企画展示「水中の忍者たち～滋賀の水生昆虫～」(7月～8月実施)の主担当となり、展示の全体構成、水生昆虫の採集や撮影などを行った。20種の生体展示、約40種の標本展示などを通じて、水生昆虫の不思議な生態や体のつくり、そして減少傾向にある現状を紹介した。夏休み期間中ということもあり、70,000名を越す入場者があった。

新琵琶湖博物館創造準備室では、水族展示担当としてワーキンググループの運営や展示業者との話し合いを行ない、展示空間水族展示部分の基本計画をまとめた。まだまだ課題は多いが、魅力ある展示をめざし、多くのスタッフと協力して計画をまとめていきたいと考えている。

印刷物

【専門分野の著作】

金尾滋史 (2013) 滋賀県東部のため池におけるオグラヌマガイの発見とその経緯. *ちりぼたん*, 42(1-4), 日本貝類学会 : 57-62.

金尾滋史・大塚泰介 (2013) 「魚のゆりかごととしての水田 ー湖国・滋賀からの発信ー」特集によせて. *海洋と生物*, 35(3), 生物研究社 : 195-196.

端 憲二・皆川明子・金尾滋史 (2013) どうすれば魚は田んぼで繁殖できるか?. *海洋と生物*, 35(3), 生物研究社 : 202-207.

金尾滋史・大塚泰介 (2013) 湖国・滋賀における水田生態系研究の現在、過去、未来. *海洋と生物*, 35(4), 生物研究社 : 426-432.

金尾滋史 (2013) 鑑賞魚店における日本産淡水魚類の販売状況と課題. *見えない脅威“国内外来魚”：どう守る地域の生物多様性*, 東海大学出版会 : 169-178.

金尾滋史・中尾博行（2014）野生生物生息状況調査～魚類・貝類編～ 滋賀県におけるタウナギの定着について。
平成 25 年度滋賀県生きもの総合調査報告書, 滋賀県生き物総合調査委員会：34-42.

【一般向けの著作】

- 金尾滋史（2013）湖岸より 180 ため池で見つけた宝物. *中日新聞*, 中日新聞社, 4月13日.
- 金尾滋史（2013）マザーレイクと歩む琵琶湖博物館. *水の文化*, 44, ミツカン水の文化センター：20-25.
- 金尾滋史（2013）ここだけ湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～26 観察会のもつチカラ. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 6月18日.
- 金尾滋史（2013）京都と本とエコとわたし 23 ぼくにとっての学校～教育という幻想～. *ぼちぼちと京都*, ぼちぼちと京都編集部, 6月25日.
- 金尾滋史（2013）水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～. *琵琶博だより*, 14, 琵琶湖博物館：1-2.
- 金尾滋史（2013）湖岸より 192 姿消した水中の忍者たち. *中日新聞*, 中日新聞社, 9月14日.
- 金尾滋史（2013）湖岸より 197 写真がつなぐ博物館と人. *中日新聞*, 中日新聞社, 11月23日.
- 金尾滋史・中井克樹（2013）「湖国」滋賀の生きものたち 爬虫類・両生類. *琵琶湖博物館第21回企画展示図録「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」*, 琵琶湖博物館：15.
- 金尾滋史・中井克樹（2013）「湖国」滋賀の生きものたち 陸生貝類. *琵琶湖博物館第21回企画展示図録「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」*, 琵琶湖博物館：19.
- 金尾滋史（2014）巻頭「カタツムリ調査」結果報告. *フィールドレポーターだより!!*, 41, 琵琶湖博物館フィールドレポーター：1.
- 金尾滋史（2014）湖岸より 204 湖魚料理が伝える琵琶湖の魅力. *中日新聞*, 中日新聞社, 3月1日.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

村長昭義・金尾滋史（2007）第5章 水谷の自然. *水谷地区生活文化史調査報告書*, 多賀町教育委員会：94-125.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 金尾滋史（2013年4月26日）滋賀県に生息する水生昆虫～その魅力と現状～. 水族セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].
- 金尾滋史（2013年5月17日）観察会を活用した希少生物保全のための調査とモニタリング. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].
- 金尾滋史（2013年11月14日）滋賀県における地域と協働した希少淡水魚ハリヨの生息域外保全にむけた取り組み. 第58回水族館技術者研究会, 日本動物園水族館協会, ホテルオークラ新潟（新潟県新潟市）. [口頭発表].
- 大塚泰介・金尾滋史（2013年12月22日）第4回琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [企画運営].
- 金尾滋史（2013年12月22日）田んぼにやってくる魚は普段どこにいるのか? ～滋賀県の事例～. 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [ポスター発表].
- 金尾滋史・岩本二郎・永野昌博（2014年3月14日）自由集会 W22 博物館の生態学 10 生態学の接点としての博物館～『博物館育ち』のもつ可能性～. 第61回日本生態学会, 日本生態学会, 広島国際会議場（広島県広島市）, [企画運営].
- 金尾滋史（2014年3月14日）『博物館育ち』から見た生態学の接点としての博物館. 第61回日本生態学会自由集会 W22 博物館の生態学 10 生態学の接点としての博物館～『博物館育ち』のもつ可能性～, 日本生態学会, 広島国際会議場（広島県広島市）, [口頭発表].
- 金尾滋史（2014年3月17日）小学校の授業を活用した河川の魚類相調査とそのモニタリング. 第61回日本生態学会, 日本生態学会, 広島国際会議場（広島県広島市）, [ポスター発表].

鈴木規慈・畠山絵美・牛島積広・阿部 司・金尾滋史（2014年3月17日）絶滅危惧種カワバタモロコの積極的保全におけるビオトープの有効性. 第61回日本生態学会, 日本生態学会, 広島国際会議場（広島県広島市）, [ポスター発表].

金尾滋史（2014年3月17日）博物館の学芸員としての役割. 第61回日本生態学会自由集会 W29 農林水産業と生物多様性地域戦略: アグロエコロジーの視点から, 日本生態学会, 広島国際会議場（広島県広島市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺域における水田利用魚類の生態・保全に関する研究」, (2013年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者: 高橋啓一), 共同研究者(2011~2015年度).

琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖の置き土産~滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究~」(研究代表者: 大塚泰介), 研究協力者(2012~2016年度).

科学研究費補助金(基盤 A)「水田の生物がもたらす生態系サービスの賢い利用を導く技術と社会の総合研究」(研究代表者: 夏原由博), 連携研究者(2012~2014年度).

総合地球環境学研究所機関連携プロジェクト予備研究「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会-生態システムの健全性」(研究代表者: 奥田 昇), 研究協力者(2013年度).

農林水産省委託プロジェクト「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト研究」(研究代表者: 安田耕司), 共同研究者(2013~2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会, 日本生態学会誌, 編集委員.

日本貝類学会, 情報誌「ちりぼたん」, 編集委員.

農業農村工学会, 農村生態工学研究部会, 代表幹事.

日本魚類学会, 魚類学雑誌, 査読, 1件.

日本生態学会, 日本生態学会誌, 査読, 2件.

日本貝類学会, ちりぼたん, 査読, 2件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013年4月29日, 龍谷大学, 「里山学」.

2013年6月9日, 龍谷大学, 「社会学入門演習」.

2014年1月5日, びわこ学院大学, 「滋賀の環境」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 13件.

はしかけ運営, 温故写新, 担当.

フィールドレポーター, カタツムリ調査, 担当.

2013年5月25日, カタツムリ調査, フィールドレポーター交流会, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年7月27日, 船に乗ってビワマス漁を見に行こう, 観察会, 長浜市, 副担当, (桑原雅之と共同).

2013年7月31日, 夜の昆虫観察, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 指導.

2013年8月2日, 収蔵庫解説, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年1月25日, 水族バックヤード探検, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 講師, (松田征也・桑原雅之・菅原和宏と共同).

- 2014年2月22日、水族バックヤード探検、からすま半島で楽しもう、琵琶湖博物館、講師、(藤岡康弘・松田征也・桑原雅之・菅原和宏と共同)。
- 2014年2月23日、写真の撮り方講座、はしかけグループ「温故写新」、琵琶湖博物館、講師。
- 2014年3月24日、からすま半島のミステリー観察会、からすま半島で楽しもう、琵琶湖博物館、企画・運営、(澤邊久美子と共同)。

他の博物館・機関等主催行事

- 2013年6月22日、須原ゆりかご水田観察会、せせらぎの郷須原、観察会、須原魚のゆりかご水田(滋賀県野洲市)、講師。
- 2013年6月29日、ニゴロトーク！、滋賀県農村振興課、ニゴロブナフォーラム、草津市民交流プラザ(滋賀県草津市)、コーディネーター。
- 2013年12月7日、身近な生きものを調べることの大切さ、環境フォーラム湖東、湖東地域環境シンポジウム、ピバシティ彦根(滋賀県彦根市)、講師。
- 2013年12月18日、田んぼの生きものを保全する取り組み、湖南農業高校、校外学習、琵琶湖博物館、講師。
- 2014年1月30日、滋賀県生物多様性地域戦略策定、琵琶湖環境部自然環境保全課、滋賀県生物多様性地域戦略策定に係るワークショップ(事業活動)、滋賀県庁(滋賀県大津市)、事例紹介。
- 2014年2月11日、第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～シンボルプロジェクト「新資料館討論フォーラム」、亀岡市夢ビジョンシンボルプロジェクト、ガリレアカメおか(京都府亀岡市)、パネリスト。
- 2014年2月16日、淡海の川づくりフォーラム、淡海の川づくりフォーラム実行委員会、コラボしが21(滋賀県大津市)、選考委員。
- 2014年3月1日、生き物が教えてくれる山・里・川・湖のつながり、湖南流域環境保全協議会、第5回こなん水環境フォーラム、野洲市立図書館(滋賀県野洲市)、講師。
- 2014年3月10日、人・生きものにぎわう農村づくり実践研修会、滋賀県農村振興課、水土里ネット滋賀(滋賀県東近江市)、パネリスト。

視察対応

- 2014年1月15日、館内視察、豊田ホテルの里ミュージアム。

メディアへの協力

- 2013年5月8日、FM滋賀、style 平和堂My daily Life、出演、(生放送)。
- 2013年5月22日、ナマズ釣り攻略Mook、取材。
- 2013年6月13日、NHK 大津、おうみ発 610 クイズで知るびわ湖、出演、(2013年6月2日取材)。
- 2013年6月22日、産経新聞、大きな湖小さな生命(上)、コメント、(2013年4月25日取材)。
- 2013年7月13日、中日新聞、体長2センチ赤く輝くハッチョウトンボ、コメント、(2013年7月12日取材)。
- 2013年7月15日、中日新聞、絶滅危惧の生物紹介、コメント、(2013年7月14日取材)。
- 2013年8月16日、びわ湖放送、キラりん滋賀Friday、今から間に合う夏休み自由研究、出演、(2013年8月15日取材)。
- 2013年8月22日、中日新聞、ピンク色のバッタ発見、コメント、(2013年8月21日取材)。
- 2013年9月11日、毎日新聞、全長117センチ巨大ウナギ、コメント、(2014年9月10日取材)。
- 2013年9月13日、産経新聞、県内で絶滅「ニッポンバラタナゴ」琵琶湖博物館が人工繁殖、コメント、(2014年9月11日取材)。
- 2014年2月21日、えふえむ草津、ネタあさ785、出演、(生放送)。
- 2014年3月24日、中日新聞、広がる「国内外来種」規制、コメント、(2014年3月19日取材)。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電話・窓口・メールによる質問対応、259件。

窓口・メールによる生物の同定依頼, 18件55点.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.

動物資料貸出・特別観覧対応, 2件.

魚類資料提供受入, 1件.

映像資料特別観覧対応, 50件.

魚類資料収集, 100件(淡水魚).

昆虫資料収集, 50件(水生昆虫等).

貝類資料収集, 50件(陸産貝類, 淡水貝類等).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理, 担当.

2013年7月13日～9月1日, 第26回水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」, 主担当.

2013年7月21日～11月25日, 琵琶湖博物館第21回企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」, 陸生貝類・両生類・爬虫類展示担当.

展示交流員と話そう, 内容指導, 2件.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

他博物館・機関の活動

ミュージアムパーク茨城県自然博物館, 第58回企画展「ぎょ・魚・漁」, 展示協力・写真提供.

島根県立宍道湖自然館ゴビウス, 第25回特別展「なまズーム～なまずってどんな魚?～」, 展示協力・写真提供.

千歳さけのふるさと館, 2013年夏季企画展「世界のコイ展～コイに恋して～」, 展示協力・写真提供.

多賀町立文化財センター・多賀町立博物館, ギャラリー展「大橋宇三郎・洋 親子の写真展『写真で見る昭和の近江』」, 共催・展示協力.

相模原市立相模原ふれあい科学館, 映像コンテンツ協力・写真提供.

【企画調整活動】

JICA 博物館学コース, 水族展示解説, 講師, 2013年6月26日, 琵琶湖博物館.

イナズマロックフェス出展ブース, 展示解説, 2013年9月22日, からすま半島広場(滋賀県草津市).

地域発見!参加型移動博物館事業, 展示解説, 2013年4月7日, 立命館守山中学・高等学校(滋賀県守山市).

地域発見!参加型移動博物館事業, 展示解説, 2013年4月28日, ピアザ淡海(滋賀県大津市).

地域発見!参加型移動博物館事業, 展示解説, 2013年11月23日, 浜大津港(滋賀県大津市).

地域発見!参加型移動博物館事業, 展示解説, 2014年2月17日, 近鉄百貨店草津店(滋賀県草津市).

日本動物園水族館協会近畿ブロック園館長会議, 運営補助, 2014年2月19日～20日, 琵琶湖博物館.

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

琵琶湖博物館リニューアルに関する県民ワークショップ『学芸員に聞く琵琶湖博物館づくり・打ち明け話』→『明日の琵琶湖博物館をみんなで語ろう』, 水族展示分科会担当, 2014年2月8日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2013年度，新琵琶湖博物館創造準備室，リニューアル展示空間水族展示，取りまとめ。

【館外の活動】

2006年8月～，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会，委員。

2010年7月～，環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進員。

2010年4月～，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，滋賀県希少野生動植物調査監視指導員。

2011年11月～，滋賀県農政水産部農村振興課，豊かな生き物を育む水田検討委員会，委員。

2012年2月～，NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク，標本救済ネット，ケースワーカー。

今年度は、滋賀県内の草地の利用変遷の聞き取りを中心に、草地性生物の生息環境に対する人間活動の役割について調査研究してきた。草地性生物であるカヤネズミを対象とした研究では、「景観構造がカヤネズミの生息に及ぼす影響」という内容で論文をまとめている。これまでに、本種の生息草地の周囲半径 500m の景観スケールで、草地が連続して存在することが重要であるという事が明らかとなった。今後は、草地の履歴である管理方法などの変化と草地性生物の生息との関係を明らかにするための調査を継続して行う。また、今回、研究フィールドでもある博物館周辺の草地を使って、カヤネズミの巣を探す観察会を数回行った。参加者は普段草むらの中に入ることのない世代の親子連れが多かった。そのため、新たな体験をしながら初めて見るネズミの巣を見つけ出すことに夢中になり、保護者自身も楽しむ機会となった。博物館は観察会を通して、生き物との出会いを提供することができ、さらに「草むらに入る」という初めての経験自体をもたらし、特に子どもにとっては未知の世界を体験する良い機会を提供したことになる。このように博物館でこそできる本物の体験を増やし、たとえば、草の利用など暮らしの中での活動が、生き物に良い影響を及ぼすこともあることに気づくような教育普及活動が大切であると考えます。

さらに、博物館の屋外展示において、自動撮影カメラによるほ乳類調査を開始しており、中型ほ乳類の生息について確認しているところである。最も身近なフィールドの1つである屋外展示について、今後の効果的な活用方法を検討するうえで発展できる活動といえる。

展示グループの事業では、ディスカバリールームを担当した。展示物の老朽化により修理、更新の必要なものが多く出てきている。今年度は手で修理できるものを少しずつ直すこととした。来年度は制作委託も含めてさらに修理を進めていく必要がある。加えてディスカバリールーム担当学芸員が「ザ!ディスカバはしかけ」の担当も兼務することとなり、はしかけによるイベント補助や総会を実施した。新しいメンバーも増え、来年度以降のさらなる活躍が期待される。

企画展示「生きものがたり ―生物多様性 湖国から 世界から―」の副担当として、哺乳類分野の展示内容の検討、展示資料の借用等を担当した。また、交流事業では関連イベントを7回実施した。そのうち4回は「からすま半島の生きもの調査」というシリーズの観察会を企画した。これは、博物館の屋外展示を使って、学芸員が行う研究を簡易的に体験してもらうことを目的として、参加者に生き物を「見つける」「しらべる」「わかる」「記録する」という4つの段階を用意した。教えてもらうわけではなく、自分で見つけ方を知り、調べ方を知ることで自身の発見はより大きなインパクトとなる。自分の地域に帰っても同じような体験ができるように誘うことで、博物館で得た知識を今後自分の活動に活かすことができ、結果的に博物館の思いが地域へ広がることとなる。さらに、展示と絡めて、参加者によるからすま半島生きものマップを作製し、アトリウムに展示を行った。企画展示観覧者アンケートを実施し集計も行った。

新琵琶湖博物館創造準備室では、交流機能の主担当として、交流基盤ワーキング、利用者制度ワーキング、学校プログラムワーキングの3つを運営した。交流機能のリニューアルは、交流グループ全体に加え、展示グループ(展示交流員関連)、企画調整グループ(広報関連)、資料グループ(貸出資料関連)等、館全体に関わる幅広い議論となった。これらの議論を元に交流機能のリニューアルの方向性を決めた新琵琶湖博物館創造基本計画案を作成した。

その他、滋賀県博物館協議会ガイドブック制作委員会では、ガイドブック製作に向けた各館への取材を分担し、自然科学系博物館8館への取材を行い、ガイドブックの原稿執筆を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

澤邊久美子 (2013) 湖岸より 194 琵琶湖博物館のまわりに棲む生きものたち. *中日新聞*, 中日新聞社, 10月12日.

澤邊久美子 (2013) 巻頭 身の回りの生き物調査報告. *琵琶湖博物館フィールドレポーター* 便り, 2 (40), 琵琶湖博物館フィールドレポーター: 1.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

澤邊久美子 (2013年4月19日) 博物館の交流機能の整理から見えるもの. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

Sawabe, K. and Natuhara, Y. (2013年8月21・22日) Effects of landscape structure on the distribution of harvest mice, *Micromys minutus*. International Association for Ecology (INTECOL2013), Aloft London EXCEL (London UK), [ポスター発表].

澤邊久美子 (2014年1月17日) 滋賀県の茅場の利用の変化. 西日本草原研究グループ第93回全体研究会, 西日本草原研究グループ, 広島オフィスセンター (広島県広島市), [報告].

澤邊久美子 (2014年2月21日) フィールドレポーターの魅力ー遊び場となった博物館ー. 第21回全国科学博物館協議会研究発表大会, 全国科学博物館協議会, 北九州市立いのちのたび博物館 (福岡県北九州市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金(基盤 A)「水田の生物がもたらす生態系サービスの賢い利用を導く技術と社会の総合研究」(研究代表者: 夏原由博), 連携研究者 (2013~2014年度).

琵琶湖博物館専門研究「カヤ場管理の変化に伴う草地の量的、空間配置の変容および影響」, (2013年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9件.

フィールドレポーター定例会, 琵琶湖博物館, 2回.

はしかけ運営, ザ!ディスカバはしかけ, 担当.

2013年4月28日, 企画展示関連イベント「からすま半島の生きもの調査 春の鳥」, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 運営.

2013年6月1日, フィールドレポーター調査会, フィールドレポーター, 長浜市, 運営補助.

2013年6月2日, 企画展示関連イベント「からすま半島の生きもの調査 魚と漁具」, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 運営.

2013年7月6日, ザ!ディスカバはしかけ「石の虫づくり」, あさ、ひる、ぼん 博物館を楽しもう! はしかけオープンハウス, ザ!ディスカバはしかけ, 琵琶湖博物館, 補助.

2013年7月6日, 夜の昆虫観察会, あさ、ひる、ぼん 博物館を楽しもう!, 琵琶湖博物館, 補助.

2013年7月31日, 博物館周辺のは乳類を調べよう, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 指導.

2013年8月1日, ディスカバリーボックスの作製, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年8月6日、ディスカバリーボックスの発表、博物館実習、琵琶湖博物館、講師。
2013年8月10日、企画展示関連イベント「からすま半島の生きもの調査 夏の虫」、からすま半島で楽しもう、琵琶湖博物館、運営。
2013年10月14日、企画展示関連イベント「職人さんの技と知恵！カエデの木がカゴになる」、琵琶湖博物館、運営。
2013年10月19日、企画展示関連イベント「作って食べよう！滋賀の伝統料理」、琵琶湖博物館、運営、(滋賀の食事文化研究会と共同)、
2013年10月27日、企画展示関連イベント「からすま半島の生きもの調査 秋の植物」、からすま半島で楽しもう、琵琶湖博物館、運営。
2013年11月16日、企画展示関連イベント「ビーセンス散歩」、琵琶湖博物館、補助。
2014年2月8日、ディスカバおはなし会☆おおきな絵本「100かいだてのいえ」、ザ!ディスカバはしかけ、琵琶湖博物館、補助。
2014年3月23日、からすま半島のミステリー観察会、からすま半島で楽しもう、琵琶湖博物館、企画運営、(金尾滋文と共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2013年10月20日、琵琶湖に棲む生き物の多様性、びおっこの会、滋賀県草津市、琵琶湖博物館、講師。

メディアへの協力

2013年9月28日、Miko TV、草津市・琵琶湖博物館2013秋編 企画展示「生きものがたり」常設展示紹介、出演。
2013年10月4日、FM草津、ネタあさ 企画展示イベント紹介「作って食べよう!滋賀の伝統料理」、生出演。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電子媒体への質問対応、ほ乳類、両生類、爬虫類に関する質問への回答、2件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

ほ乳類剥製標本 副担当。

剥製標本の作製(未登録)、4点。

毛皮標本の作製(非登録の資料)、4点。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年7月20日～11月24日、琵琶湖博物館第21回企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」、副担当。

ディスカバリールーム運営、主担当。

ディスカバリールーム展示物修繕、展示更新、多数。

モーニングレクチャー、講義、4回。

【企画調整活動】

新任職員等研修、ディスカバリールームについて、講師、2013年4月10日、琵琶湖博物館。

地域発見！参加型移動博物館事業、設置運営、2013年6月15日、兵庫県立人と自然の博物館。

滋賀県博物館協議会、県内博物館ガイドブック取材と原稿執筆、8件、2014年1月～3月、滋賀県博物館協議会ガイドブック制作委員会。

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

リニューアルに関する意見交換、展示交流員との交流会，運営，2014年2月10日，琵琶湖博物館。
はしかけ「里山の会」へのリニューアルの概要説明，2014年3月9日，琵琶湖博物館。
新琵琶湖博物館リニューアル検討委員会，運営補助，2014年3月27日，琵琶湖博物館。

【研究部関連事業】

2013年度 新琵琶湖学セミナー，運営，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2013年度，新琵琶湖博物館創造準備室，交流基盤ワーキング、利用者ワーキング、学校プログラムワーキング，運営。

2013年4月～2014年3月，滋賀県博物館協議会，ガイドブック制作委員会，委員。

【海外渡航】

2013年8月17日～25日，イギリス・ロンドン，国際学会発表参加。

【館外の活動】

2012年1月～2014年3月，関西広域連合広域環境保全局，生物多様性検討チーム，琵琶湖博物館副担当。

2013年12月4～6日，文部科学省平成25年度博物館学芸員専門講座，受講。

昨年度開発した「シジミストラップ」の体験学習を実施した。

滋賀県らしい内容でのプログラムは、シジミの他にも内容を工夫することでまだまだ新しく開発する余地があると感じた。「本物の貴重な貝でできて良かった」「シジミの大切さが分かった」など貴重な体験だと受け止めていることが多くの感想からもうかがえる。

実施校に事前事後にアンケートをすることで、学校側の希望や感触を取り込むことができたのも成果であった。工作の難易度についても、4年生以上なら（大人にとっても）適度であるようだ。「勉強と工作を兼ねていて良かった」「スピード勝負なのでドキドキした」「難しかったけどできるとすごく嬉しかった」中には「うまくできて（今までなかった）自分に自信が持てた」という感想もあった。

指導体制については、「たくさんの人に教えてもらって良かった」「興味がどんどん増していった琵琶湖博物館のおかげだと思った」などが示しているように、できるだけ学校連携全体できめ細やかに工作支援を行うことが良い。特に工作が苦手な子は全体指導ではカバーしきれないし、このような子こそ満足してほしい。「みんなで協力してできたので良かった」という意見が伝えているのは、グループ活動の大切さだと思う。個別作業だと、工作が苦手な子は一人落ちこぼれてしまう。大人が思うほど周囲の子の助けは得られない。その意味ではパテよりも石こうの方が「みんなでこねて分ける」作業となるので適していると考えられる。

結論としてこのシジミプログラムは事前準備は職員が無理なくこなせる内容かつ壊れにくい構造にする。指導体制は、できるだけ多くのスタッフで丁寧に対応する。以上の点が重要だと考える。併せて、シジミに関するサポートシート（高学年での使用実績が多い）も体験と併せて使うことで、さらに興味・関心が増すと思われる。

印刷物

【一般向けの著作】

藤橋和弘（2013）博物館見学をさらに楽しく．*琵琶博だより*，15，琵琶湖博物館：1-2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

藤橋和弘（2014年2月21日）セタシジミに関連したプログラム開発における成果と展望～滋賀県に関連した材料を使った学習プログラムの開発～．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（草津市），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖博物館を活用した学習プログラムの開発」，（2013年度）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013年4月～2014年3月，滋賀の教師塾塾生，ヨシ笛製作実習・交流事業研修受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営，びわたん，担当.

2013年4月～2014年3月，「春の草花でしおりをつくろう」等10講座，「体験プログラムわくわく探検隊」事業，琵琶湖博物館，企画運営，19件，（はしかけグループ「びわたん」「田んぼの生き物調査グループ」「近江昔暮らし倶楽部」「里山の会」「緑のくすり箱」と共催）.

2013年6月～2014年3月，琵琶湖学習，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，コーディネーター・講師，9件.

2013年7月6日，びわたんと絵本で楽しもう，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！，はしかけオープンハウス，琵琶湖博物館，（はしかけ「びわたん」と共催・蜂屋正雄と共同）.

2013年7月6日，星空観察会，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！，琵琶湖博物館，（ダイニックアストロパーク天究館友の会と共催）.

2013年7月31日～8月1日，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，企画運営，（滋賀県中学校教育研究会理科部会・はしかけ「びわたん」と共催）.

2013年8月～11月，指導者のための博物館活用講座，教員・地域活動指導者向け博物館講座，琵琶湖博物館，コーディネーター・講師，2件.

他の博物館・機関等主催行事

2013年4月～2014年3月，学校団体向け体験学習，県内県外小中高等特別支援学校大学，団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師，257件.

2013年4月～2014年3月，一般団体向け体験学習，各団体，団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師，31件.

2013年5月～8月，琵琶湖博物館での環境学習，滋賀県中学校理科教育研究委員会，滋賀県中学校理科教育研修会，琵琶湖博物館，コーディネーター，4件.

2013年6月27日，3年生びわこ学習集会，栗東中学校，栗東中学校（栗東市），講師.

2013年8月7日，滋賀県環境教育研究協議会，県教育委員会学校教育課，琵琶湖博物館，コーディネーター.

2013年8月20日，星空観望会，湖南省夏見会館，湖南省，講師.

2013年8月20日，近畿日本ツーリスト教育旅行担当社員の訪問，琵琶湖博物館，講師，（蜂屋正雄と共同）.

2013年10月17日，高等学校教育研究会家庭部会南地区研究会，琵琶湖博物館，講師.

2013年10月18日，博物館で働く人にインタビュー，愛知県立ひいらぎ養護学校中等部，講義と質問，琵琶湖博物館，講師.

2013年10月20日，常磐小学校ふれあいフェスティバル，草津市立常磐小学校，常磐小学校（草津市），講師.

2013年11月8・9・12・13・14日，職場体験学習（実習），草津市立新堂中学校，琵琶湖博物館，講師・コーディネーター.

2013年11月16日，聖泉短大CLCセミナー，聖泉短期大学，聖泉短期大学（彦根市），講師.

2013年11月19・21・28・30日，琵琶湖博物館での体験学習（実習），滋賀県総合教育センター，初任者研修，琵琶湖博物館，講師，20件.

2013年11月30日，琵琶湖博物館における体験学習，滋賀県教育委員会，滋賀の教師塾，琵琶湖博物館，コーディネーター・講師，6件，（蜂屋正雄と共同）.

2013年12月4日，近畿工業化学教育研究会，琵琶湖博物館，講師，2件，（芳賀裕樹・蜂屋正雄と共同）.

2014年1月28日，総合的な学習の時間における調査活動，彦根市立稻枝中学校，志学セミナー（講義と質問），琵琶湖博物館，講師.

2014年2月5日，星の観測会，新田会館（草津市），講師.

視察対応

2013年4月17日，琵琶湖博物館の学校連携について，新潟県津南町教育委員会.

2013年5月7日，琵琶湖博物館の学校連携について，四日市公害と環境未来館 開設準備室.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

天体等に関する質問への回答，21件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年4月～2014年3月，学校等標本貸出事業，担当，33件.

【企画調整活動】

琵琶湖博物館の活動

JICA 博物館学コース，琵琶湖博物館の学校連携について，講師，2013年5月10日，琵琶湖博物館.

JICA 博物館学コース，体験プログラムわくわく探検隊について，コーディネーター，2013年5月11日，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2013年6月～2014年2月，しが環境教育リーディング事業，委員.

本年度は、「博物館で育つ国語の力」というテーマで、博物館での学習をどのように文章として書き残してもらい、そのことから、うまく伝わった内容や伝わらなかった内容を取り上げ、博物館として、どのようなアプローチをすれば来館者に伝わるかを研究した。対象の学習者として、ミュージアムスクールである立命館守山中学校 1 年生、自然調査ゼミナールの中学生、サテライト博物館の東近江市立能登川東小学校、初任者研修の小学校の先生方にご協力いただいた。

結論としては、伝える側の博物館学芸員が総花的に対応するのではなく、伝えたいことを明確に持って対応することで伝わり方が明確に変わった。また、感想等を書いていただくときに、漠然と書いてもらうのではなく、伝えなかったことを 3 つ程度のキーワードにして、感想文に入れてもらうようにするとよいことが確認できた。また、キーワードをつかって書いてもらう過程も重要で、書くことによって獲得したものが確かなること確認できた。

印刷物

【専門分野の著作】

- 蜂屋正雄 (2014) 湖と人間の新しい関係をさぐる. *豊かな教育の広がり* 36, 911, 文部科学省 : 72-73.
- 蜂屋正雄 (2014) 琵琶湖博物館の天文分野の可能性. *天文教育普及研究会近畿支部会特集*, 127, 天文教育普及研究会 : 68.
- 蜂屋正雄 (2013) 博物館での感想文. *さざなみ国語教室*, 379, 滋賀児童文化協会 : 4.
- 蜂屋正雄 (2014) 環境学習におけることばの力～外来魚は悪者か～. *さざなみ国語教室*, 383, 滋賀児童文化協会 : 4.

【一般向けの著作】

- 蜂屋正雄 (2013) 地域を応援するサテライト博物館事業. *琵琶博だより*, 15, 琵琶湖博物館 : 3.
- 蜂屋正雄 (2013) うみっこトピック 学校と地域を応援するサテライト博物館事業. *うみっこ通信*, 11 : 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 蜂屋正雄 (2013 年 9 月 15 日) 博物館でつける国語の力. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- 蜂屋正雄 (2013 年 12 月 1 日) 琵琶湖博物館の天文分野. 天文教育普及研究会近畿支部会, 京都大学セミナーハウス (京都市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「学校の学習カリキュラムと博物館での体験学習」, (2013 年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013 年 4 月～2014 年 3 月, 滋賀の教師塾塾生, ヨシ笛作り実習・交流事業研修受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営，びわたん，担当.

2013年4月～2014年3月，「春の草花でしおりをつくろう」等10講座，「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業，琵琶湖博物館，企画運営，19件，（はしかけグループ「びわたん」「田んぼの生き物調査グループ」「近江昔暮らし倶楽部」「里山の会」「緑のくすり箱」と共催）.

2013年4月～2014年3月，「水草で日光写真をとろう」など6回，サテライト博物館事業，東近江市立能登川東小学校，企画・運営・講師，6件.

2013年4月～2014年3月，びわ湖についてのお話，サテライト博物館事業，彦根市立若葉小学校，企画・運営・講師.

2013年4月～2014年3月，展示物の作り方研修，サテライト博物館事業，琵琶湖博物館，企画・運営・講師.

2013年6月～2014年3月，琵琶湖学習，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，コーディネーター・講師，9件.

2013年7月6日，びわたんと絵本で楽しもう，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！はしかけオープンハウス，琵琶湖博物館，（はしかけ「びわたん」と共催・藤橋和弘と共同）.

2013年7月6日，星空観察会，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！，琵琶湖博物館，（ダイニクアストロパーク天究館友の会と共催）.

2013年7月31日～8月1日，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，企画運営，（滋賀県中学校教育研究会理科部会、びわたんと共催）.

2013年8月～11月，指導者のための博物館活用講座，教員・地域活動指導者向け博物館講座，琵琶湖博物館，コーディネーター・講師，2件.

他の博物館・機関等主催行事

2013年4月～2014年3月，学校団体向け体験学習，県内県外小中高等特別支援学校大学，団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師，257件.

2013年4月～2014年3月，一般団体向け体験学習，各団体，団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師，31件.

2013年4月～2014年3月，教員研修会，コアサイエンスティーチャー事業，滋賀大学，草津市立笠縫東小学校等，企画・運営・講師，3件.

2013年5月～8月，琵琶湖博物館での環境学習，滋賀県中学校理科教育研究委員会，滋賀県中学校理科教育研修会，2件.

2013年8月7日，滋賀県環境教育研究協議会，県教育委員会学校教育課，琵琶湖博物館，コーディネーター.

2013年8月9日，学校支援メニューフェア，県教育委員会生涯学習課，ピアザおうみ（大津市），ブース展示.

2013年8月20日，近畿日本ツーリスト教育旅行担当社員の訪問，琵琶湖博物館，講師，（ビジターズビューロー、藤橋和弘と共同）.

2013年11月8・9・12・13・14日，職場体験学習（実習），草津市立新堂中学校，琵琶湖博物館，講師・コーディネーター，25件.

2013年11月17日，水遊びと企業社会貢献について，トヨタ労働組合 スマイルリンクプロジェクト，琵琶湖博物館，企画.

2013年11月19・21・28・30日，琵琶湖博物館での体験学習（実習），滋賀県総合教育センター，初任者研修，琵琶湖博物館，講師，20件.

2013年11月30日，琵琶湖博物館における体験学習，滋賀県教育委員会，滋賀の教師塾，琵琶湖博物館，コーディネーター・講師，6件，（藤橋和弘と共同）.

視察対応

2013年4月17日，食育について，津南市教育委員会.

2013年5月7日，琵琶湖博物館の学校連携について，四日市公害と環境未来館 開設準備室.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

県内学校の質問対応・コーディネート，担当，9件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2013年4月～2014年3月，学校等標本貸出事業，担当，33件.

【企画調整活動】

琵琶湖博物館の活動

JICA 博物館学コース，琵琶湖博物館の学校連携について，講師，2013年5月10日，琵琶湖博物館.

JICA 博物館学コース，琵琶湖博物館わくわく探検隊について，コーディネーター，2013年5月11日，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2013年6月～2014年2月，笠縫東小学校葉山川博物館支援委員会，委員.

2013年6月～2014年2月，渋川小学校生き物屏風製作委員会支援委員会，委員.

2013年6月～2014年2月，滋賀大学コア・サイエンスティーチャー推進事業，推進委員.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2013年11月20日、琵琶湖博物館の森でちっちゃなこどものしぜんあそび、環境ほっとカフェ、琵琶湖博物館、ファシリテーター・全体管理・広報・運営。
- 2013年11月30日、はじめてのシカ肉、環境ほっとカフェ、森林公園くつきの森・高島市、全体監理・広報・運営。
- 2013年12月18日、琵琶湖博物館の森でちっちゃなこどものしぜんあそび、環境ほっとカフェ、琵琶湖博物館、ファシリテーター・全体管理・広報・運営。
- 2014年1月15日、琵琶湖博物館の森でちっちゃなこどものしぜんあそび、環境ほっとカフェ、琵琶湖博物館、ファシリテーター・全体管理・広報・運営。
- 2014年2月19日、琵琶湖博物館の森でちっちゃなこどものしぜんあそび、環境ほっとカフェ、琵琶湖博物館、ファシリテーター・全体管理・広報・運営。
- 2014年3月14・15日、びわ博春のプレミアムレストラン、琵琶湖博物館、準備・運営。
- 2014年3月19日、琵琶湖博物館の森でちっちゃなこどものしぜんあそび、環境ほっとカフェ、琵琶湖博物館、ファシリテーター・全体管理・広報・運営。

他の博物館・機関等主催行事

- 2013年4月25日、森林環境教育について、滋賀県森林センター、森林環境学習やまのこ専任指導員研修会、高島市くつきの森（高島市）、講師。
- 2013年6月5日、生き物絵図の作成のねらいと方向性について、草津市立渋川小学校、渋川生き物絵図作成支援委員会、草津市立渋川小学校（草津市）、委員。
- 2013年6月6日、琵琶湖に関する環境学習、大津市立真野北小学校、琵琶湖学習（総合的な学習）、びわ湖大橋米プラザ（大津市）、講師。
- 2013年7月22日、幼児自然体験の安全について、NPO法人碧いびわ湖、野外子育て広場、目田川河川敷公園（守山市）、講師。
- 2013年7月29日、地域の人材を活かした環境教育授業の組み立て方、滋賀県総合教育センター、平成25年度環境教育研修、滋賀県総合教育センター（野洲市）、講師。
- 2013年10月15日、お米の脱穀体験、せた♪森のようちえん、お出かけ保育、琵琶湖博物館、指導。
- 2013年10月24日、南比良のお寺にヒアリング、NPO法人比良里山倶楽部、志賀中学校1年生総合学習、大津市南比良、ファシリテーター。
- 2013年11月20日、各学年の取組と支援、草津市立渋川小学校、渋川生き物絵図作成支援委員会、草津市立渋川小学校（草津市）、委員。
- 2014年1月28日、餅つき体験、せた♪森のようちえん、お出かけ保育、琵琶湖博物館、指導。
- 2014年3月1日、知識を知恵に変える玉手箱 琵琶湖博物館へようこそ、京エコロジーセンター、第10回京都環境教育ミーティング、龍谷大学深草キャンパス（京都市）、事例紹介ワークショップ企画運営。
- 2014年3月6日、こどもエコクラブ壁新聞幼児クラブ部門エコまる賞受賞式、こどもエコクラブ全国事務局、草津市立志津幼稚園（草津市）、表彰式来賓。
- 2014年3月12日、生き物絵図の完成発表と報告、草津市立渋川小学校、渋川生き物絵図作成支援委員会、草津市立渋川小学校（草津市）、委員。

メディアへの協力

2014年1月22日、京都新聞、琵琶博の林遊び好評、取材対応、(2014年1月15日)。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013年5月～2013年12月、滋賀大学環境学習支援士コース履修生、環境学習現場実習「環境ほっとカフェの企画・広報・運営・振り返り」、1名。

2013年9月12日、立命館大学、国際環境政策論「環境学習センターの役割と取り組み」。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

メールマガジン「そよかぜ」、情報収集・編集・発行、15件。

ホームページ「エコロレーが」、お知らせ更新、31件。

ホームページ「エコロレーが」、情報更新、5件。

ホームページ「エコロレーが」、新規教えてくれる人・施設・プログラム登録、1件。

ホームページ「エコロレーが」、新規図書ビデオ登録、53件。

市民活動支援県域団体ブログ、情報収集・記事編集・更新、49件。

相談対応、情報収集・依頼・企画、188件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

図書ビデオ貸出し、40件。

【企画調整活動】

地域発見！参加型移動博物館事業、ルシオールアートキッズフェスティバル2013、ワークショップと移動博物館運営、2013年4月7日、立命館守山中高等学校（守山市）。

地域発見！参加型移動博物館事業、ラ・フォル・ジュルネびわ湖2013、ワークショップと移動博物館運営、2013年4月29日、ピアザ淡海（大津市）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2013年6月～2015年3月、草津市立洪川小学校、生き物絵図作成支援委員会、委員。

2012年度

印刷物

【一般向けの著作】

池田 勝 (2013) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～19 良い体験が未来をつくる～、毎日新聞、毎日新聞社、2月26日。

池田 勝 (2013) どこでもだれでもフィールド情報「皆さんのお手伝い役 環境学習センター」、琵琶博だより、12、琵琶湖博物館：3。

研究活動に関する業績

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年7月～2013年2月、滋賀大学環境学習支援士、「環境学習支援士実習」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2012年12月2日、こどもエコクラブ交流会，琵琶湖博物館，企画運営.

2013年2月21日，親子でしぜんであそぼー，環境ほっとカフェ，琵琶湖博物館，企画運営.

2013年2月28日，親子でしぜんであそぼー，環境ほっとカフェ，朽木いきものふれあいの里・高島市，企画運営.

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月23日，会員連携による環境学習出前講座について，滋賀グリーン購入ネットワーク，滋賀グリーン購入ネットワーク2012年通常総会，コラボしが21（大津市），発表.

2012年5月29日，琵琶湖について，大津市立真野北小学校，琵琶湖学習，琵琶湖大橋米プラザ（大津市），講師.

2012年6月1日，琵琶湖の自然環境保護活動から学ぶ，岐阜県羽島市立竹鼻中学校，総合学習，琵琶湖リゾートクラブ（守山市），コーディネーター.

2012年7月21日，環境と多様な生物～大津の自然を知ろう～，MS & AD ホールディングス，生物多様性体験活動，明日都浜大津（大津市），コーディネーター.

2012年11月16日，琵琶湖とともに生きる，大津市立真野中学校，総合学習，松井造船（大津市），コーディネーター.

2013年1月14日，環境学習センターは縁の下の力持ち，滋賀県土木交通部流域政策局，第12回淡海の川づくりフォーラム，コラボしが21（大津市），発表.

メディアへの協力

2013年2月21日，BBCびわこ放送，きらりん滋賀ニュース，環境ほっとカフェ「親子でしぜんであそぼー」取材対応・出演，（2013年2月21日）.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

環境学習図書ビデオ類の貸出，担当，125件.

博物館事業に関する業績

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵資料展示情報の web 発信, 準備, 7 件.

長浜城歴史博物館企画展「丸子船～江戸時代の琵琶湖舟運～」～『淡海録』巻六の貸出情報の web 発信, 準備.

野洲市歴史民俗博物館テーマ展「野洲の歴史と文化」～『琵琶湖真景図』・『近江・畿内名勝図巻』の貸出情報の web 発信, 準備.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

長浜城歴史博物館企画展「丸子船～江戸時代の琵琶湖舟運～」～『淡海録』巻六, 貸出・返却対応.

野洲市歴史民俗博物館テーマ展「野洲の歴史と文化」～『琵琶湖真景図』・『近江・畿内名勝図巻』, 貸出対応.

『木村忠兵衛家文書』(琵琶湖博物館所蔵) 仮目録の入力, 906 点.

『湖中産物図説一』(滋賀県立図書館所蔵) の翻刻, 実施.

『覚』(個人蔵) の翻刻, 実施.

近江関係散逸古文書履歴入力, 実施, 155 件.

定期収蔵庫清掃 (特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室), 実施, 12 回.

定期清掃 (収蔵庫廊下), 実施, 6 回.

定期清掃 (B 展示室), 実施, 47 回.

大掃除 (B 展示室・古文書整理室・燻蒸室), 実施, 1 回.

特別清掃 (B 展示室), 実施, 1 回.

虫カビ対策としての重点追加清掃 (前室・トラックヤード), 実施, 計 4 回.

IPM 対策の年次計画の作成.

防虫防黴調査, トラップ設置回収, 3 回. 報告書作成, 3 回.

生物発見履歴の整理, 入力, 42 件.

pH 測定 (7 ヶ所), 実施, 2 回.

脱酸素処理, 実施, 3 回.

収蔵庫・展示室等の温湿度記録計用紙交換 (10 ヶ所), 実施, 12 回.

防虫剤投入 (特別収蔵庫), 実施, 1 回.

収蔵庫担当者会議生物環境調査, 実施、結果報告, 3 回.

カビ拭き取り作業 (前室), 実施, 1 回.

乳剤散布, 実施, 7 回.

図書室蔵書点検作業, 2 回.

ヨシ博物館所蔵資料, 搬出作業, 2 回.

ヨシ博物館所蔵資料, クリーニング作業, 1 回.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2013 年 6 月 25 日～8 月 4 日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第 38 回, 企画・調査・準備・展示.

2013 年 8 月 6 日～9 月 8 日, 収蔵資料展示「企画展示関連企画 琵琶湖にゆかりの生き物たち」第 39 回, 企画・調

査・準備・展示.

2013年9月10日～10月6日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第40回, 企画・調査・準備・展示.

2013年10月8日～11月17日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第41回, 企画・調査・準備・展示.

2013年11月19日～12月23日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第42回, 企画・調査・準備・展示.

2014年1月3日～2月2日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第43回, 企画・調査・準備・展示.

2014年3月11日～4月13日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第45回, 企画・調査・準備・展示.

B展示室常設展示陳列替え, 実施, 6件.

【企画調整活動】

博物館パンフレット一斉発送作業, 1回.

印刷物

【専門分野の著作】

川那部浩哉・亀田佳代子 (2014) 物質輸送の生態学と室田武さん (随筆). *経済学論叢*, 65, 同志社大学経済学会, 京都: 379-412.

【一般向けの著作】

川那部浩哉 (2013) 心洗われる文集. *花を奉る*, 藤原書店, 東京: 193-196.

奥富 清・黒岩澄雄・小野勇一・川那部浩哉・只木良也・松本忠夫・松田裕之 (2013) 日本生態学会60周年記念座談会. *日本生態学会誌*, 63, 日本生態学会: 157-177.

川那部浩哉 (2013) 佛は自然の様を知らしめんがための料なり. *公益財団法人自然保護助成基金創立20周年記念誌*, 公益財団法人自然保護助成基金: 16-17.

川那部浩哉 (2014) 2013年読書アンケート. *みすず*, 56(1), みすず書房, 東京: 50.

研究活動に関する業績

【学会・研究会等への参加】

2013年9月12日, 日本陸水学会第78回大会, 龍谷大学 (滋賀県大津市).

2014年3月16~18日, 第61回日本生態学会, 広島国際会議場 (広島県広島市).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2013年4月17日, 京の川の恵みを活かす会, 京の川の恵みを活かす会総会, 京都市役所 (京都市), 提言.

2013年4月19日, 地球環境関西フォーラム, 地球環境関西フォーラム企画委員会, リーガロイヤルNCB (大阪市), 提言.

2013年4月28日, 杜の美術館「杜の自然と芸術との関わり」芸術祭シンポジウム実行委員会, 杜の美術館「杜の自然と芸術との関わり」芸術祭シンポジウム「アートと自然環境」, 日吉大社 (大津市), 講演.

2013年5月13日, 地球環境関西フォーラム, 地球環境関西フォーラム100人委員会, リーガロイヤルNCB (大阪市), 提言.

2013年5月17日, 自然保護助成基金, 自然保護助成基金理事会, 渋谷区文化総合センター大和田 (東京都), 提言.

2013年5月18日, 山岡耕作教授退職記念会, 山岡耕作教授退職記念シンポジウム, 高知大学メディアの森 (高知市), 講演.

2013年5月20日, 京都新聞社会福祉事業団, 京都新聞社会福祉事業団理事会, 京都新聞社 (京都市), 提言.

2013年5月28日, 京都市青少年科学センター, 京都市青少年科学センター学術顧問会, 京都市青少年科学センター (京都市), 提言・コメント.

2013年6月7日, 世界自然保護基金ジャパン, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン (東京都), 提言.

2013年6月12日, 京都新聞社会福祉事業団, 京都新聞社会福祉事業団理事会, 京都新聞社(京都市), 提言.

2013年6月20日, 柿田川生態系研究会, 柿田川生態系研究会, リバーフロント研究所(東京都), コメント.

2013年7月6日, 日本生態学会生態学琵琶湖賞運営委員会, 日本生態学会生態学琵琶湖賞運営委員会, 瀬田アーバンホテル(大津市), 提言.

2013年9月17日, 国際生物学賞委員会, 国際生物学賞委員会, 日本学術振興会(東京都), コメント

2013年9月19日, 世界自然保護基金ジャパン, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン(東京都), 提言.

2013年9月22日, 京の川の恵みを活かす会・桂川流域ネットワーク, フォーラム「淀川流域天然アユの見聞」, 京都嵯峨藝術大学(京都市), コメント.

2013年9月24日, 国際高等研究所, 国際高等研究所研究企画・研究推進委員会, 同研究プロジェクト「わが国の学術研究の現状の解析と将来のありかたに関する高級とアカデミアの提言」会, 国際高等研究所(木津川市), 提言.

2013年9月25日, 淡水魚保全シンポジウム実行委員会, 淡水魚保全シンポジウム, 大阪工業大学(大阪市), コメント.

2013年9月28日, 自然保護助成基金, 自然保護助成基金理事会・同20周年シンポジウム「自然保護の問題の現状と展望」, 日本青年館(東京都), 提言・コメント.

2013年9月30日, 地球環境関西フォーラム, 地球環境関西フォーラム生物多様性部会, メルパルク京都(京都市), コメント.

2013年10月22日, 京都市青少年科学センター, 京都市青少年科学センター学術顧問会, 京都市青少年科学センター(京都市), コメント.

2013年10月30日, 地球環境関西フォーラム, 地球環境関西フォーラム生物多様性部会, 阪急ターミナルビル(大阪市), コメント.

2013年11月13日, 河川生態学術委員会, 河川生態学術委員会発表会, 東京証券会館(東京都), コメント.

2013年11月17日, 自然と緑, 自然大学:湖沼実習, 琵琶湖博物館(草津市), コメント.

2013年11月20日, 地球環境関西フォーラム, 地球環境関西フォーラム生物多様性部会, メルパルク京都(京都市), コメント.

2013年11月21日, 農薬環境科学研究会, 農薬環境科学研究会, エクシブ琵琶湖(米原市), 講演.

2012年12月3日, 国土交通省河川技術研究開発制度委員会, 国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会, 国土交通省(東京都), 座長.

2013年12月5・6日, 国際高等研究所, 国際高等研究所研究企画・研究推進委員会・同研究プロジェクト「わが国の学術研究の現状の解析と将来のありかたに関する高級とアカデミアの提言」会, 国際高等研究所(木津川市), 提言.

2013年12月8日, 自然と緑, 自然大学:水域生態系一水と生きる, 近畿中国森林管理局(大阪市), 講演.

2013年12月10日, 世界自然保護基金ジャパン, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン(東京都), コメント.

2013年12月14日, 自然保護助成基金, プロナトウラファンド助成成果発表会, こどもの城(東京都), コメント.

2013年12月16日, 日本自然保護協会, 日本自然保護協会参与会, 日本自然保護協会(東京都), コメント.

2014年1月17日, 国際生物学賞委員会, 国際生物学賞委員会, 日本学術振興会(東京都), コメント

2014年2月13・14日, 山階鳥類研究所, 山階鳥類研究所科学研究費特定奨励費研究成果発表会・研究調整会議, 東京大学フィールドサイエンス(東京都), コメント.

2014年2月17日, 世界自然保護基金ジャパン, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン(東京都), 提言.

2014年2月21日, 国土交通省河川技術研究開発制度委員会, 国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会, 国土交通省(東京都), 座長.

2014年2月27・28日, 国際高等研究所, 国際高等研究所研究プロジェクト「東アジアの古典演劇」会, 国際高等研究所(木津川市), コメント.

2014年3月3日, 京都新聞社会福祉事業団, 京都新聞社会福祉事業団理事会, 京都新聞社(京都市), 提言.

2014年3月4・5日, 京都市青少年科学センター, 京都市青少年科学センター学術顧問会, 京都市青少年科学センター(京都市), 提言・コメント.
2014年3月11日, 地球環境関西フォーラム, 地球環境関西フォーラム生物多様性部会, 阪急ターミナルビル(大阪市), コメント.
2014年3月13日, 国土交通省河川技術研究開発制度委員会, 国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会, 国土交通省(東京都), 座長.
2013年3月14日, 自然保護助成基金, 自然保護助成基金理事会, 渋谷区文化総合センター大和田(東京都), 提言.
2014年3月21日, 自然と緑, 自然大学: 自然郷八幡を巡る, 西の湖など(近江八幡市), 提言.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

朝日21関西スクエア, 会員.
生き物文化誌学会, 評議員.
石垣島白保に空港を作らせない会, 会員.
International Journal of Ecology and Environmental Biology, 編集顧問.
Environmental Biology of Fishes, 編集顧問.
応用生態工学会, 名誉会員.
環境問題研究会, 会員.
九条科学者の会, 会員.
京大植物園を考える会, 会員.
京都市青少年科学センター, 学術顧問.
京都新聞社会福祉事業団, 理事.
京の川の恵みを活かす会, 顧問.
魚類自然史研究会, 会員.
黒潮実感センター, 会員.
国際高等研究所研究企画会議, 委員.
国際生物学賞委員会, 委員.
国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会, 委員長.
国土交通省琵琶湖とその周辺の河川環境に関する専門家会議, アドバイザー.
子どもと川とまちのフォーラム, 顧問.
自然と緑「自然大学」, 教授.
生態学琵琶湖賞運営委員会, 委員.
世界自然保護基金ジャパン, 理事.
地球環境関西フォーラム企画委員会, 委員.
地球環境関西フォーラム生物多様性, 委員.
地球環境関西フォーラム100人委員会, 委員.
DIVERSTAS(生物多様性科学国際共同研究計画)科学委員会, 顧問.
長良川河口堰に反対する会, 会員.
長良川市民学習会, 会員.
日本魚類学会, 評議員.
日本自然保護協会, 参与.
日本自然保護基金, 理事.
日本生態学会, 名誉会員.
日本陸水学会, 会員.
Hydrobiologia, 編集顧問.

Brasilian Journal of Biology, 編集顧問.

水俣病センター相思社, 会員.

水俣フォーラム, 会員.

八重山白保の海を守る会, 会員.

山階鳥類研究所研究推進協議会, 委員長.

リバーフロント整備センター河川・海岸環境機能等検討委員会, 委員.

印刷物

【学術論文】

布谷知夫 (2013) 文化庁ミュージアムエデュケーター研修の背景とプログラム. *博物館学雑誌*, 39 (1), 全日本博物館学会 : 137-142.

【専門分野の著作】

布谷知夫 (2013) 博物館を地域に結びつける～三重県立博物館のMMMプロジェクト. *日本ミュージアムマネジメント学会第18回研究大会資料集*, 東京家政大学 : 22-23.

布谷知夫 (2013) 文化庁エデュケーター研修に至る考え方とプログラム. *全日本博物館学会研究大会資料集*, 東京家政大学 : 12-13.

布谷知夫 (2013) 三重県に新しい県立博物館が誕生します. *国際博物館の日新聞*, NPO 法人ミュージアム研究会, 5月18日.

布谷知夫 (2013) おし葉標本の作り方. *学芸員ハンドブック (改訂増補版)*, 学芸員ハンドブック編集委員会, 明治大学学芸員博物館学研究室 : 83-91.

布谷知夫 (2013) 地域と博物館とを結びつける～三重県立博物館のMMMプロジェクト～. *JMMA*, 18 (3), 日本ミュージアムマネジメント学会 : 4-5.

布谷知夫 (2013) 県民と響きあう博物館とは～博物館のシンクタンク機能を活用して. *千葉県立中央博物館への提言及びシンポジウム「生物多様性シンクタンクと博物館」報告書*, 千葉まちづくりサポートセンター : 29-40.

布谷知夫 (2013) 地方博物館的社會職責博物館興. *地方文化発展論壇会議手冊*, 台湾宜蘭县政府文化局・宜蘭県立蘭陽博物館 : 27-28.

布谷知夫 (2014) 博物館と利用者組織との関係. *ミュージアムミーティング「博物館サポーターの役割を考える」報告書*, 北海道開拓記念館 : 10-33.

【一般向けの著作】

布谷知夫 (2013) 自然観察のテーマ・100 春の落ち葉の観察. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 102, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 2-4.

布谷知夫 (2013) 紙上博物館・110 タンポポからわかること～分布でわかる環境～. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 4月5日.

布谷知夫 (2013) 自然観察のテーマ・101 春の落ち葉の観察(続き). *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 103, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 2-3.

鈴木英敬・布谷知夫 (2013) 鈴木英敬知事の直球対談(上). *週刊岡原新聞*, 三重新報社, 5月12日.

鈴木英敬・布谷知夫 (2013) 鈴木英敬知事の直球対談(中). *週刊岡原新聞*, 三重新報社, 5月19日.

鈴木英敬・布谷知夫 (2013) 鈴木英敬知事の直球対談(下). *週刊岡原新聞*, 三重新報社, 5月26日.

布谷知夫 (2013) 三重県の新博物館・12 開館まで1年をきった新博物館の現状. *ミュゼ*, 104, アム・プロモーション : 20-21.

布谷知夫 (2013) 自然観察のテーマ・102 花の咲く順番. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 104, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 2-4.

布谷知夫 (2014) 新しい博物館を使って活動しましょう. *サポートスタッフ通信*, 27, 三重県立博物館サポートスタッフ : 1.

布谷知夫 (2014) 自然観察のテーマ・103 木の枝が土器に付けた文様. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*,

105, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会：2-4.

布谷知夫 (2014) 明日を生み出す力ようこそ MieMu へ. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 2月14日.

布谷知夫 (2014) 明日を生きるための場に. *すばらしきみえ*, 百五銀行：7.

布谷知夫 (2014) 全国の皆さんをお待ちしています. *三重の応援団通信*, 26年春号, 三重県雇用経済部.

布谷知夫 (2014) 学校と博物館との連携. *校長会みえ*, 35, 三重県小中学校長会：5.

布谷知夫 (2014) 三重県総合博物館 (MieMu) が開館します. *自然観察指導員三重連絡会会誌*, 97, 自然観察指導員三重連絡会：4.

布谷知夫 (2014) はじめに—三重県総合博物館、4月開館を前に. *続 新視点三重県の歴史*, 山川出版：2-3.

布谷知夫 (2014) セイタカアワダチソウ. *続 新視点三重県の歴史*, 山川出版：48-49.

布谷知夫 (2014) ハマナツメ. *続 新視点三重県の歴史*, 山川出版：62-63.

布谷知夫 (2014) タンポポからわかること. *続 新視点三重県の歴史*, 山川出版：76-77.

布谷知夫 (2014) 永久保存が使命「収蔵庫」. *続 新視点三重県の歴史*, 山川出版：266-267.

布谷知夫 (2014) 幅広いグループ活動「自由な学び」の場. *続 新視点三重県の歴史*, 山川出版：275-277.

研究活動に関する業績

【学会・研究会などでの発表】

布谷知夫 (2013年6月2日) 博物館を地域と結びつける～三重県立博物館のMMMプロジェクト. 日本マネジメント学会第18回大会, 日本ミュージアムマネジメント学会, 東京家政学院大学 (東京都), [口頭発表].

布谷知夫 (2013年6月30日) 文化庁ミュージアムエディケーター研修の背景とプログラム. 全日本博物館学会研究大会, 全日本博物館学会, 明治大学 (東京都), [口頭発表].

布谷知夫 (2013年7月8日) 博物館の社会的な役割について. 三重県立博物館セミナー, 三重県立博物館 (三重県津市), [口頭発表].

布谷知夫 (2013年9月4日) 博物館とミュージアムエディケーター. 第3回文化庁エディケーター研修, 文化庁, 東京都美術館 (東京都), [口頭発表].

布谷知夫 (2013年9月4日) 博物館教育論. 第3回文化庁エディケーター研修, 文化庁, 東京都美術館 (東京都), [口頭発表].

布谷知夫 (2013年9月4～6日) 第3回文化庁エディケーター研修前期, 文化庁, 東京都美術館 (東京都), [コーディネーター].

布谷知夫 (2013年9月26日) 今求められている博物館像. 南山大学博物館学過程講演会, 南山大学, 南山大学 (名古屋), [口頭発表].

布谷知夫 (2013年10月13日) 博物館は何をするのか、博物館で何をするのか. 札幌市博物館 (仮称) 検討フォーラム～みんなで語ろう！札幌の博物館づくり～, 札幌市観光文化局, 札幌市博物館活動センターNEWS 19 (札幌市), [口頭発表].

布谷知夫 (2013年10月19日) 地域博物館の社会的役割. 「博物館と地方文化の発展」フォーラム, 台湾宜蘭省文化局・蘭陽博物館, 台湾宜蘭省蘭陽博物館 (台湾), [口頭発表].

布谷知夫 (2013年12月18日) 博物館概論. 文化庁マネジメント研修, 文化庁, 日比谷図書館 (東京都), [口頭発表].

布谷知夫 (2013年12月18～20日) 文化庁マネジメント研修, 文化庁, 日比谷図書館 (東京都), [コーディネーター].

布谷知夫 (2014年2月6・7日) 第3回文化庁エディケーター研修後期, 文化庁, 石神井ふるさと館 (東京都), [コーディネーター].

布谷知夫 (2014年2月7日) 全体のディスカッションとまとめ. 第3回文化庁エディケーター研修後期, 文化庁, 石神井ふるさと館 (東京都), [口頭発表].

布谷知夫 (2014年3月2日) タンポポ調査の意味. 第2回タンポポ調査西日本2015実行委員会, 大阪市立自然史博物館 (大阪市), [口頭発表].

【学会等の役職・運営・論文の査読など】

全日本博物館学会，運営委員。
全日本博物館学会，学会誌編集委員。
関西自然保護機構，運営委員。
博物館学雑誌，査読，2件。

【大学の講義・実習・学生の指導など】

2013年12月21日，滋賀県立大学，「博物館学概論A」。
2013年8月5日，三重県立博物館実習，博物館学概論。
静岡文化芸術大学，森可奈子，修士論文指導。
滋賀県立大学，白築佑希恵，卒業論文指導。

博物館事業に関する業績

【交流サービス事業】

琵琶湖博物館の主催事業

2013年7月14日，植物観察の考え方，琵琶湖博物館植物観察はしかけ，琵琶湖博物館，（外部協力者）。
2013年11月3日，堅田の植物，琵琶湖博物館植物はしかけ観察会，大津市堅田周辺，（外部協力者）。
2014年1月11日，展示室でスゴロク，琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」，琵琶湖博物館，（外部協力者）。
2014年1月25日，公園の植物，琵琶湖博物館植物はしかけ観察会，草津市ろくは公園，（外部協力者）。

他の博物館・機関等主催行事

2013年5月6日，新しい県立博物館を紹介します，三重県立博物館，三重県立博物館開館一年前大発表会，総合文化センター（三重県津市），講演。
2013年5月6日，博物館の利用と楽しみ方，対談・養老孟司・布谷知夫，三重県立博物館，三重県立博物館開館一年前大発表会，総合文化センター（三重県津市），対談。
2013年7月27日，自然の観察，NACS-J日本自然保護協会，自然観察指導員講習会，青梅カンポの宿（東京都青梅市），講演。
2013年7月28日，自然観察のテーマひろい，NACS-J日本自然保護協会，自然観察指導員講習会，青梅峰が淵公園（東京都青梅市），講演。
2013年10月5日，自然観察の進め方 私にもできる体験型自然観察の第一歩，和歌山県自然保護課・日本自然保護協会和歌山県自然公園指導員研修会，和歌山県立交流情報センタービッグユニー（和歌山市），講演。
2013年12月7・8日，ネイチャーフィーリング講習会，NACS-J日本自然保護協会・自然観察指導員講習会大阪連絡会，北千里公園青少年自然活動センター（大阪府吹田市），講演。
2013年12月24日，新博物館の見学，関西博物館研究会，三重県総合博物館（三重県津市），発表。
2014年1月6日，三重県総合博物館の計画の概要，西堀栄三郎探検の殿堂研修会，西堀栄三郎探検の殿堂（滋賀県東近江市），講演。
2014年1月12日，博物館と利用者組織との関係，北海道開拓記念館・開拓の村，博物館サポーターの役割を考える，開拓の村（札幌市），講演。
2014年1月21日，三重県総合博物館のあいさつ，桑名市商工会議所（三重県桑名市），講演。
2014年2月4日，新しい博物館の概要，豊橋市自然史博物館博物館協議会，三重県総合博物館（三重県津市），講演。
2014年2月11日，亀岡市新資料館検討フォーラム，亀岡市文化資料館，ギャラリーかめおか（亀岡市），講演。
2014年3月22日，みんなで地域の自然や歴史・文化を調べる博物館 MieMu，みえサイエンスネットワーク，みえサイエンスネットワーク成果報告フォーラム，鈴鹿工業高等専門学校（三重県鈴鹿市），講演。

館内の人事・館外活動に関すること

【館外の活動】

- 2013年4月1日～2014年3月31日，三重県立博物館，館長.
- 2013年3月31日～2014年3月31日，放送大学「博物館概論」，担当講師.
- 2013年4月1日～2014年3月31日，滋賀県立大学，非常勤講師.
- 2013年4月1日～2014年3月31日，文化庁研修企画運営委員会，座長.
- 2013年4月1日～2014年3月31日，和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会，委員・会長代理.
- 2013年4月1日～2014年3月31日，タカラフォールディング助成評価委員会，委員.
- 2013年4月1日～2014年3月31日，国立歴史民俗博物館展示更新検討委員会，委員.
- 2013年4月1日～2014年3月31日，守山市下之郷保存整備活用基本計画検討部会，委員.
- 2013年4月1日～2014年3月31日，日本ヨシ笛協会，顧問.
- 2013年4月1日～2014年3月31日，関西自然保護機構，運営委員.
- 2013年4月1日～2014年3月31日，日本自然保護協会普及委員・自然観察指導員講習会，講師.
- 2013年4月1日～2014年3月31日，NACS-J自然観察指導員大阪連絡会，代表.
- 2013年7月1日～2014年3月31日，鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会，委員.
- 2014年1月16日～2014年1月27日，大阪市立博物館指定管理者選定委員会，委員長.

印刷物

【学術論文】

Nakajima, T. and Nakajima, M. (2013) Evidence for the oldest cultivation of common carp in the world with the analysis of pharyngeal remains of common carp. In *Abstracts of the First International Symposium on the Jiahu Culture*.

廣田大輔・中島経夫 (2014) 魚類標本におけるグリセリン浸透法の検討. *Naturalistae*, 18 : 47-52.

【専門分野の著作】

中島経夫 (2014) 新石器時代における漁撈と稲作の関係 コイ科魚類咽頭骨および咽頭歯遺存体の分析から. 中島経夫・榎林啓介 編, *水辺エコトーンにおける魚と人：稲作起源論への新しい方法*, ふくろう出版, 岡山 : 13-34.

中島経夫・榎林啓介 編 (2014) *水辺エコトーンにおける魚と人：稲作起源論への新しい方法*. ふくろう出版, 岡山県 : 175p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Nakajima, T. and Nakajima, M. (2013年11月1日) Evidence for the oldest cultivation of common carp in the world with the analysis of pharyngeal remains of common carp. The First International Symposium on the Jiahu Culture, Luohe City, Henan Prov. (China).

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤 B) 「水辺エコトーンにおける魚と人：稲作起源論への新しい方法」 (研究代表者：中島経夫), 研究代表者 (2010～2013年度).

科学研究費補助金 (基盤 A) 「中国における都市の生成：良渚遺跡群の学際的総合研究」 (研究代表者：中村慎一), 連携研究者 (2010～2013年度).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2014年4月1日～, 岡山理科大学生物地球学部, 教授.

2014年4月1日～, 岡山理科大学大学院総合情報学研究所, 教授.

印刷物

【専門分野の著作】

前畑政善 (2013) 魚はなぜ田んぼにやってくるのか. *海洋と生物*, 35(3), 生物研究社: 208-214.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会, 自然保護委員会, 委員, 2001年6月～.

Natural History Bulletin of The Siam Society, 査読, 1件.

魚類学雑誌, 査読, 1件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2011年4月～2014年3月, 長浜市(滋賀県)文化的景観保存活用委員会, 委員.

2000年5月～, 滋賀県生きもの総合調査委員会, 委員.

2008年6月～, 指定希少野生動物種および指定外来種に関する選定専門委員.

2013年4月～2014年3月, みずすまし専門部会, 部会員.

2011年5月～2014年3月, 外来種中国産オオサンショウウオ対策検討会(京都市), 委員

2013年6月～2014年3月, 京都府建設交通部河川課畑川ダム環境保全検討委員会, 委員.

2013年6月～2014年3月, 農村まるごと保全推進委員会, 委員.

2010年～, ハリヨ問題検討会, 委員.

2013年11月～2014年11月, 近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会, 委員.

2013年7月～2014年3月, 日吉ダム冷濁水対策検討会, 委員.

2013年5月～2014年3月, 琵琶湖および周辺河川環境に関する専門家グループ制度, 委員.

2013年7月～2014年6月, 希少野生動植物種, 保存推進員.

2013年8月～2014年3月, 絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会, 検討員.

2012年4月～, 神戸学院大学人文学部, 教授.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

天野一葉 (2013年9月14日) 給餌を受ける可能性のある外来鳥類, 日本鳥学会 2013年度大会 (自由集会: 外来生物の定着を後押しする人為的な餌供給 (鳥類への餌やりを考える第5回)), 日本鳥学会, 名城大学天白キャンパス (名古屋市天白区), [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2013年7月6日, 夜の昆虫観察会, あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!, 琵琶湖博物館, 補助.

2014年1月18日, 鳥の観察会, 観察会, 瀬田川・大津市, 補助, (ホタルの学校・琵琶湖博物館共催).

他の博物館・機関等主催行事

2013年5月18日, 川の中の生きものしらべ, ホタルの学校, 観察会, 千丈川 (大津市), 補助.

2013年6月3日, エコクラブでの鳥類観察, 草津市, 環境学習支援事業「草津小学校ワークショップ」, 草津小学校 (草津市), 講師.

2013年6月9日, 千丈川の水生昆虫についての講話, ホタルの学校, ほたるの集い, 千丈川 (大津市), 補助.

印刷物

【専門分野の著作】

植田文雄（2013）湖の恵み—琵琶湖の漁業史②. 佐加太, 38, 米原市教育委員会：2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

植田文雄（2013年5月12日）縄文の大集落・正楽寺遺跡. いぶき歴史アカデミー, 伊吹山文化資料館, 伊吹山文化資料館（滋賀県米原市）, [口頭発表].

植田文雄（2013年9月25日）前方後方墳の謎. 米原市歴史講座, 伊吹山文化資料館, 伊吹山文化資料館（滋賀県米原市）, [口頭発表].

植田文雄（2013年10月23日）魏志倭人伝と古代日本人. 米原市歴史講座, 伊吹山文化資料館, 伊吹山文化資料館（滋賀県米原市）, [口頭発表].

植田文雄（2013年11月20日）北近江の古代を深読みする. 米原市歴史講座, 伊吹山文化資料館, 伊吹山文化資料館（滋賀県米原市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金(基盤 C)「内水面の定置漁業の考古・民俗学的研究」(研究代表者：植田文雄), 研究代表者(2009～2013年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 研究部長.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006年度～, 東近江市史編纂委員会, 調査執筆委員.

2008年度～, 佛教大学, 非常勤講師.

印刷物

【学術論文】

柏尾珠紀 (2013) 地域史から読み解く地域の環境再生—滋賀県守山市の調査より—, *滋賀大学環境総合センター研究年報*, 10, 滋賀大学: 13-25.

【専門分野の著作】

柏尾珠紀 (2013) 地域の歴史と水辺の再生 水紀行環境用水万華鏡 (7) 田園都市水辺ネットワーク—守山市域 (滋賀県)—, *環境技術*, 42, 環境技術学会: 304-305.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

柏尾珠紀 (2013年6月29日) ニゴロブナフォーラム—ニゴロブナでつながる人々と琵琶湖—, 滋賀県農政水産部 農村振興課にぎわう農村推進室 (魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会), 草津市市民交流プラザ (滋賀県草津市), [口頭発表・パネリスト].

柏尾珠紀 (2014年2月15日) 滋賀の暮らしを次世代に伝える, 滋賀大学環境総合研究センター第10回年次シンポジウム・滋賀の食事文化研究会第138回研究会, 滋賀大学, 滋賀大学大津サテライト会議室 (滋賀県大津市), [総合討論・パネルディスカッション].

柏尾珠紀 (2014年3月20日) 環境配慮型農業 魚のゆりかご水田の取り組みの背景とその波及効果, 関西若手ルーラル研究会第23回研究会, 関西若手ルーラル研究会, 滋賀大学大津サテライト会議室 (滋賀県大津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

滋賀大学環境総合研究センター「統合的湖沼流域管理においてハートウエア (心・水文化・記憶) が果たす機能の研究—琵琶湖の環境保全を担う新しい公共性を体現した高度人材の効果的育成に向けて」(研究代表者: 梅澤直樹), 研究分担者 (2012~2014年度).

科学研究費補助金「森林・林業における女子力の解明とジェンダー主流化」(研究代表者: 中道仁美), 研究分担者 (2013~2015年度).

大成建設研究基金「環境用水の復活を通じた都市水路の保全・自然再生の研究による、地域の水辺環境の維持保全等」(研究代表者: 秋山道雄), 共同研究者 (2013年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013年10月8日, 滋賀大学, 「地域社会環境」.

2014年2月17日~2月20日, 高知大学, 「国際社会特殊講義IV」.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2009年～，京都府中山間地域等直接支払制度委員会，委員.

2011年7月～，兵庫県立高砂南高等学校学校評議会，委員.

2011年4月～，京丹後市、丹後広域振興局、第2次ふるさと協援活動事業，調印.

2013年4月～，滋賀大学客員教授.

印刷物

【専門分野の著作】

- 北村美香（2013）2013年度第1回研究会登戸研究所資料館見学会報告．学会ニュース，106，全日本博物館学会：4-5.
- 北村美香他（2013）座談会「今、博物館団体に求められる底力（1）」．*博物館研究*，12（48），日本博物館協会：6-17.
- 北村美香（2013）2012・13年の展示「滋賀県平和祈念館 第5回企画展示学童疎開のモノ語り」．*展示学*，51，日本展示学会：84.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 北村美香（2013年6月15日）利用者が活用しやすい展示をめざして．日本展示学会第32回研究大会，日本展示学会，兵庫県立人と自然の博物館（兵庫県三田市），[口頭発表].
- 日高昭子・北村美香（2013年6月29日）博物館資料の新しい可能性について．全日本博物館学会第39回研究大会，全日本博物館学会，明治大学（東京都），[口頭発表].
- 北村美香（2013年7月19日）利用者が活用しやすい展示をめざして．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表].
- 北村美香（2014年3月10日）現場からみる博物館教育理論と実践化の現状．2013年度第6回研究会博物館教育研究会，全日本博物館学会，吹田市立博物館（大阪府吹田市），[口頭発表・パネリスト].

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費補助金（基盤 S）「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」（研究代表者：小川義和），研究協力者（2013～2016年度）．

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2013年8月7日～8月15日，博物館実習1名受け入れ（滋賀県平和祈念館）．
- 2013年6月5日，滋賀県立大学人間文化学部，「教育観察実習」．
- 2013年7月～2014年1月，辻優美（滋賀県立大学），卒業論文指導．
- 2013年7月～2014年1月，白築佑希恵（滋賀県立大学），卒業論文指導．
- 2013年7月～2014年1月，宮岡雄大（大谷大学），卒業論文指導．
- 2013年9月～2014年3月，びわこ学院大学子ども学科，「滋賀の環境」．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2013年7月31日，夜のワークショップ「骨で遊ぼう」，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館・滋賀県中学校教育研究会理科部会，琵琶湖博物館，指導．

他の博物館・機関等主催行事

2013年7月28日，紙芝居，博物館夏祭り，博物館夏祭り実行委員会，ビバシティ彦根（彦根市），講師・実行委員。

2013年8月24日，滋賀県の空襲について，大津市歴史博物館，ミニ企画展関連講座（第562回れきはく講座），大津市歴史博物館（大津市），講師。

2013年11月16日，博物館ボランティアについて，滋賀県平和祈念館ボランティアの会，滋賀県平和祈念館ボランティア勉強会，滋賀県平和祈念館（東近江市），講師。

2013年11月23日，東日本震災支援（東北遠征団）子どもワークショップ，特定非営利活動法人大阪自然史センター，陸前高田市米崎コミュニティーセンター（岩手県），講師。

2013年11月24日，東日本震災支援（東北遠征団）子どもワークショップ，特定非営利活動法人大阪自然史センター，下閉伊郡山田町立北小学校（岩手県），講師。

2014年1月26日，博物館における資料について，滋賀県平和祈念館ボランティアの会，滋賀県平和祈念館ボランティア勉強会，滋賀県平和祈念館（東近江市），講師。

メディアへの協力

2013年8月6日，NHK総合，あさイチ，コメンテーター出演。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県平和祈念館，学芸員。

博物館夏祭り実行委員会，実行委員。

印刷物

【専門分野の著作】

- 黒岩啓子 (2013) 学芸員養成課程受講生の博物館認識の実態と講義計画デザイン. 第39回研究大会発表要旨集, 全日本博物館学会: 13-14.
- 黒岩啓子 (2013) 博物館学の発展方策と人材養成. 第1回韓・日博物館交流協力と博物館経営マーケティング国際フォーラム発表要旨集, 韓国博物館学会: 29-34.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 黒岩啓子 (2013年6月29日) 学芸員養成課程受講生の博物館認識の実態と講義計画デザイン. 第39回研究大会, 全日本博物館学会, 明治大学(東京都千代田区), [口頭発表].
- 黒岩啓子 (2013年12月14日) 博物館学の発展方策と人材養成. 第1回韓・日博物館交流協力と博物館経営マーケティング国際フォーラム, 韓国博物館学会・韓国博物館経営学会, 済州錦湖リゾート(韓国済州島), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費補助金「公立ミュージアムでの評価導入・運営の検証と評価パッケージの提案」(研究代表者: 佐々木亨 北海道大学), 研究協力者(2012年11月~2014年3月).
- 国立民族学博物館「文化資源プロジェクト博学連携教員研修ワークショップ」(研究代表者: 小林繁樹), 共同研究員(2012~2013年度).
- 笹川科学研究助成(実践研究)「東近江市で生まれた有形・無形の先人の遺産を次代へ伝え, 未来のまちづくりを担う人材を育むためのシステムの構築」(研究代表者: 上平千恵), アドバイザー(2013年4月~).
- 文化庁「平成25年度大学を活用した文化芸術推進事業」(研究代表者: 緒方 泉), カリキュラム開発指導助言(2014年2月25日~27日).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本ミュージアム・マネジメント学会, 基礎部門研究部会幹事, 2009年4月~.
- 日本ミュージアム・マネジメント学会, 近畿支部幹事, 2009年4月~.
- 全日本博物館学会, 国際フォーラム開催実行委員, 2013年11月~2014年1月.
- 全日本博物館学会, 国際フォーラム「高齢化社会における博物館と社会福祉」, 東京国立博物館(東京都台東区), 講演通訳, 2014年1月5日.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2012年4月~, 奈良女子大学, 「博物館教育論」.
- 2012年4月~, 京都光華女子大学, 「博物館教育論」.
- 2012年9月~, 関西学院大学, 「博物館教育論」.
- 2013年4月~, 奈良女子大学, 「博物館情報・メディア論」.
- 2013年10月~2014年3月, 華頂短期大学, 「博物館情報・メディア論」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2013年8月5日，博物館＝創意工夫で広がる学びの資源，大阪府教育センター，自主研修・初任者研修プログラム
2013，国立民族学博物館（大阪府吹田市），講演。

2013年8月6日，ワークショップ2013 in みんなく「学校と博物館でつくる国際理解教育－センセイもつくる・あそぶ・おどる・たのしむー」，国立民族学博物館，博学連携教員研修，国立民族学博物館（大阪府吹田市），
講評。

【展示活動】

他博物館・機関の活動

吹田市立博物館，2012年2月～2013年8月，平成25年度夏季展示「あそび大はっけん～みんなで博物館へ行こう～」，展示アドバイザー。

奈良文化財研究所 平城宮跡資料館，2013年6月～，展示評価，来館者調査企画実施。

【企画調整活動】

JICA 博物館学コース，Museum Evaluation Methods, Evaluation of the LBM，講師，2013年5月15日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2013年12月13日～16日，韓国濟州島，第1回韓・日博物館交流協力と博物館経営マーケティング国際フォーラム
に出席および口頭発表。

【館外の活動】

2003年9月～，日本ミュージアム・マネージメント学会，会員。

2003年9月～，全日本博物館学会，会員。

2005年4月～，関西博物館研究会，会員。

2006年2月～，日本国際理解教育学会，会員。

2009年4月～，日本ミュージアム・マネージメント学会基礎部門研究部会，幹事。

2009年4月～，日本ミュージアム・マネージメント学会近畿支部，幹事。

2010年10月～，日本展示学会，会員。

2012年3月～，文化遺産国際協力コンソーシアム，会員。

2012年4月～，国立民族学博物館文化資源共同研究員。

2012年11月～，東近江市博物館グループ 博物館評価ワーキンググループ，外部協力者。

2012年12月～，三重県立博物館 博物館評価ワーキンググループ，外部協力者。

2013年7月～，東近江市西堀榮三郎記念探検の殿堂（滋賀県東近江市），運営協議会委員。

印刷物

【学術論文】

Suzuki, T. G., Maeda, M. and Furuya, H. (2013) Two new Japanese species of Gastrotricha (Chaetonotida, Chaetonotidae, *Lepidodermella* and Dichaeturidae, *Dichaetura*), with comments on the diversity of gastrotrichs in rice paddies. *Zootaxa*, 3691 (2), Magnolia Press: 229-239.

鈴木隆仁 (2014) Biology of chaetonotids (Gastrotricha)-Taxonomy, morphology and culture system. イタチムシの生物学—分類・形態・培養. 博士論文, 大阪大学大学院理学研究科.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

鈴木隆仁・古屋秀隆 (2013年6月9日) 屋久島より見つかったイタチムシの未記録種の報告. 第49回日本動物分類学会宮城大会, 日本動物分類学会, 宮城教育大学 (宮城県仙台市青葉区), [ポスター発表].

鈴木隆仁・古屋秀隆 (2013年9月26日) 滋賀県水田におけるイタチムシの多様性. 第84回日本動物学会岡山大会, 日本動物学会, 岡山大学津島キャンパス (岡山県岡山市), [口頭発表].

鈴木隆仁 (2013年12月20日) 水田のイタチムシの多様性と起源. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].

鈴木隆仁 (2013年12月22日) 水田のイタチムシはどこから来るのか. 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

メディアへの協力

2013年6月23日, 産経新聞, 大きな湖 小さな生命 ~琵琶湖からの情報~[Ⓜ] 研究者の尽きぬ努力と好奇心, 取材対応.

オンライン 2013年7月14日, <http://www.iza.ne.jp/news/newsarticle/natnews/topics/669176/>, 「閉じられた生態空間・琵琶湖で微小生物を追う日英の研究者たち」.

印刷物

【専門分野の著作】

辻川智代 (2013) 滋賀県周辺の「地機」. *はたやブックレット*, 2, ゆめおーれ勝山: 51-68.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤 C) 「内水面定置漁業の考古・民俗学的研究」(研究代表者: 植田文雄), 共同研究者 (2013 年度).

日本常民文化研究所共同研究「民具の名称に関する基礎的研究」(研究代表者: 神野善治), 共同研究者 (2013 年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013 年, 龍谷大学国際文化学部, 民俗学入門「琵琶湖の漁業」・「滋賀県の農業」・「滋賀県の機織り」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営, 近江はたおり探検隊, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014 年 3 月 4 日～3 月 23 日, わたしの自宅は博物館～西川嘉廣氏とヨシ博物館～, 展示・パネル作成.

印刷物

【学術論文】

河野俊夫・財津千穂・中野聰志・山下信彦 (2013) 方解石を用いた複屈折による像の色変化の観察. *地球科学*, 67, 地学団体研究会: 215-220.

中野聰志 (2013) 京都東南部地域の地質 第4章白亜紀深成岩類. *地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅)*, 産業技術総合研究所 地質調査総合センター: 22-54.

中野聰志・大橋義也・石原舜三・河野俊夫 (2013) 滋賀県琵琶湖南方・田上花崗岩体中の細粒暗色包有岩. *地質調査研究報告*, 64, 産業技術総合研究所 地質調査総合センター: 25-49.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

角谷安華・河野俊夫・中野聰志・西村彰子・星野美保子 (2012) 滋賀県田上花崗岩体ペグマタイト中のジルコン: 産状・形態・組織・化学組成. *地質調査研究報告*, 63, 産業技術総合研究所 地質調査総合センター: 203-226.

中野聰志・増森彩香・河野俊夫・澤田一彦・真庭香奈恵・牧野州明 (2012) パーソナルコンピューターとスキャナーを利用した鉱物の色測定. *滋賀大学教育学部紀要*, 62, 滋賀大学: 47-65.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中野聰志 (2014年3月14日) 滋賀の花崗岩を叩いてきてー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

周琵琶湖花崗岩団体研究グループ「滋賀県下花崗岩質岩体の研究」(研究代表者: 多賀 優), 研究分担者 (2013年度).

ペグマタイト研究会「滋賀県下のペグマタイト研究」(研究代表者: 河野俊夫), 研究分担者 (2013年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

産業技術総合研究所地質調査総合センター, 客員研究員.

地学団体研究会, *地球科学*, エディター, 2008年～.

日本鉱物科学会, *岩石鉱物科学*, 査読, 1件.

日本鉱物科学会, *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, Original article, 査読, 1件.

地学団体研究会, *地球科学*, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013年7月10日, 滋賀大学, 「平和教育」分担タイトル「Fukushima」.

【受賞など】

地学団体研究会京都支部 研究奨励賞, 2013年3月, 「中野聰志 (2013) 京都東南部地域の地質、第4章白亜紀深成岩

類. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 産業技術総合研究所 地質調査総合センター : 22-54」.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

岩石・鉱物試料・資料, 搬入・整理・標本登録作業前予備作業.

印刷物

【一般向けの著作】

中野正俊 (2014) 既存のとらえ方を活かし合い、科学的な見方や考え方を育む学習の工夫. 平成 25 年度滋賀県小学校教育研究会理科部会研究紀要, 滋賀県教育研究会理科部会 : 37-38.

中野正俊 (2014) 活用型学力と学びの有用感を高める理科学習. 平成 25 年度野洲市教職員全員研修会教育研究奨励賞受賞論文要旨集, 野洲市教育研究所 : 1-3.

中野正俊 (2014) 科学的な思考力や表現力を高めるための教材作りと言語活動. 平成 26 年度月報「滋賀教育」, 5 月号 (723), 滋賀県教育会 : 2.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤 C) 「防災・エネルギー教育を推進する博物館・学校・地域連携モデルの構築と評価」 (研究代表者 : 中野正俊), 研究代表者 (2012~2014 年度).

【受賞など】

平成 25 年度第 29 回東書教育賞 入選, 2014 年 1 月 21 日, 全国学力・学習状況調査から得られた課題を改善する小学校理科の一実践.

平成 25 年度滋賀県教育会教育研究 奨励賞, 2014 年 3 月 13 日, 児童の思考力・表現力を養う学校地域等連携…琵琶湖集水域に住む人々のくらしから考える環境学習….

平成 25 年度野洲市教育研究所教育研究奨励 最優秀賞, 2014 年 4 月 8 日, 活用型学力と学びの有用感を高める理科学習.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

林 博通（2014年1月17日）大津宮造営基準軸の検討. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

条里制・古代都市研究会, 役員（庶務）.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

湖底遺跡調査の資料整理.

印刷物

【学術論文】

舟尾俊範・沢田裕一（2013）水田地帯の小河川へのナマズ *Silurus asotus* の侵入および繁殖について. *魚類学雑誌* 60(1), 日本魚類学会 : 43-48.

Funao, T., Nishida, T., Kurashige, Y. and Sawada, H. (2014) Different suitability of improved irrigation channels as reproductive sites for Cyprininae and *Silurus asotus*. *SCIENTIFIC REPORTS*, 4, Nature publishing group: Article number 3588.

舟尾俊範・高倉耕一・西田隆義・沢田裕一（2014）標識再捕獲調査とベイズモデルによるナマズ *Silurus asotus* の繁殖集団の動態の推定. *魚類学雑誌*, 61(1), 日本魚類学会 : 15-26.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

舟尾俊範（2013年11月15日）水田地帯の水路における魚類の成長と移動. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2013年前期, 滋賀県立大学, 「環境フィールドワークⅡ」.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2013年9月26日・30日, 日野川流域探検隊, アドバイザー.

印刷物

【学術論文】

- Htar, S.H., Zhu, W., Huang, J.Y. and Philip N.N. (2013) Effect of rising atmospheric CO₂ on sediment and water ¹⁵N interactions in experimental riparian wetland. *Environmental Earth Sciences*, 70, Springer : 3185-3195.
- Lin, C., Zhu, W. and Han, J. (2013) Strength and leachability of solidified sewage sludge with different additives. *Journal of Materials in Civil Engineering*, 25, American Society of Civil Engineers : 1594-1601.
- Xiao, M., Zhu, W., Li, M., Sun, Q.Q., Philip, N.N. and Tan, X. (2013), The influence of water oscillation on the vertical distribution of *Microcystis* colonies of different sizes. *Fresenius Environmental Bulletin*, 22, Parlar Scientific Publications : 3511-3518.
- Li, M., Zhu, W., Gao, L., Huang, J.Y. and Li, L. (2013) Seasonal variations of morphospecies composition and colony size of *Microcystis* in a shallow hypertrophic lake (Lake Taihu, China). *Fresenius Environmental Bulletin*, 22, Parlar Scientific Publications : 3474-3483.
- Li, M., Zhu, W., Dai, X.X. and Li, X.Y. (2013) Effects of linear alkylbenzene sulfonate on extracellular polysaccharide content and cells per particle of *Microcystis aeruginosa* and *Scenedesmus obliquus*. *Fresenius Environmental Bulletin*, 22, Parlar Scientific Publications : 1189-1194.
- Li, M., Zhu, W. and Sun, Q. (2013) Solubilisation of mucilage induces changes in *Microcystis* colonial morphology. *New Zealand Journal of Marine and Freshwater Research*, 48, Royal Society of New Zealand : 38-47.
- Min, F.L., Zhu, W. and Han X.R. (2013) Filter cake formation for slurry shield tunneling in highly permeable sand. *Tunnelling and Underground Space Technology*, 38, International Tunnelling Association : 423-430.
- Li, M., Zhu, W., Gao, L. and Lu, L. (2013) Changes in extracellular polysaccharide content and morphology of *Microcystis aeruginosa* at different specific growth rates. *Journal of Applied Phycology*, 25, Springer : 1023-1030.
- Htar, S.H., Zhu, W. and Huang J.Y. (2013) Nitrogen transformation as influenced by soil microbial nitrogen under carbon dioxide enrichment induced in created riparian wetlands. *Communications in Soil Science and Plant Analysis*, 44, Taylor & Francis : 2042-2054.
- Xu, Z.R., Zhu, W., Gong, M. and Zhang, H.W. (2013) Direct gasification of dewatered sewage sludge in supercritical water. Part 1: Effects of alkali salts, *International Journal of Hydrogen Energy*, 38, Hydrogen Energy Publications : 3963-3972.
- Hua, G.F., Li, L., Zhao, Y.Q., Zhu, W. and Shen, J.Q. (2013) An integrated model of substrate clogging in vertical flow constructed wetlands. *Journal of Environmental Management*, 119, Elsevier : 67-75.
- Zhu, W. and Zhao X.L. (2013) Emission characteristics of PCBs of combustion of sludge-coal water slurry in fluidized bed. *Applied Mechanics and Materials*, 340, Trans Tech Publications : 382-387.
- Sun, X.H., Zhu, W., Qian, X.D. and Xu, Z.R. (2013) Exploring cementitious additives for sewage sludge pretreatment with high early-strength from the perspective of the rapid generation of nonevaporable water. *Journal of Materials in Civil Engineering*, American Society of Civil Engineering : published online.

- 朱伟·闵凡路·吕一彦·王升位·孙政·张春雷·李磊(2013)“泥科学与应用技术”的提出及研究进展. *岩土力学*, 34, 中国科学院武汉岩土力学研究所:3041-3054.
- 李林·朱伟(2013)流动条件下四尾栅藻对铜绿微囊藻生长的影响. *重庆大学学报*, 36(7), 重庆大学:121-126.
- 张楠·朱伟·王亮·吕一彦·周宣兆(2013)吹填泥浆中土颗粒沉降-固结规律研究. *岩土力学*, 34, 中国科学院武汉岩土力学研究所:1681-1686.
- 王亮·朱伟·茅加峰·何洪涛·张楠·谢健(2013)使用改进的分层抽取法研究淤泥沉积过程中的强度变化. *岩土工程学报*, 35, 中国科学技术协会:916-921.
- 闵凡路·朱伟·魏代伟·夏胜全(2013)泥水盾构泥膜形成时开挖面地层孔压变化规律研究. *岩土工程学报*, 35, 中国科学技术协会:722-727.
- 郭丽丽·朱伟·李明(2013)水中主要阳离子对铜绿微囊藻生长及多糖的影响. *生态环境学报*, 22, 广东省科学技术协会:1358-1364.
- 赵晓莉·朱伟·徐德福·邱林倩·张超·杨创(2013)污泥/煤流化床混烧底灰中的重金属毒性研究. *南京信息工程大学学报(自然科学版)*, 5, 南京信息工程大学期刊社:244-250.
- 魏代伟·朱伟·闵凡路(2013)泥水盾构泥膜形成过程中超静孔隙水压力随时间的变化. *水利与建筑工程学报*, 49, 西北农林科技大学:36-40.
- 陈梦银·朱伟·董婵(2013)基于植物昼夜释氧变化规律的复合垂直流人工湿地氮形态. *湖泊科学*, 25, 中国科学院南京地理所;中国海洋湖泊学会:392-397.
- 罗永刚·朱伟·李明·代晓炫·肖曼(2013)群体大小对微囊藻细胞昼夜垂向迁移的影响. *湖泊科学*, 25, 中国科学院南京地理所;中国海洋湖泊学会:386-391.
- 孙政·朱伟·贺敏杰(2013)污水厂污泥固结特性研究. *科学技术与工程*, 13, 中国技术经济学会:3146-3150.
- Li, M., Zhu, W. and Gao, L. (2014) Analysis of cell concentration, volume concentration, and colony size of *Microcystis* via laser particle analyzer, *Environmental Management*, Springer US : published online.
- Gong, M., Zhu, W., Xu, Z. R., Zhang, H. W. and Yang, H. P. (2014) Influence of sludge properties on the direct gasification of dewatered sewage sludge in supercritical water. *Renewable Energy*, 66, World Renewable Energy Network : 605-611.
- 徐骏·朱伟(2014)污水处理厂脱水污泥中重金属的分布规律. *水资源保护*, 30, 中国核心学术期刊:62-66.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2014年3月22日,太湖の水環境をどう捉えるか,日中共同博物館・大学講演会「魚米之郷を語る—太湖・洞庭湖の水辺の暮らし—」,琵琶湖博物館,講演.

総合研究・共同研究による印刷物

- Hoshina, R., Sato, E., Shibata, A., Fujiwara, Y., Kusuoka, Y. and Imamura, N. (2013; 電子出版は6 Dec 2012) Cytological, genetic, and biochemical characteristics of an unusual non-*Chlorella* photobiont of *Stentor polymorphus* collected from an artificial pond close to the shore of Lake Biwa, Japan. *Phycological Research*, 61, 日本藻類学会, Wiley Online Library : 7-14.
- Kakioka, R., Kokita, T., Kumada, H., Watanabe, K. and Okuda, N. (2013) A RAD-based linkage map and comparative genomics in the gudgeons (genus *Gnathopogon*, Cyprinidae). *BMC Genomics*, 14 (32), BioMed Central : doi:10.1186/1471-2164-14-32.
- 金尾滋史 (2013) 滋賀県東部のため池におけるオグラヌマガイの発見とその経緯. *ちりぼたん*, 42(1-4), 日本貝類学会 : 57-62.
- 金尾滋史 (2013) 鑑賞魚店における日本産淡水魚類の販売状況と課題. In: 日本魚類学会保護委員会編, *見えない脅威 “国内外来魚” どう守る地域の生物多様性*, 東海大学出版会, 秦野市 : 169-178.
- 金尾滋史・大塚泰介 (2013) 湖国・滋賀における水田生態系研究の現在、過去、未来. *海洋と生物*, 35 (4), 生物研究社 : 426-432.
- Okuda, N., Watanabe, K., Fukumori, K., Nakano, S.-I. and Nakazawa, T. (2013) Biodiversity in aquatic systems and environments: Lake Biwa. Springer : 91.
- 渡辺勝敏 (2013) 保全の単位：考え方、実践、ガイドライン. In: 日本魚類学会保護委員会 編. *見えない脅威 “国内外来魚” どう守る地域の生物多様性*, 東海大学出版会, 秦野市 : 229-231.
- Suzuki, T. G., Maeda, M. and Furuya, H. (2013) Two new Japanese species of Gastrotricha (Chaetonotida, Chaetonotidae, *Lepidodermella* and Dichaeturidae, *Dichaetura*), with comments on the diversity of gastrotrichs in rice paddies. *Zootaxa*. 3691 (2), Magnolia Press : 229-239.
- Komiya, T., Fujita-Yanahibayashi, S. and Watanabe, K. (2014; 電子出版は7 Sep 2013) Multiple colonizations of Lake Biwa by *Sarcocheilichthys* fishes and their population history. *Environmental Biology of Fishes*, 97, Springer: 741-755, doi10.1007/s10641-013-0176-9.
- Mishina, T., Takada, M., Takeshima, H., Nakano, M., Tabata, R., Nishida, M. and Watanabe, K. (2014). Molecular identification of species and ploidy of *Carassius* fishes in Lake Biwa, using mtDNA and microsatellite multiplex PCRs. *Ichthyological Research*, 61:日本魚類学会, Springer : 169-175, doi:10.1007/s10228-014-0388-9.
- Chen, I.-S., Liao, C.-R. and Shao, K.-T. (2014) The complete mitochondrial genome of Taiwanese barbel steed, *Hemibarbus schlegelii* (Günther) (Teleostei: Cyprinidae). *Mitochondrial DNA*, doi:10.3109/19401736.2013.855914.
- Funao, T., Nishida, T., Kurashige, Y. and Sawada, H. (2014) Different suitability of improved irrigation channels as reproductive sites for Cyprininae and *Silurus asotus*. *Scientific Reports*, 4 (3588), Nature Publishing Group, doi:10.1038/srep03588.

【これまでの業績集に掲載されていない論文】

- Urabe, M., Nishimura, T. and Shimazu, T. (2012) Taxonomic revision of three species of the genus *Genarchopsis* (Digenea: Hemiuroidea: Derogenidae) in Japan by molecular phylogenetic analyses. *Parasitology International*, 61, Australian Society for Parasitology, Elsevier : 554-560.
- Blakemore, R. J. (2012) Japanese earthworms revisited a decade on. *Zoology in the Middle East, Supplementum*, 4 [*Advances in Earthworm Taxonomy V (Annelida: Oligochaeta)*, *Proceedings of the 5th International Oligochaeta Taxonomy Meeting, Beatenberg, Switzerland, 11-15 April, 2011*], Kasperek Verlag : 15-22.

2013 年度の研究活動をふり返って

琵琶湖博物館中長期基本計画では、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかることを目標にしている。今年度は、地域の人びととともに行う研究調査成果の公表8件、統合研究による成果を活かした共同研究1件、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業20件が目標値であった。地域の人びととともに行う研究については、水田生物研究会などで20件の研究成果を公表し目標値を達成した。また、統合研究による成果を活かした共同研究、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業についても目標値を達成した。科学研究費などの外部資金の獲得を組織的に取り組んでおり、今年度科学研究費については、新規に5件が採択され、採択率26.3%であった。継続もあわせると13件が採択されており、都道府県立の博物館では一位の採択件数である。今後も科研費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していくとともに、新規の採択率をあげていく必要がある。

研究の発信は、学術論文21件、専門分野の著述57件、一般向けの著述40件、学会発表は53件であった。研究成果の発信数は全体的に昨年度の数字を下回った。新琵琶湖博物館創造の基本計画の策定と重なったことが原因の一つとして考えられるが、事業と研究のバランスをとりながら研究成果の発信を続けていく必要がある。中日新聞連載コラム「湖岸より」や毎日新聞連載コラム「ここだけの湖の話」などに執筆連載するなど、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えることが重要であり、今後も継続させ、その充実を図っていきたい。県が海外に向け琵琶湖情報発信ツールの一つとして『Lake Biwa Guidebook』を発行し、当館から8人の学芸職員が専門分野を担当した。今後更に、海外へ琵琶湖の価値を発信する活動も継続していくことが大切である。

また、本年度は昨年度の新琵琶湖学セミナーに続き、新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性」と題したやや専門的な一般向けの講座を開催した。今回のセミナーは、企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」と連動して、生物多様性についての理解をより深めてもらうことを目指して実施した。9月、10月、11月の3回に渡って、内部・外部の講師による6本の発表を行った。11月の最終回では「生きものめぐみ、今・むかし」というテーマでシンポジウムを行った。合計146名の参加があり、好評であった。今後も、湖と人の関わりについて視点を変えて探求していくセミナーの開催が望まれる。

研究部長 八尋克郎

琵琶湖博物館業績目録 第 18 号

2013 年度

平成 26 年（2014 年）11 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091
電話 077-568-4811(代)